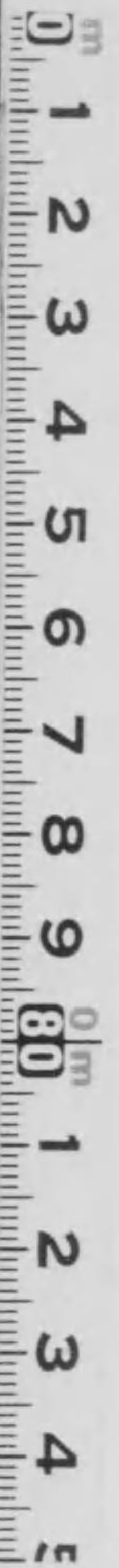


276

364



始



スندا育教

重政権御・六ト田内  
著 共



阪大・京東

社會資合式株書圖洋東

兌 發

大正

14.8.17

内交

(一)

ルイタスのスندگان著

(ロ)

(イ)



(ニ)



(ハ)



証	御	田	内
田	内	証	御

(二)

(一法步) ルリチツコス (イ)



(二一法步) 進行形變 (ロ)



(三)

(三一法步) スンダルーホーメ (イ)



(四一法步) 上 同 (ロ)

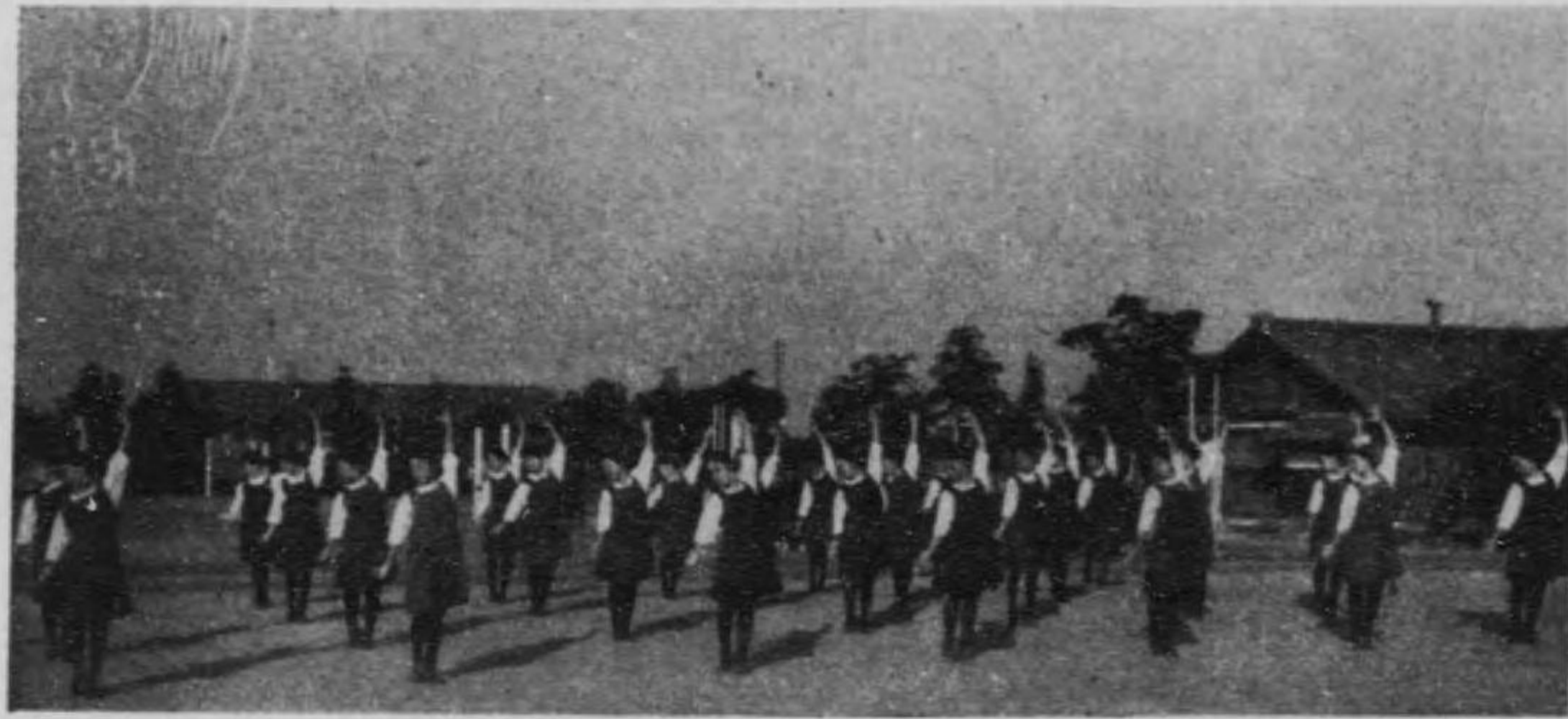


( 四 )

(一法步) 舟小の上湖 (イ)



(八法步) スンダグツロク (ロ)



(八法步) グツゲタスプロ (ハ)

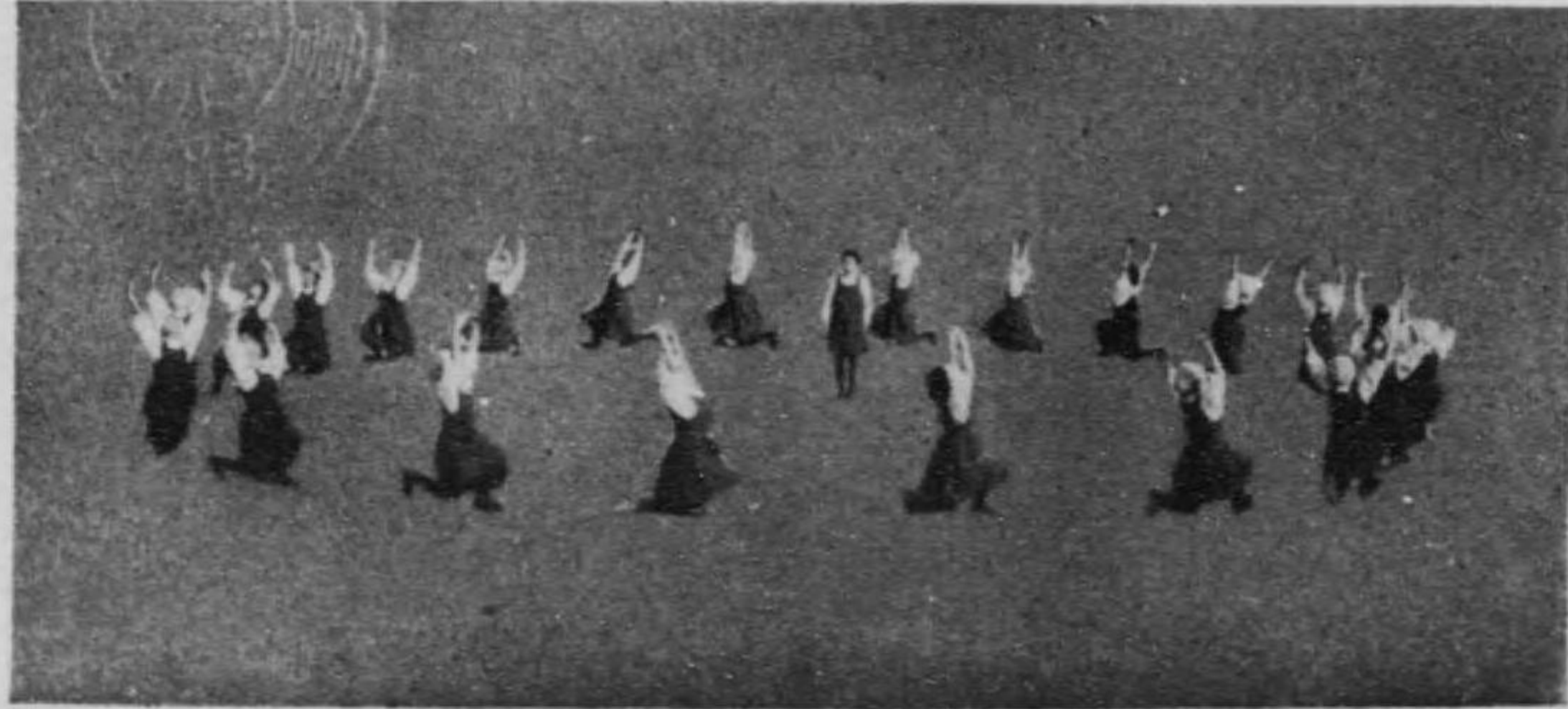


(五)

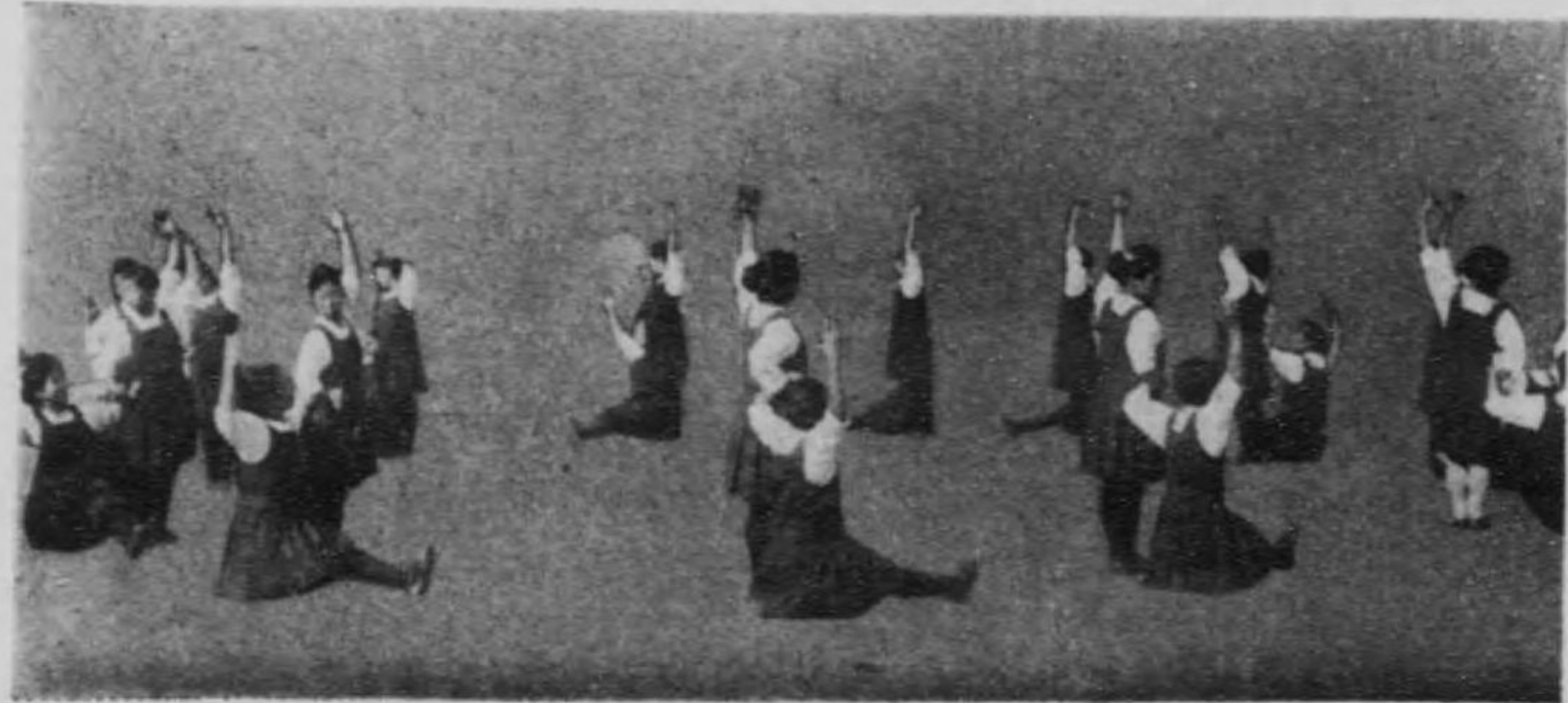
(三法步) スンダートフハ (イ)



(〇一法步) 動運線曲 (ロ)

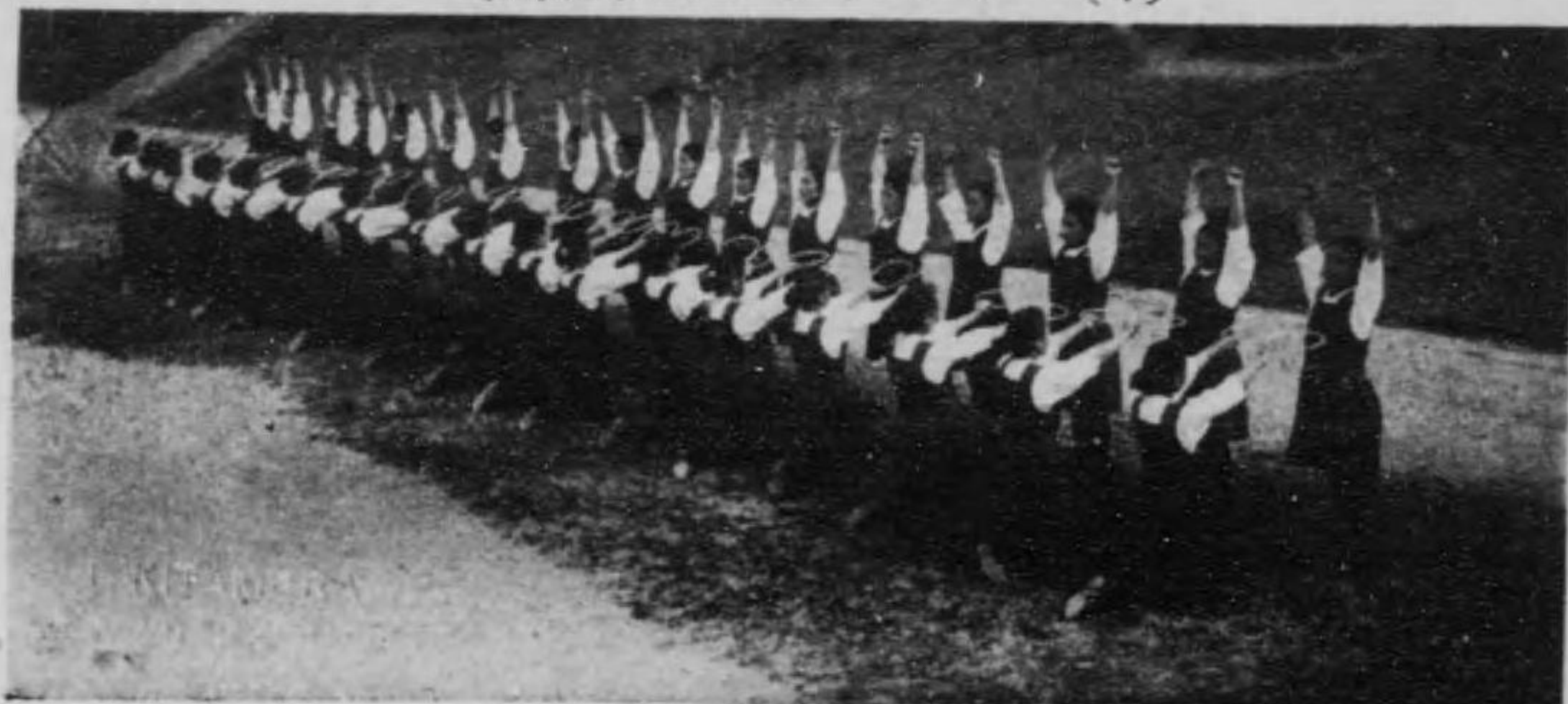


(〔二〕の五法步) スンゲルード (ハ)



(六)

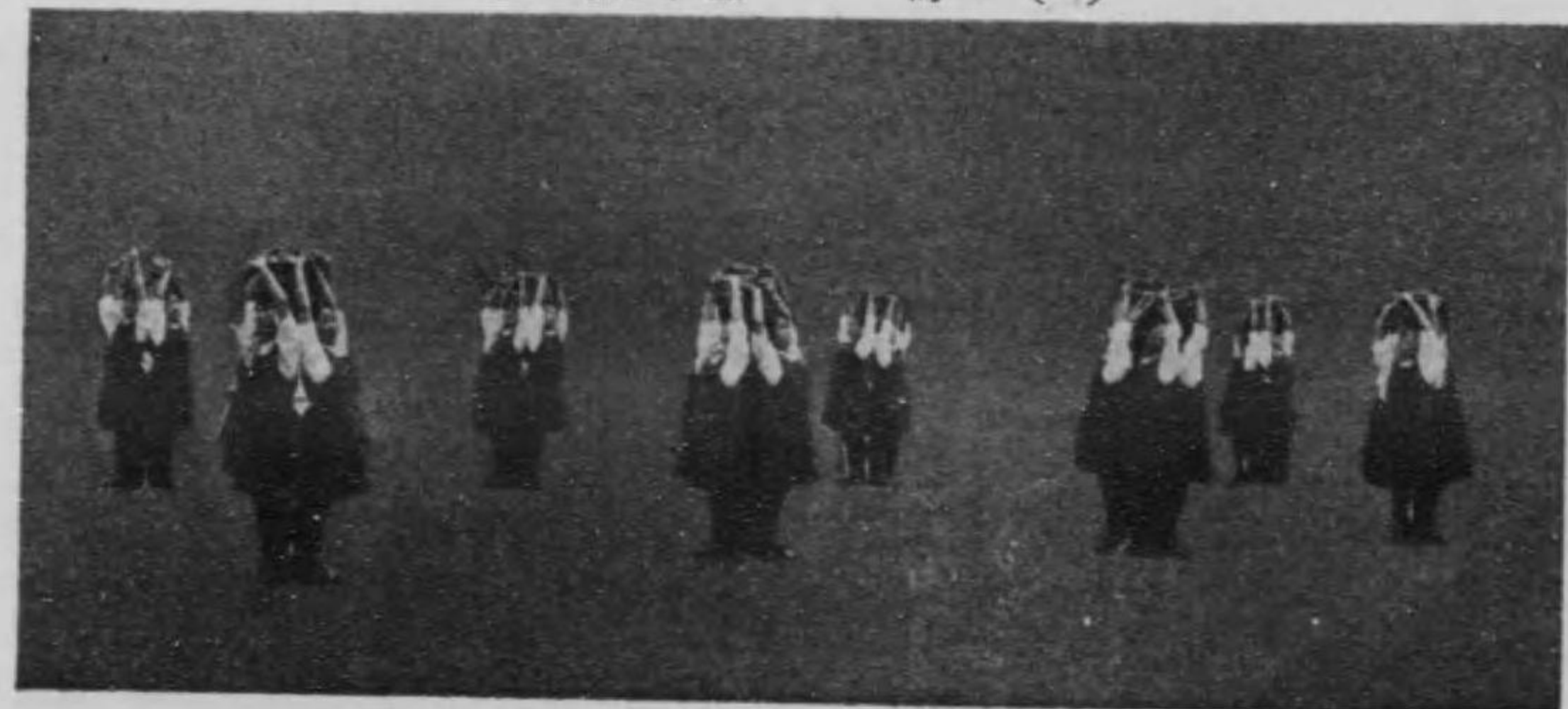
(五法步) スンダアンリ (イ)



(一一法步) 上 同 (ロ)



(三一法步) 上 同 (ハ)





## 序

體育は身體の發達、運動神經の巧緻性、忍耐力の向上、及畸形の矯正上吾々に最も重要なものと信じます。

近時我が國に於ても一般社會が體育に理解を有する様になつた事はお互に喜びに堪へぬ處であります。併しこゝに最も注意すべきは、飽く迄それが民衆的であり、而かも科學的合理的に行はれねばならぬと云ふ事であります。

體育の方法は、被教育者をして一生涯を通じて實行しなければならぬと云ふ自覺と、興味とを起させる可く教材を、適當に配當して、以て實行すべきであります。即體操と競技と審美的ダンスとは、之を教育的に健全に混合して施すことによつてその目的を達し得るものと信じます。

ダンスは近世に至つて西洋では非常に盛になつた事であります。又それに伴ふ弊害も墮落もあるようでありますが、それだからといつてダンス其物を非難するに及びません。宗教を方便に使つて人を騙したり財を奪つたり女を傷つけたりする僧侶もある世の中なればとて宗教其物が悪いとは斷定出来ません。荒み

きつた人間が又倫落し果てた者共が酒と女に溺れて僅に精神の苦痛を紛らす様にダンスをかゝる人達が享樂と性慾の方便とに使つた時、ダンスも墮落して下劣な醜惡なものとなされるかも知れませんが、それはダンスのホンの一部に過ぎないのであります。その大なる効果はこの小缺點を補ふて餘りあると思ひます。

實にダンスは一種の高尙なる藝術であつてそれは教育の好機會に充ち、そして他の藝術やライフに靈感を與へる事が甚だ多いのを信じます。

ダンスは古來各種の民族間に存在して居りました。之は即生存の廣い延長であり、且又國民性の粹の表現である事を語つて居ります。もともと動作と調律とは人間の先天性でありまして動作の精鍊されたものがダンスであり、調律の組織立てられたものが音楽であります。

ダンスには一、教育ダンス 二、劇場ダンス 三、感興ダンス 四、社交ダンス 五、神事ダンスの區別があります。音楽にでも長唄もあれば俗謡もあり謠曲もあります。が、一それ等を何でもかでも教育上に取り入れなれないと同様に、ダンスも其處を識別してかゝらないと間違ひが起ります。

ダンスは女子の天性なる繊細にして腕曲な女性美を現はし、延いては器用にし

て機敏な閑雅かさを與へます。従つて直線的な體操とは陰と陽との如き關係にあり、體操で以つて直線美を作るとすればその圓滑劑として女子には特にダンスを課す可き必要があります。

然るに我が國に於ては指導者の尠いのと世間の無理解などによりダンスに對して種々誤解がある様に思はれます。蓋しこの問題は吾々女子體育關係者が率先して解決を與へなければならぬのであります。私共は斯様な考へのもとに前後十年ばかりの經驗を以つて教育上に好適材と信ずるものを蒐めて茲に公に致す事にいたしました。

程度は主に尋常小學校四五年から中等學校迄のものであります。尋常一二年の動作遊技をも附加へて小學校全學年の参考に供しました。

初期には尋常四五年でも尋常一二年のを課し、高等女學校生にも尋常科生相當のを課してよく、逆に非常に進歩し熟練したものには尋常一二年に四五年のを、又尋常五六年に高等女學校相當のを課してもよいと思ひます。従つて此處に學年を指定したのは私共の經驗による主觀に基いた假定に過ぎません。

摺筆に當り長い間御指導下さつた先生方と、稿を了る迄に多大の御指導と御骨

序

折りどを戴いた本書の出版者東洋圖書株式会社社長永田氏に深く感謝致します。この一小著が若し教育上に聊かでも貢献する處が御座いましたら幸で御座います。

四

大正十四年五月十日

銀婚祝日奈良の都にて

著者識

### 目次

一	めだか	.....	尋一	.....	二
二	ほし	.....	尋一	.....	二
三	兎	.....	尋一、二	.....	二四
四	うちの小猫	.....	尋一、二	.....	二八
五	せみ	.....	尋二、三	.....	三二
六	かごの虫	.....	尋二、三	.....	三四
七	お馬遊び	.....	尋四、五	.....	三六
八	乙女の舞	.....	尋五、六	.....	三九
九	行け	.....	尋五、六	.....	三五
一〇	秋の紅葉	.....	尋五、六	.....	四〇
一一	三人遊び	.....	尋六・高女一	.....	四三
一二	スカーフダンス	.....	尋六・高女一	.....	四五
一三	スイリツシユクラツプダンス(樂譜I)	.....	尋六・高女一	.....	四九
目次		.....		.....	五五

五

一四 サークルダンス ..... 尋六・高女一 ..... 五七

一五 エースオブダイヤモンド ..... 尋六・高女一 ..... 五三

一六 ゼボガ(楽譜2) ..... 尋六・高女一 ..... 五六

一七 アスレチックダンス ..... 尋六・高女一 ..... 六六

一八 雪車 ..... 尋六・高女一 ..... 六四

一九 五分間ダンス ..... 尋六・高女一 ..... 八一

二〇 ベビーポルカ ..... 尋六・高女一 ..... 八三

二一 萬歳遊び(其一) ..... 高小一、二・高女一 ..... 八七

二二 萬歳遊び(其二) ..... 高小一、二・高女二 ..... 九一

二三 ギャザリンピースカース(楽譜3) ..... 高小一、二・高女二 ..... 九四

二四 スコッチリル ..... 高小一、二・高女二 ..... 九八

二五 ダッチダンス ..... 高小一、二・高女二 ..... 一〇一

二六 スケートダンス ..... 高小一、二・高女一、二 ..... 一〇四

二七 變形行進 ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一〇六

二八 スコットランド跳歩 ..... 高小二・高女一、二 ..... 一一四

二九 ルシヤンコサツクダンス(楽譜4) ..... 高女三 ..... 一二七

三〇 リングダンス ..... 高女三、四 ..... 一二九

三一 御挨拶(二人遊び) ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一三四

三二 麗はしき乙女 ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一三八

三三 夏の精 ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一三一

三四 精の樂(楽譜5) ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一三六

三五 タンプリンダンス(其一) (楽譜6) ..... 高女四、五 ..... 一四三

三六 タンプリンダンス(其二) ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一四九

三七 ロプスタヂック ..... 高女二、三 ..... 一五五

三八 アイリツシユヂック(其一) ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一五九

三九 アイリツシユヂック(其二) (楽譜7) ..... 高女三、四 ..... 一六二

四〇 マヅルカ(其一) (楽譜8) ..... 高小一、二・高女二、三 ..... 一六六

四一 マヅルカ(其二) ..... 高女三、四 ..... 一七〇

四二 ホワイト、フレイジャ(楽譜9) ..... 高女三、四 ..... 一七五

四三 クロツクダンス(其一) (楽譜10) ..... 高女三、四 ..... 一八〇

四四	クロックダンス(其の二)	高女四、五	一八三
四五	シヤテツシダンス	高女四、五	一八八
四六	メーボールダンス(其の一)	高女三、四	一九五
四七	メーボールダンス(其の二)	高女三、四	二〇二
四八	メーボールダンス(其の三)	高女四、五	二〇八
四九	メーボールダンス(其の四)	高女五	二一一
五〇	ハーフトーダンス	高女四、五	二二七
五一	ドールダンス	高女四、五	二三三
五二	月見ボルカ(樂譜12)	高女四、五	二三九
五三	ウオルツダンス	高女四、五	二三三
五四	曲線運動(其の一)	高女四、五	二三九
五五	曲線運動(其の二)	高女四、五	二四五
五六	湖上の小舟(樂譜14)	高女四、五	二五〇
五七	春の壽	高女四、五	二五五

(をばり)

凡例

- 一 ダンスの學年配當は著者の主観によつたものであるから、最初は尋常三四年に尋常一二年のを課してもよく、又非常に進歩し熟練したものには高女一二年に高女三四年程度のものも課してもよい。
- 二 樂譜の添へてないものは二拍子のダンスには二拍子四拍子等の適宜の曲を用ひ、又三拍子のダンスには三拍子六拍子等の曲を用ふればよい。
- 三 卷末に擧げた曲は、著者が経験した種々の記録及び書物から集めたものである。その出所の判明したものは之を附記して置いた。
- 四 ダンスを文字文章によつて知らせるといふことは随分困難な企てである。依て讀者は逐次その身軀に訴へて試みつゝ進まれない。そして末葉の些事は讀者の考によつて左右されて差支なく、要はその精神と大綱とを酌取することに努められ運用の妙は一身に存することを心掛けられたい。
- 五 今左に書中稍解し難しと思はれる熟語の二三を解説して參考に供して置く。
  - 1 「右肩引に廻る」右の肩を引いて右廻りに廻るといふこと。

凡例

一  
め  
だ  
か

(1) ヲ ガ ハ ノ メ タ カ ス ク ハウ ヨ  
(2) に 一 げ た め だ か ぬ そ こ に

メ タ カ オヤ オヤ トツ タト  
を る ぞ それ それ こんど こそ

オ モ タ ラ ド ヨ カ ヘ ニ ゲ タ  
と つ た よ に が し は せ ん ぞ

一 小川のめだか

掬はふよめだか

オヤ、オヤ、捕つたと思つたら  
どこかへ逃げた

二 逃げためだか

あそこに居るぞ  
ソレ、ソレこんどこそ捕つたよ  
逃がしはせんぞ。

凡 例

- 2 「左手中心の圓」 右向けして圓の中心に左手が對向する様になること。
- 3 「右肩通過」 二人が右の肩と右の肩とがすれ違ふ様に通過すること。
- 4 手のことを何とも書いてない所は其のまゝか又は腰にとるかである。いづれかを任意に採擇してよい。
- 5 「基本姿勢」 そのダンスの基本となり、最初又は中途或は後に屢現はれるものである。

### 一めだか

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

#### 【一番】

「小川のめだか」 全體手を繋いで、體を少し右に捻つて通常歩で右に行く(どちらの足から始めてもよく、何歩でもかまはない)

「掬はふよめだか」 全體右向して左手中心になり、二歩進みながら體を前に屈げて兩手を揃へ一歩毎に一回前を掬ふ。

「オヤ」 右足を右に出し驚いた様に急に右側を掬ふ。

「オヤ」 右足を左足の左前に出し急いで圓の内側、即左側を掬ふ。

「二分休止譜の處」 右足を前に出して前の方を掬ふ。

「捕つたと思つたら」 掬ひあげた兩手を體前胸の高き位に持つて來て、手の中をのぞき込む。(足は右足前のまゝ)

「どこかへ逃げた」 左足を後に引き兩手を左後に流す、次に右足を後に引き兩

手を右後に流す。

#### 【二番】

「逃げためだか」 左手中心にあつたまゝ、右手を右斜上に舉げ、左手を左斜後下に少しあげて、手頭から先を振りながら前に走る。

「あそこに居るぞ」 圓の中心に向つて立ち止り、右食指で向ふ前下を指す。

「ソレソレ」 稍膝を屈げて、體を前に屈げ右足を前に出す、同時に右食指を立て、前を指す、次に左手と左足とで前の様に動作する。

「二分休止譜の處」 「ソレソレ」を繰り返す。

「こんどこそ捕つたよ」 體前で拍手しながら三步後に退つてから兩足を揃へる。

「にがしはせんぞ」 拳を握つて右手の甲を内にねぢて前に出す、次に左手を右手の様に(反對)出す、そして勝利者の誇を示す。

Gragioso Amabile

A. イチバンボシ ミ ッケ タ — イチバンボシ  
 B. にいばんぼし み つけ た — にいばんぼし  
 C. サンバンボシ ミ ッケ タ — サンバンボシ

ミ ッケ タ — アレアノモリノ スギノキノ  
 み つけ た — あれあのごでの やなぎのき  
 ミ ッケ タ — アレアノヤマノ マツノキノ

アレアノモリノ スギノキノ スギノキノ ウ ヘー ニ —  
 あれあのごでの やなぎのき やなぎのきの う ヘー に —  
 アレアノヤマノ マツノキノ マツノキノ ウ ヘー ニ —

ほ し (歌詞及曲||新選樂譜より)

- 一ばん星見つけた  
あれあの森の杉の木の  
杉の木の上に
- 二ばん星見つけた  
あれあの土手の柳の木  
柳の木の上に
- 三ばん星見つけた  
あれあの山の松の木  
松の木の上に

二  
ほ  
し

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

【一番】

「いちばん星」 體前で拍手一回手は左右から合せて、それから兩手を前から上に舉げて、指を開いて手頸から先を内に二三回旋廻する。

「みつけ」 左膝を屈けて左足を左に出し、同時に上に舉つて居た手を波狀に左右に下し眼を右上の空につける。

「た」 體重を右足に移しその膝を屈けて兩手を左右に舉げ一回上下に波狀に動かす、眼は左上空につける。

「いちばん星」 前の「いちばん星」に同じ。

「みつけ」は始めの「た」に同じ。

「た」は始めの「みつけ」に同じ。

「あれあの森の杉の木」全體手を繋いで右方に通常歩で進む。(普通右へは右足



「あれあの森の杉の木の前同様の動作を左方になす。

「杉の木の上に」連手を放し、各自掌を上にして両手を左右にあげ、それを四度に上にあげ、それに眼を注ぐ。

【二番】

「二番星」 體前で拍手二回、その他は一番星に同じ。

「みつけた」 上に擧つて居た手を波上に、右手高く、左手低く傾斜さして次第に下におろす。

「二番星」 始めの「二番星」に同じ。

「みつけた」 前「みつけた」に同じ動作を左手高く右手低くしてなす。

「あれあの土手の柳の木」 全體手を繋いで圓心に向つて通常歩で(右足から)進む。

「あれあの土手の柳の木」 全體後に退つて元の位置に還へる。

「柳の木の上に」 両手を右斜上から掌下向き左手前靜に下におろし、それを左斜上にあげる、眼は手に添へる。

【三番】

「三番星みつけた」 體前で拍手三回、他は「一番星」に同じ。

「三番星みつけた」 前の「三番星みつけた」に同じ。

「あれあの山の松の木の前」 體前拍手しながら足踏で右肩引に一廻轉する。

「あれあの山の松の木の前」 前に同じ、但し左肩引に廻轉する。

「松の木の上に」 右足後に退いてそれに體重を移し體を反して、両手を左右より上にアーチ形にあげて、それに眼を注ぐ。

(1) ウ サ ギ ウ サ ギ ウ サ ギ サ ン  
 (2) う さ ぎ う さ ぎ う さ ぎ さ ん

オマヘノ ミミハ ドクシテ ソンナニ ナガイ  
 おまへの けいろは どうして そんなにかはる

ノ ミーミヨ ミミヨ ワタシノ ミミハ  
 の けいろよ いろよ わたしの いろは

カス カナ オト モ キコエル タメニ  
 の や ま や く さ き に ま ぎ れ る た め に

兔

(歌詞及曲作者不明)

一 兔、兔、兔さん

お前の耳は どうして そんなに

長い

耳よ、私の耳は かすかな音も

聴えるために。

二 兔、兔、兔さん

お前の毛色は どうして

そんなに 變るの

毛色よ 色よ 私の色は

野山の草木に まぎれる 爲に。

三 兔

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

【一番】

「兔、兔」 兩肘を屈げて手の甲を胸につけ(指を揃へて)、二回跳ぶ拍子に、手頭から先をお招きする様に動かして、兔の跳ぶ形をする。

「兔さん」 拍手三回。

「お前の」 右食指で向ふを指す。

「耳は」 右手で自分の右耳を指す。

「どうしてそんなに」 兩手を體前に組んで、頭を左右に一回づゝ屈げる。

「長い」 兩手を耳の後に翳してから、前上に突き出して長い耳を拵へる。

「耳よ、耳よ」 頭を右と左に一回宛廻はす。

「私の耳は」 「耳よ耳よ」に同じ。

「かすかな音も」 音を立てなひ様に拍手四回。(體前にて手は左右から)

「きこえるために」 右足を前に出し體重を前にかけて、右手を右耳に翳して静に物音を聴く様にする。(左手そのまゝ)

【二 番】

「兎、兎、兎さん、お前の」以上一番に同じ。「毛色は、」右手で左腕を上から撫でおろす。

「ごうしてそんなに」 一番の「ごうしてそんなに」に同じ、両手を體前に組んで頭を左右に一回づゝ屈げる。

「かはるの」 足踏二回。

「毛色よ色よ」 全體手を繋いで右に通常歩で行く。

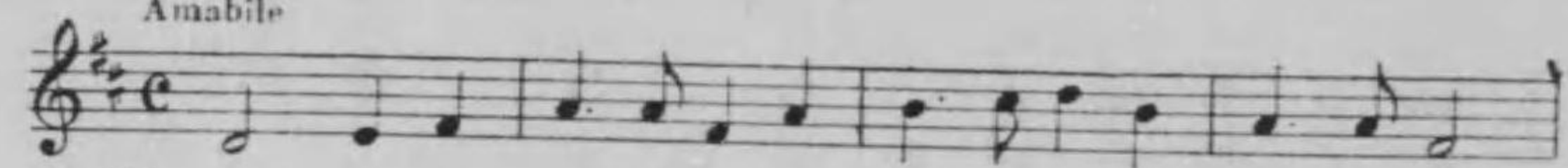
「わたしの色は」 同様左に行く。

「のやまや草木に」 右足を一步後方に引き、両手を兩側から頭上に圓形に舉げ上體を後に反して眼は上の方を見る。

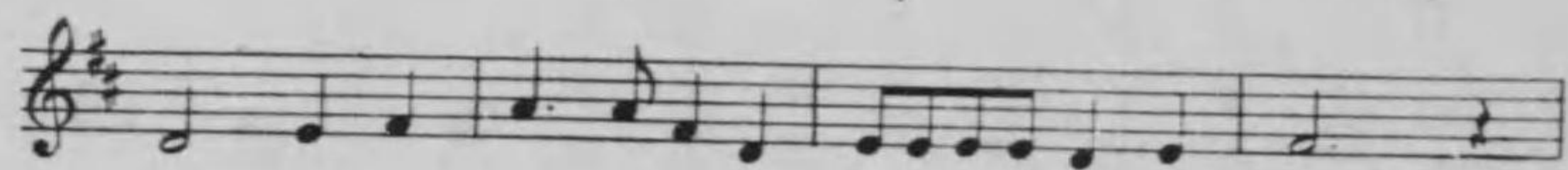
「まぎれる」 右足を後方に引くと(右足より一步後方に) 同時に両手を右側下に流し稍膝を屈げて頭は右の方に向ける。

「ために」 右足を左足につけて體を伸ばし直立姿勢になりて終る。

Amabile



(1) ウ チ ノ コ ネ コ ハ カ ハイ イ コ ネ コ  
(2) う ち の こ ね こ は か は い い こ ね こ



ク ビ ノ コ ス ズ ヲ チ リ チ リ ナ ラ シ  
く び の こ す ず を ち り ち り な ら し



ス ン ニ カ ラ マ リ タ モ ト ニ ス ガ ル  
ま り ご ざ れ て は に ん か ら お ち る

四 うちの子猫

うちの子猫 (歌詞及曲作者不明)

うちの子猫は可愛い子猫

頭の鈴をちり／＼鳴らし

裾にからまり袂に縫がる。

うちの子猫は可愛い子猫

頭の鈴をちり／＼鳴らし

毳とざれては縁から落ちる。

### 四 うちの子猫

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

#### 【一 番】

「うちの」 體前で拍手二回。(直立のまゝ)

「子猫は」 臂を左右に舉げると同時に踵をあげ、直ぐに手と踵とを下す。

「可愛い」 兩手を胸の上に重ねておく (左手をおいてからその上に右手を重ねる)

「子猫」 踵の上一回。(手は胸に置いたまゝ)

「頸の」 兩手を頸の後ろにかけて頭を前に屈げる。

「小鈴を」 兩手を體前胸の前に眼みを入れて合せ小鈴の形をつくる。

「ちり／＼鳴らし」 頭を敏捷に幾回も左右に振る。

「裾にからまり」 右足屈膝舉股、體を前屈して舉つた方の足元を見る、右足を下して更に左足で同じ動作をする。

「袂にすぎる」 左手を前にあげその袖を右手で引く、同様に左手で右袖を引く、眼は手に注ぐ。

#### 【二 番】

「うちの子猫は可愛い」子猫

「頸の小鈴をちり／＼鳴らし」

以上一番に同じ。

「まりとざれては」 體前屈、兩手は掌を前方向 (小指下方拇指上方) にして、

圓の中心に向つて球を轉がす様にして前に進む。

「えんから」 體を起し體前で拍手二回しながら二歩後に退り兩足を揃へる。

「落ちる」 急に兩手を右後に振る。

(1) スズシイ コカゲテ イソガシク  
 (2) それそれ たらうが しのびあし  
 ミンミン ミントナク ホンゼミニ  
 ふくろを も一つて どりなきた  
 タイタイ タイトナク アブラゼミ  
 ゆだんを すーるご ころれるぞ  
 ックック ホウシモ ナキタテ  
 はーやく おにげよ あのもりへ

せみ (歌詞及曲 育幼稚唱歌集より)

一 涼しい木蔭で忙しく  
 ミンくくく 鳴く本蟬に  
 タイくくく 鳴く油蟬  
 つくく ぼうしも鳴き立てる  
 二 それく 太郎が忍び足  
 袋を持って捕りに来た  
 油断をすると捕られるぞ  
 早くお逃げよあの森へ

五  
せ  
み

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

【一番】

「涼しい木かげで」 両手を頭上にアーチ形に舉げて、木の形とし、その手に眼を注ぐ。  
 「いそがしく」 體前で五回拍手。  
 「みんなくくく 鳴く」 上に半屈臂をし、手頭から先を内側に廻旋しながら(四回次第に上に伸ばす、此の間體を少し右に傾けて居る。  
 「本蟬に」 上に舉がつて居た手を上下に波状に動かして、羽ばたきをする様な恰好をしながら次第に下におろす。  
 「ちいくくく なく」 體を左に傾けてみんなくくくと同じ動作をする、但今度は手頭廻旋を出来るだけ敏速にする。  
 「油蟬」「本蟬と」同じ動作。

「つくくぼうしも」 體前で拍手四回。

「なきたてる」 體前で五回拍手しながら速く足踏する。(右足から、但いづれでもよし)

【二番】

「それく太郎が」 右食指で圓の中心を指差す。

「しのび足」 右向して左手中心になり、靜に、忍びやかに二步前進す。

「袋を」 體前で兩手の拇指と人差指とを使つて、徑五六寸の圓を作り、袋の形を示す。

「持つて」 袋を肩にかつぐ様に、兩手を右肩の邊にあげる。

「どりに来た」 左手中心に立ち、袋をかついだ様子にして前に三步進んで兩足を揃へる。

「油断をするど」 手を前に組んで頭を前左にかしげ、居眠りをした時の様にゆるんだ姿勢をして、眼を閉ぢる。

「とられるぞ」 體前で早く拍手。

「早くおにげよ」 臂を左右に舉げ、それを上下に動かして羽ばたきしながら駈

歩で前に進む。

「あの森へ」 圓の中心に向つて、右食指で前上を指して向ふの森を見る形をする。

(1) ア キ ノ ナ ガ ヨ フ ナ キ ア カ ス  
 (2) つ ゆ の た ま ち る つ き の よ る

カ ハ ユ イ ス ズ ム シ カ ゴ ノ ム シ  
 や さ し い あ ー き の か み さ ま に

フ シ オ モ シ ロ イ ソ ノ ウ タ ハ  
 お そ は り ま し た こ の う た は

タ レ ニ ナ ラ フ タ オ ソ ハ ツ タ  
 り ん り ん り ん り ん り ん り ん り ん

かごの虫 (歌詞及曲) 教育幼稚唱歌集

一 秋の長夜を鳴き明かす  
 かはゆい鈴虫籠の虫  
 節面白い其の歌は  
 誰に習った教はつた

二 露の玉散る月の夜  
 やさしい秋の神様に  
 教はりました此の歌は  
 リン~~~~~

六かごの虫

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

【一番】

「秋の長夜を」 右足を後に引いて體前で右手向ふに、左手手前に重ねてそれを開きつゝ靜かに頭上に高くあげ、それから次第に開いて横から下す。

「鳴きあかす」 體前で拍手しながら足踏する。

「かはゆい」 右足を其場に軽く踏みつける、次に其の右足で跳び、同時に左膝を屈げて後にあげる、其間に右手を斜右上(掌上向き)にあげてそれに眼を注ぐ(左手左足に添はせ掌下向き)

「鈴虫」 前と同じ動作を前と反對に左で繰り返へす。

「かごの虫」 以上の動作を右左もう一回繰り返へす。

「節面白い」 四拍子のタクトを振る時の様に、右食指を伸して上方に向ける體と平行に下、左、右、上に流し煽かに動かす、左手は腰にさる。

「その歌は」 手を腰にとり（手の甲をつける）足踏みする。

「誰に習つた」 右肘を屈げて右食指を立て、右の方を指す、同じく左臂で左の方を指す

「教はつた」 両手を下にさげておじぎをする。

【二番】

「露の」 右足を斜右前に出し、右手で斜右前の地面を指す（草に宿つて居る露を指差す積りで）

「玉散る」 前の姿勢のまま、右足の前で両手に脹みを入れて合せ拇指と人差指で圓をつくり、玉の形をつくる、それを急に指を廣げて掌を上に向けてぱつと開いて露の散るのになぞらへる。

「月の夜」 右足前出のまま、両手を横から大きく頭上にアーチ形にあげてその手に眼を注ぐ。

「やさしい秋の」 全體手を繋いで通常歩で體を少し右に捻つて右に廻る。

「神様に」 掌を上にして前方に臂を伸し両手を揃へ物を戴く形をして頭を少し下げる。

「教はりました」 両手を下げておじぎをする。

「この歌は」 足踏しながら三回體前にて拍手。

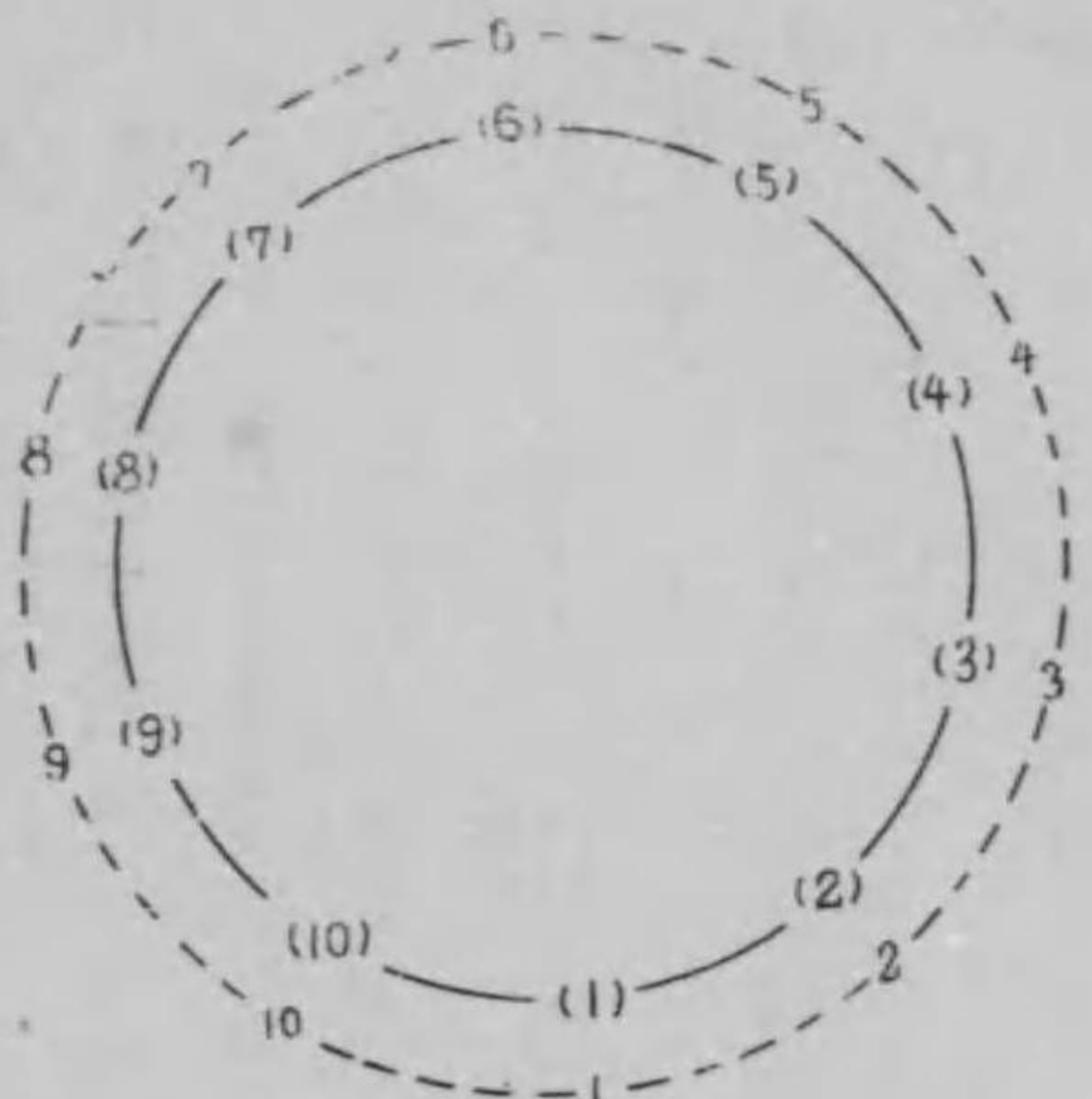
「リンくくくくくくくくくく」 兩臂を上半屈臂から次第に上に伸ばしながら「リン」と云ふ毎に手頭から先を内に廻旋する、その間足踏しながら右廻りに一廻轉する。



### 七 お馬遊び

#### 隊形

二列圓形、圓の中心に向つて立つ、前列生は全體手をつなぎ、後列生は前列生の肩に後から手を掛ける(第一圖)前列生はお馬で後列生は乗手の積りである。



#### 歩法

第一

ガロツプ(16)呼 すべて(1)と(2)と数へる。

(1) 右足を右に出す、と(左)足尖を右足につける

(2) (8)以上を繰り返しながら右に行く前列生と後列生と歩調を合し、且歩幅に加減して落馬する事がない様にする。

次の(8)呼間は左足から始めて同歩法で左に行

く、最後に足を揃へて手を下す。

#### 二 位置交換(8)呼

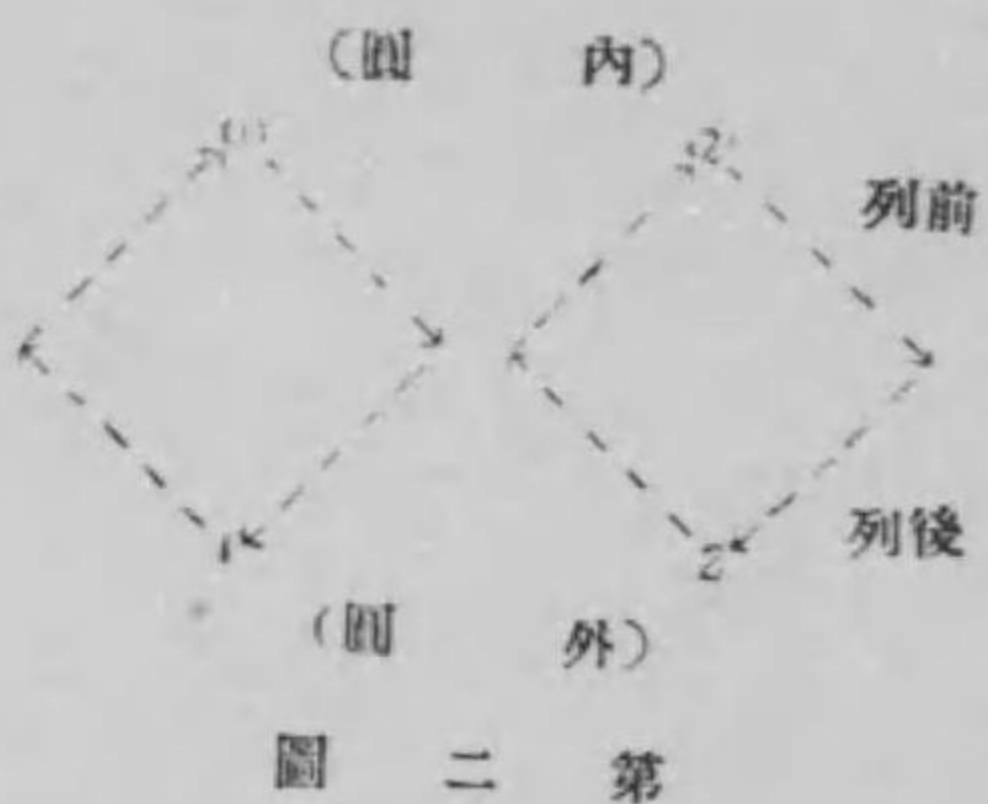
前列と後列とが位置交換をする。

前列生—(1)右足を斜右後に出し、左足を右足につける、(2)左足を斜左後に出し右足を左足に揃へる、これで前列生は後列生の位置についたのである。

(第二圖内圓即前列)

後列生—前列生と同時に、同じ歩法で左足から第二圖後列生矢の示す方向に進んで前列となる、従つて(1)(2)の間に前後列は位置交換が出来て、前の前列生は後列生になり、後列生は前列生になつたのである。

(3)(4)全體拍手二回、(5)(6)右左右(2)呼の間に三度と三度足踏、(7)拍手一回(8)前列は連手、後列生は前列生の肩に兩手をかける、以上歩法一及二を幾回も繰り返す。



#### (注意)

一 落馬しない様に前後列はお互に歩巾に加減すること。

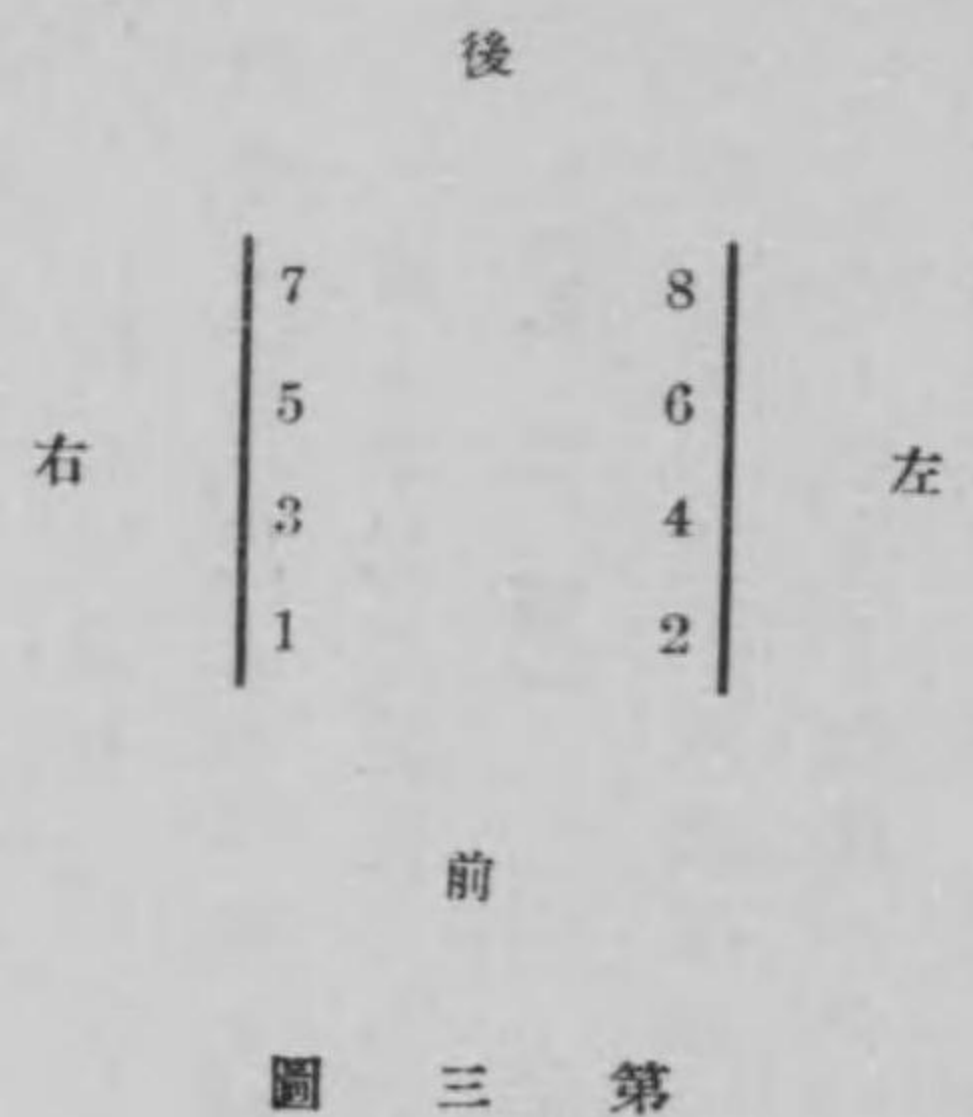
二 圓が次第に小さくなつて、くしやくしやになりたがるから、ガロツプで右に行つたり左に行つたりする時に、皆の足を外に外にと出す様にすれば

七お馬遊び

七お馬遊び  
 三 位置交換の時衝突しない様にする事。

### 八乙女の舞

隊形 八人組の間廣き(約一間)二列縦隊。



#### 必要な歩法

- 一 ポルカ 右足を前に出す、左足爪尖を右足の踵につける、右足を更に前に出す、右足で跳び、同時に左足屈膝股。
- 二 強き足踏。
- 三 追掛歩、右足を前に出す、左足爪尖を右足の踵の處に持つて行く。横追掛歩は前に出す代りに横に出せばよい。

#### 【第一節】

手頸を屈げて手を腰に取り、全體前向になる。(第三圖参照)  
 (4) 呼 右生は右足から、左生は左足から強き足踏をする、舉つた方の足は足頸を良く伸ばして、爪尖を下に向ける。

(4)呼 (1)(2)頭を内方(二列の中側)に廻して、顔を對向列の方に向ける、(3)(4)内側の手で對向列の對手をお互に指差す肘からを上に屈して、人差指のみを立て、指差す。

(4)呼 右列生は右足から左列生は左足から強き足踏をする。(四呼)

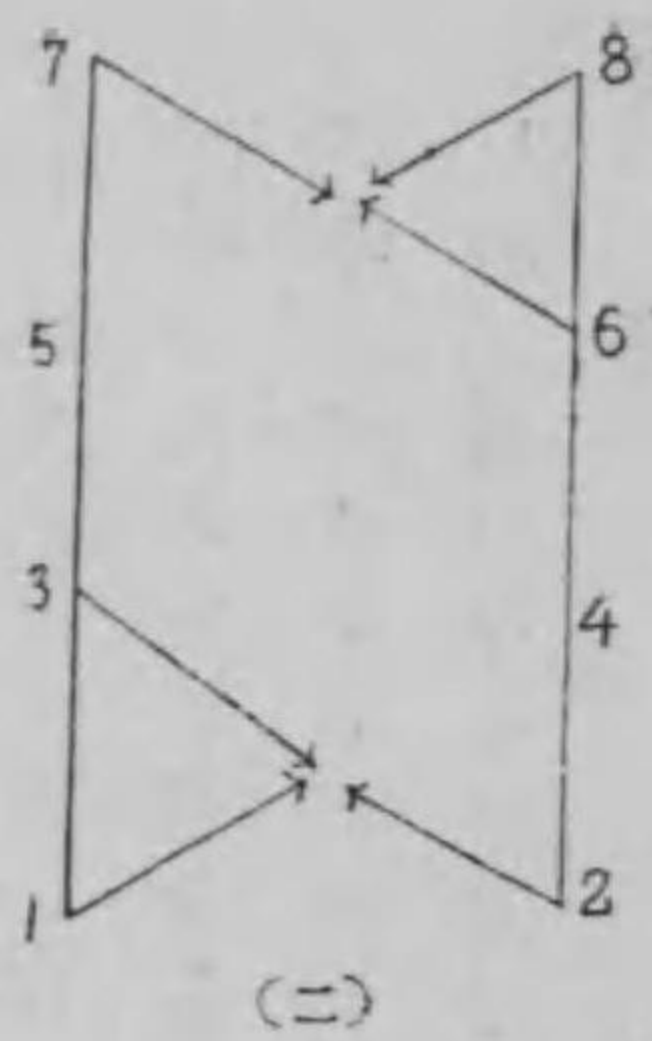
(4)呼 頭の上で四つ拍手(兩手を伸して左右から)同時に外方の足からお互に外に向つて進む。

(16)呼 更に以上の(16)呼を繰り返す、但し最後の(4)呼は、内方の足から内側に進んで元の位置にかへる。

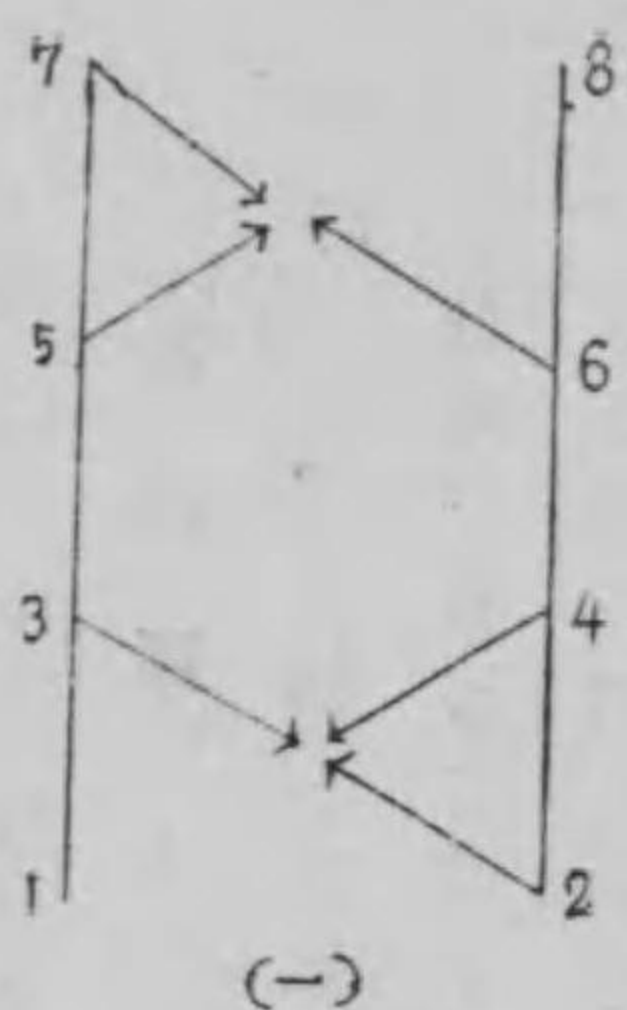
【第二節】

(8)呼 二、三、四番生は第四圖(一)の矢の示す方向に、歩法二をしながら進み、中央で出逢つた三人は手を繋ぐ、五、六、七番生も又同じ(二番生は兩手を頭の高さに前上にあげ、その左手と一番生の左手と繋ぎ、右手を三番生の右手と繋ぐ、七番生は二番生と同じく、右手を六番生の右手と繋ぎ、左手を八番生の左手と繋ぐ、繋がらない方の手は腰に取る)

(4)呼 手を繋いだまゝ、二番生は自分の手を心持引いて、一と三番生とを自



(二)



(一)

第四圖

【第三節】

分の手の下を内から外に潜らせる。七番生は二番生と同じく、六、八番生は一と三番生に同じ。

(4)呼 歩法二、をしながら最初の位置にかへる。

(16)呼 三と六番生が前の七と二番生の役目をして前を繰り返す(第四圖二)、そして最後に第三圖の位置にかへる。

(8)呼 正面のまま、横にすゝんで交代、即右生は左足から、左生は右足から、歩法三横追掛歩をしながら左列生が右列生の後を通過して入れかへる。

(8)呼 左生は左足から、右生は右足から強き足踏をする。

(8)呼 横追掛歩で元の位置にかへる。

(16) 呼 右列生は右向、左列生は左向をして各ボルカ(歩法一)をしながら、外の方に行く。(8)呼 次に廻れ右をして元の位置に同じ歩法でかへる。

【第四節】

(8) 呼 一、二番生は手を繋いで、歩法二、的な行進を右足から始めて、列の中央を通つて、七、八番生の場所に行く、他の人は始の(2)呼間に二歩横歩で前に進む(前とは正面、即第三圖の前の方と云ふ意味である。)

(8) 呼 三、四番生が前の動作を繰り返す、他の者は二歩横歩で前に進む。

(8) 呼 五、六番生が同じ動作をする、他の者は横歩で二歩前に進む。

(8) 呼 七、八番生が同じ動作をする、他の者は横歩で二歩前に進む。  
之で元の位置に復したわけである。

(8) 呼 八人宛の圓を作る。

(16) 呼 グランドチェン、鎖形に進んで行く、(行け、の第六圖(二)参照)

(16) 呼 圓の中心に左手が側面する様に立ち、前に右足からボルカをして終る

(注 意)

グランドチェンの時には出合った一人々々に眼を注いで、會釋しながら手を

握つては先に進む。

### 九行 け

隊形 約一間の間廣き二列縦隊。

歩法

- 一 (8)呼 (1) | (3) 全體先頭に向つて右足から三步前進し  
(4) 左足爪尖を右足の踵につけ兩踵を擧げる、(5) | (8) 同事を左から後に繰り返す。
- (8)呼 廻れ右をして前の動作を繰り返し元の位置に  
還り元の向きになる。
- 二 (8)呼 (1) | (4) 右の方に右足から駈歩四歩、(5) | (8) 廻  
右して駈歩四歩で元の位置に還る。
- 三 (4)呼 各列はお互に向ひ合ひになる、(1) | (3) 右足か  
ら三步前進、(4) 左足爪尖を右足踵につける。
- 四 (4)呼 その場に立ち止つて對向生に向けて兩手を前  
に出す、頭は右肩を通して對向列を見る様に廻

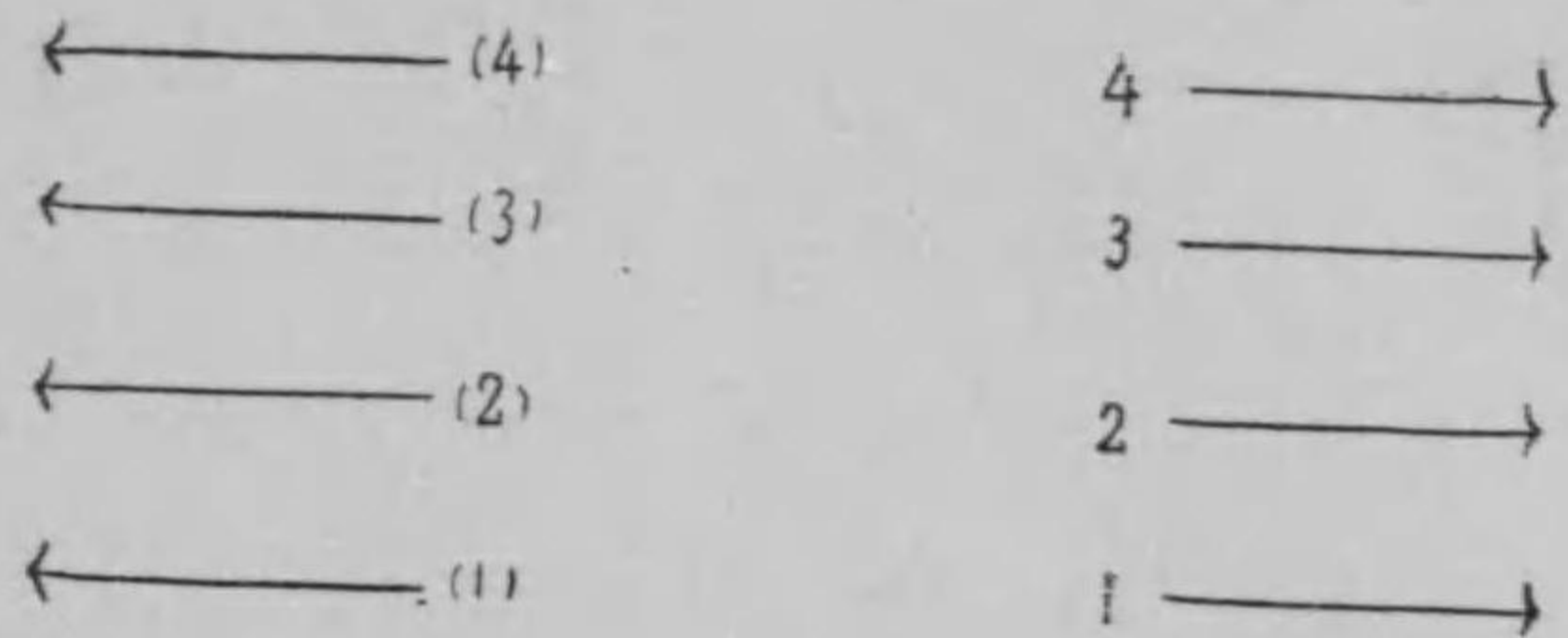
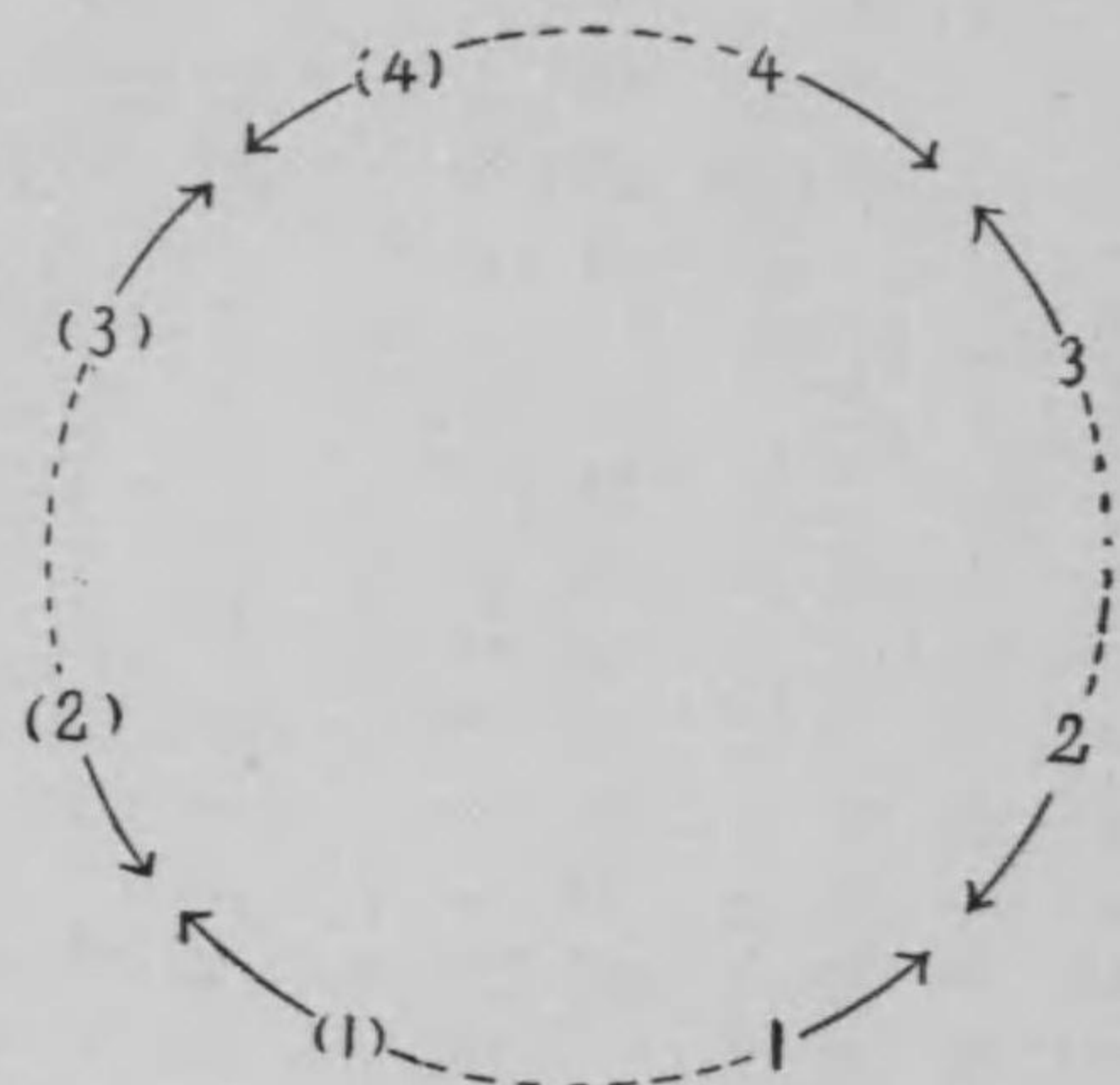


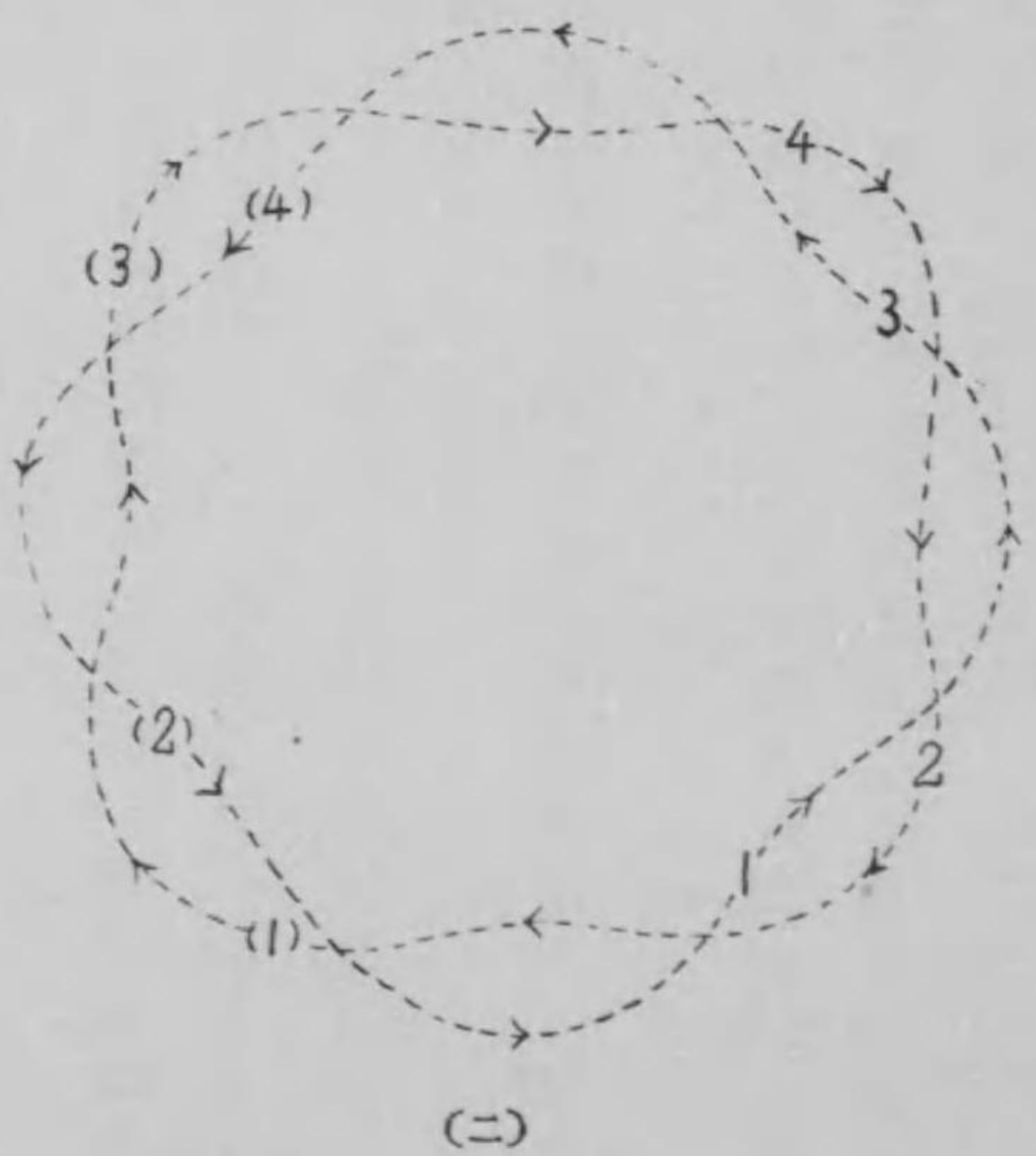
圖 五 第

す。

- 五 (4)呼 (1) | (3) 左足から始めて後に三步退り、(4) 兩足を揃へる。
- 六 (4)呼 足踏の内に廻れ右をして列は脊中合せになる。(第五圖)



(一) 圖 六 第



(二)

- 七 (16)呼 歩法三から六迄を外即(第五圖) 矢の方向に進んで繰り返し、最後の(4)呼  
で二列は向ひ合ひになる。

九行 け

八(8)呼 足踏の内に圓形を作る。

九 相手と逢ふ迄グラントチェンで廻はる、呼数は人数によつて違ふ。(第六圖の(1)及(11))

一〇(8)呼 (1)右足を右上から左足の位置に急に持つて來ると同時に左足屈膝舉股にする、(2)―(4)(1)の姿勢のまま、右足で跳ぶ、(5)―(8)足をかへて同じ事をする。

一一交換歩 グラントチェンを相手と逢ふ迄する。(第六圖(11))

交換歩 (1)右足を前に出す、(2)左足尖を右踵につける、(2)右足を更に前に出す。

一二(16)呼 前向、(1)―(4)左足を膝を屈げて後にあげ、左手を左足に平行に、右手は前上にあげ、右足で跳んで前に進む、(5)―(8)手と足とを取り替へて同じ事をする、次の(8)呼右左交互に繰り返す。

(注意)

一 歩法一二を利用して退場してもよし、其の場合には(16)呼とあるのをもち呼数を増すか、若しくは(16)呼の後に駈歩を続けるか何れにてもよろし。

### 一〇 秋の紅葉

隊形 體操の排列 兩手間隔前向に立つ。  
歩法

一 ホツブ(8)呼(第七圖) (1)右足で軽く踏む、(2)右足で跳び、同時に左足屈膝舉股(足頸をよく伸ばして)、(3)左足で軽く踏む、(4)左足で跳び、同時に右足屈膝舉股 (5)―(8)右左交互に以上を繰り返す(右手は紅葉の枝を持った様な形をして、(1)の時左に振り、(2)休止、(3)右の方に振り、(4)休止、(5)―(8)以上を繰り返す、左手は腰に取る)

二 足踏廻轉(8)呼 足踏をしながら靜に右廻りに一廻轉する(兩手は横に掌下向に舉げて、上下に軽く波狀に動かす)。

三 追掛歩(8)呼 (1)右足を右に出す、(2)左足爪尖を右踵の後につける、(3)―(8)以上を繰り返す(右手は技を持った形で上に舉げ、左手は腰に取る)。

四 強き足踏(8)呼 右足から足を高くあげて、強く足踏をする(手は歩法一に同じ)  
五 駈歩足踏(8)呼 右足から足を後にあげて駈歩足踏をする(手は歩法三に同じ)

一〇 秋の紅葉



（一法歩）葉紅の秋 圖七第

六 追掛歩(8)呼 歩法三を左足から始めて左に行く様にする。(手は歩法三に同じ)

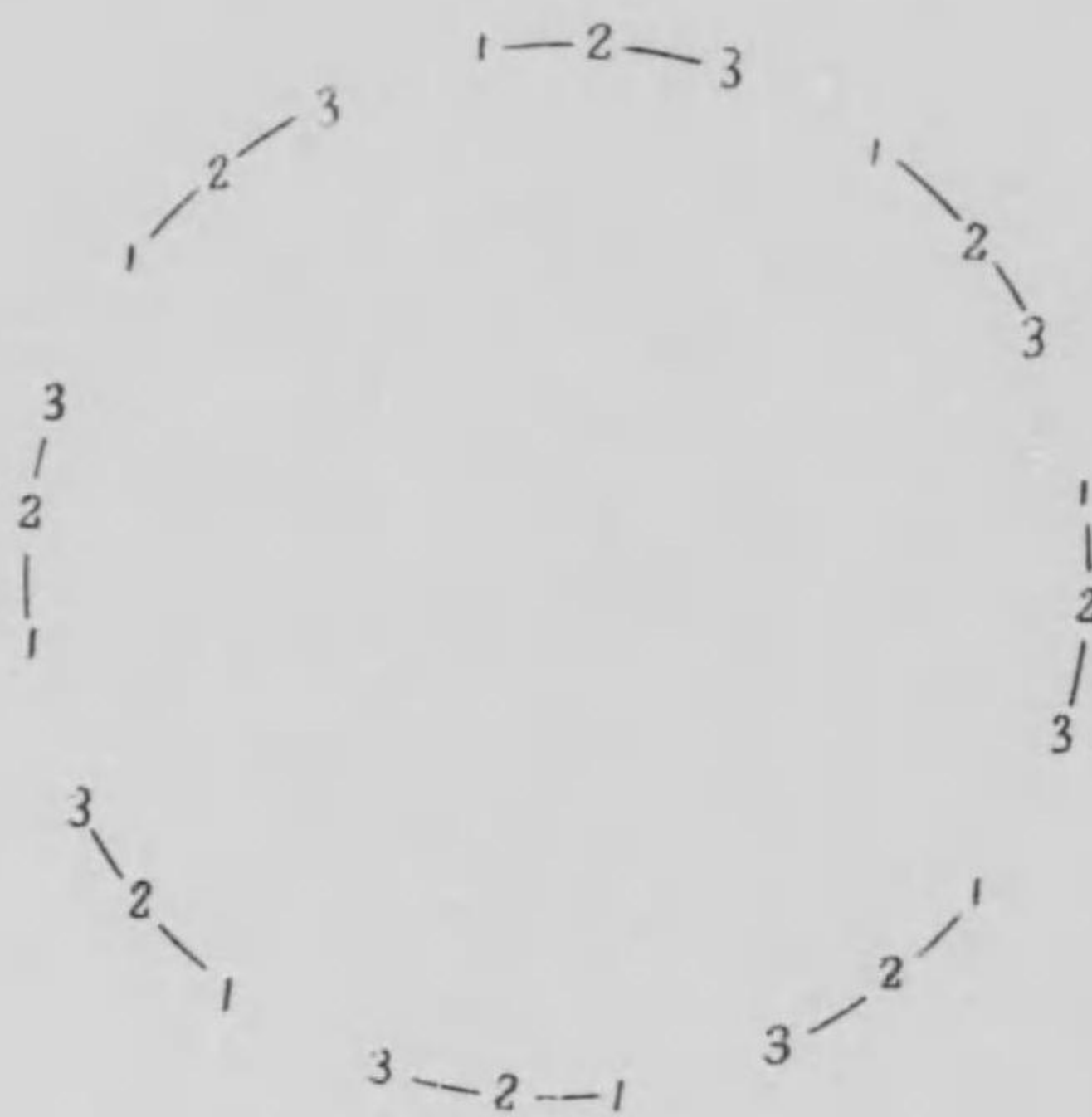
七 ホップ廻轉(8)呼 歩法一をしながら右廻りに一廻轉する。(手は歩法一に同じ)

以上をも一度繰り返す。

### 一一 三人遊び

#### 隊形

一列圓形 圓の中心に向つて立つ、



圖八第

#### 歩法

一 斜交叉前振足(8)呼

(1) 右足を軽く踏みつける、(2) 右足で跳び、同時に左足も膝も足頭もよく伸ばして右足の前に交叉に擧げる、(3) 左足を軽く踏みつける、(4) 左足で跳び、同時に右足を左足の前に交叉に振りあげ

八圖

### 二 廻轉(8)呼

る。(5) | (8) 右左交互に以上を繰り返す。(第九圖)

一二三人遊び



第九圖 三人遊び(六法步)

歩法一をしながら一番生は二番生と三番生との連手の下を潜り三、二番生は(5)(6)の時に、同時に一番生の後に続いて同所を潜る、(7)(8)で三人共元の位置に還へる此の歩法中手は繋いだまゝで離す事は出来ない。(第十圖)

三 斜交叉前振足(8)呼

歩法一に同じ。

四 廻轉(8)呼

歩法二を繰り返へす、但今度は三番生が先に潜り二、一番生はそれに續いて潜る

五 斜交叉前振足(8)呼

歩法一を繰り返へす。

六 後肩連手ホップ前進(16)呼

(1)全體右向をして右足を前に出す、同時

に一番生は手を腰に取り二三番生は前の人の肩に両手を掛ける、(2)右足で跳び、同時に左足を外に屈膝舉股前にあげると前の人を膝で突くから少し外に



第十圖 三人遊び(二法步)

を一寸後に、屈げてから直ぐ前に出し、膝も足頭もよく伸ばして其の小趾側を僅に床につける、體重は全部左足にかけ、反身になつて、両手をアーチ形に



(掌向きあはせ)頭上にあけて、それに眼を注ぐ。



第十圖 三人遊び(六法歩)

(注意)

狭くして尙連手の肘を少し屈指加減にすればよい。

- 一 一番生が二番生と三番生との連手の下を潜る時、背を丸くしてかがみたがるが、それはよくないので寧ろ繋いだ手を見る位に體を反らして潜らなければならぬ、三番生から潜る時にも同じ要領である
- 二 三人後肩連手でホップ前進の時、前の者に引張られて背が曲る場合にはホップの歩幅

## 一一一 スカーフダンス

準備

七尺五寸(曲尺)の半幅布を二人に一本宛持たす、八人一組となる(地質は木綿かメリンス又はリボン、色は赤白又はピンク、青、白、緑の四種)

必要な歩法(必要な歩法を先に記し組立の時には歩法何番と記す)

- 一 足尖行進 踵を擧げて歩く。
- 二 側方行進 右足を右に出し、左足を左足の前から右足の右に出す、又右足を左足の右に出す、左足を再び前の様に右足の右に出す、以上を繰り返して右に進んで行く、左に行く時は同じ歩法を左足から始める。
- 三 前追掛歩 右足を前に出す、左足爪尖を右足の踵につける、左足を前に出し、右足爪先を左足の踵につける。以上を繰り返す。
- 四 強き足踏 股を高く擧げて、強く踏みつけながら足踏をする。
- 五 スキップビング、(1)で右足を踏みつけ、其の右足で更に其場で跳ぶ、同時に左足は高く屈足舉股にする、(2)左足を踏みつけ、其左足で更に其場で跳ぶ、同時に右足屈膝舉股にする、(跳ぶのは踏みつけた後に速に續いてしなれば)

一一一 スカーフダンス

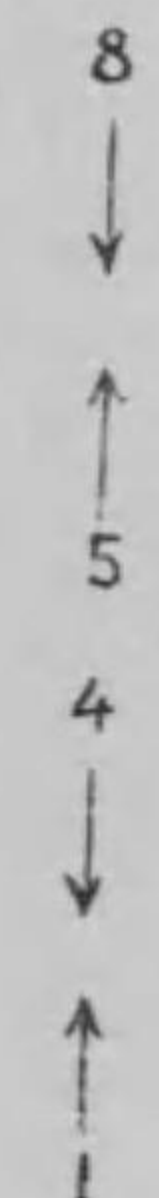
一二 スカーフダンス  
ならない)

五〇

【第一節】

隊形

第八圖の様な排列につく、各自矢の方向に向く、布を右手に持ち對向の二人で一筋を持つ、左手は腰にさる



(甲をつけて)

歩法

一(16)呼 五、六番生は三、四と七、

八番生とそれぞれ歩法一をし

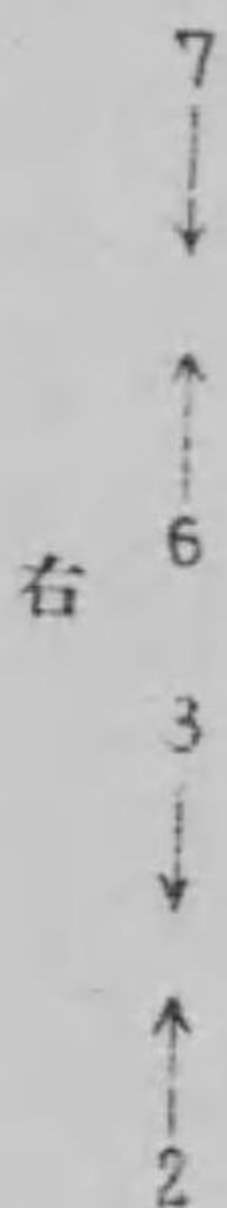
ながら位置交換をする、一、

二と五、六番生は各對向組の

布の下を潜る、其の時顔を對

後

第二十圖



向組の方に向けて通過する。

二(16)呼

全體歩法一、をしながら元の位置に還る一の時布を潜つた組が今度も矢張布の下を潜つて通過する、通過の時には顔を對向組に向ける。

三(16)呼

全體歩法二をする、一、二と五、六番生は右足から始めて右に行く、

三、四と七、八番生は左足から始めて左に行く、(8)迄したら歩法四、を内側の足から(8)呼する。

四(16)呼

三を繰り返しながら元の位置に還る(各組は三の時と反對の足から始めて反對の方向に進む)

五(16)呼

全體歩法二、を右に(8)呼、左に(8)呼する。

六(16)呼

一、四と五、八番生は直立のまゝ止まる、其の間に二、三と六、七番生は位置交換をする(二番生は歩法一をしながら三、四番生によつて保持されて居る布の下を潜り、六番生は歩法一をしながら七、八番生によつて保持されて居る布の下を潜る以上(8)呼。

全體第十三圖の様になり布は交叉になつて居るまゝ歩法四、を(8)呼する

【第二節】

一(16)呼

歩法一、をしながら第十三圖の矢の示す方向に廻る。

二(16)呼

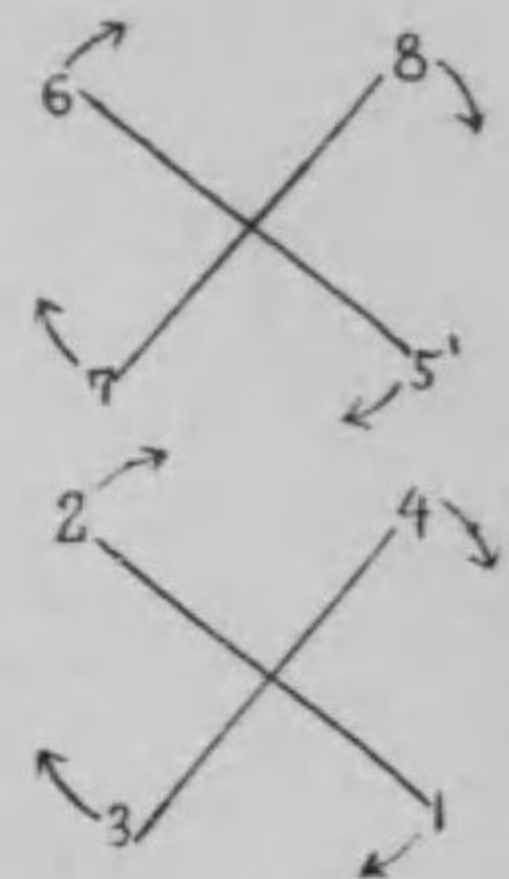
歩法一をしながら一と反對の方向に廻る、廻りながら第十四圖の様に分解して隔々の組は左手を繋ぐ。

三(32)呼

全體時計の針の廻る方向に廻りながら歩法三を左足からする。

一二 スカーフダンス

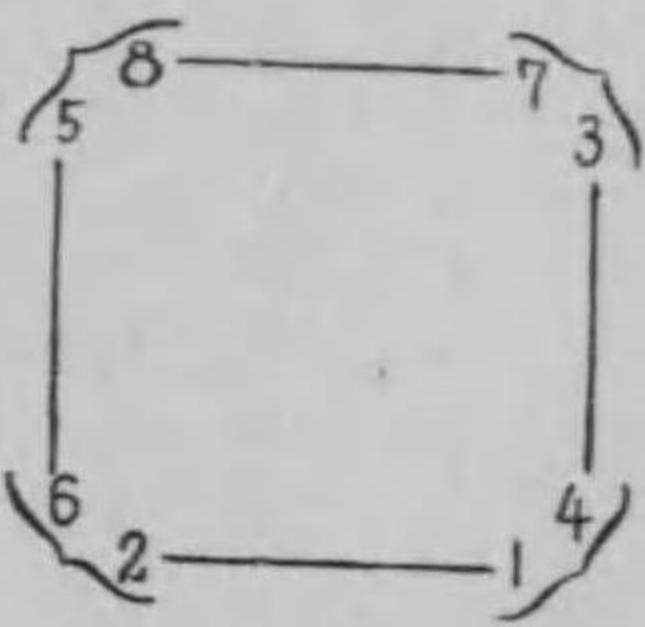
五一



圖三十第

四 (32) 呼

歩法一をしながら次第に布を米字形にかさねて八人の圓になる、最初の(8)呼で一、二番生が行進し、次の(8)呼で七、八番生が進む(七番生は一、二番生の布の下を潜る)、三、四番生は第三回目に(8)呼間で進む、五、六番生は最後の(8)呼間で進む、出来上つた處は第十五圖の様である。



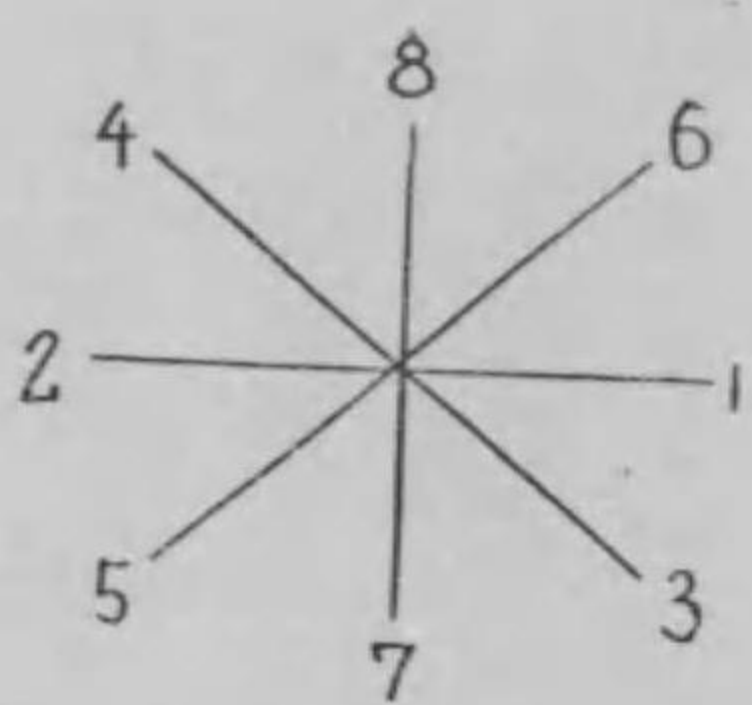
圖四十第

【第三節】

- 一 (32) 呼 歩法一をしながら全體時計の針のめぐる方向に廻る。(第十七圖)
- 二 (32) 呼 歩法一をしながら一と反對の方向に廻つて元の位置に還る。

(注)

意一、二番生の布は一番上に、五、六番生の布は一番下にある様に作る、各組の布は兩方からしつかり握つてきちんと張り、組み合つた四筋の布がしやんと張られて居なければならぬ。



圖五十第

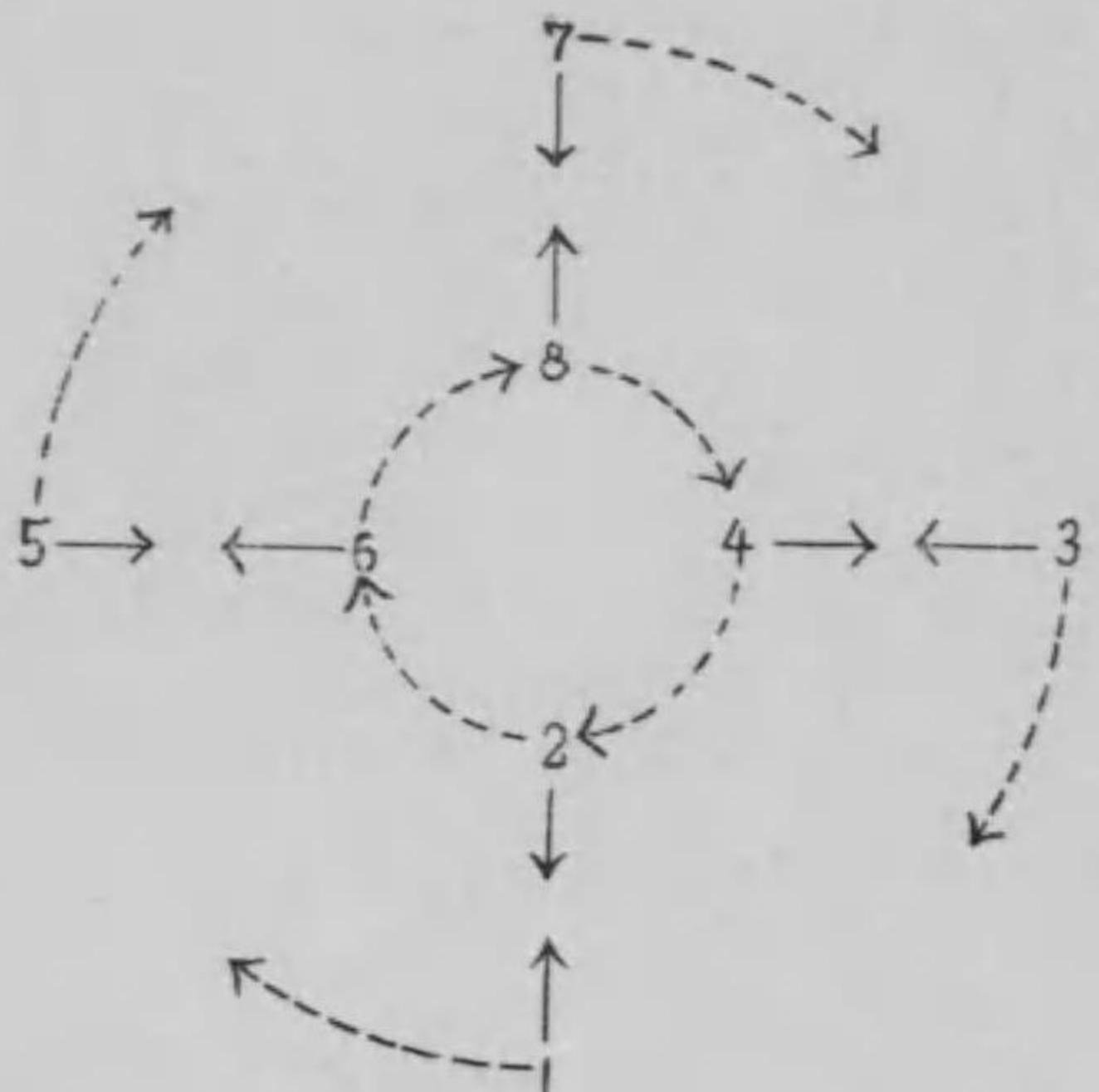
三 (32) 呼

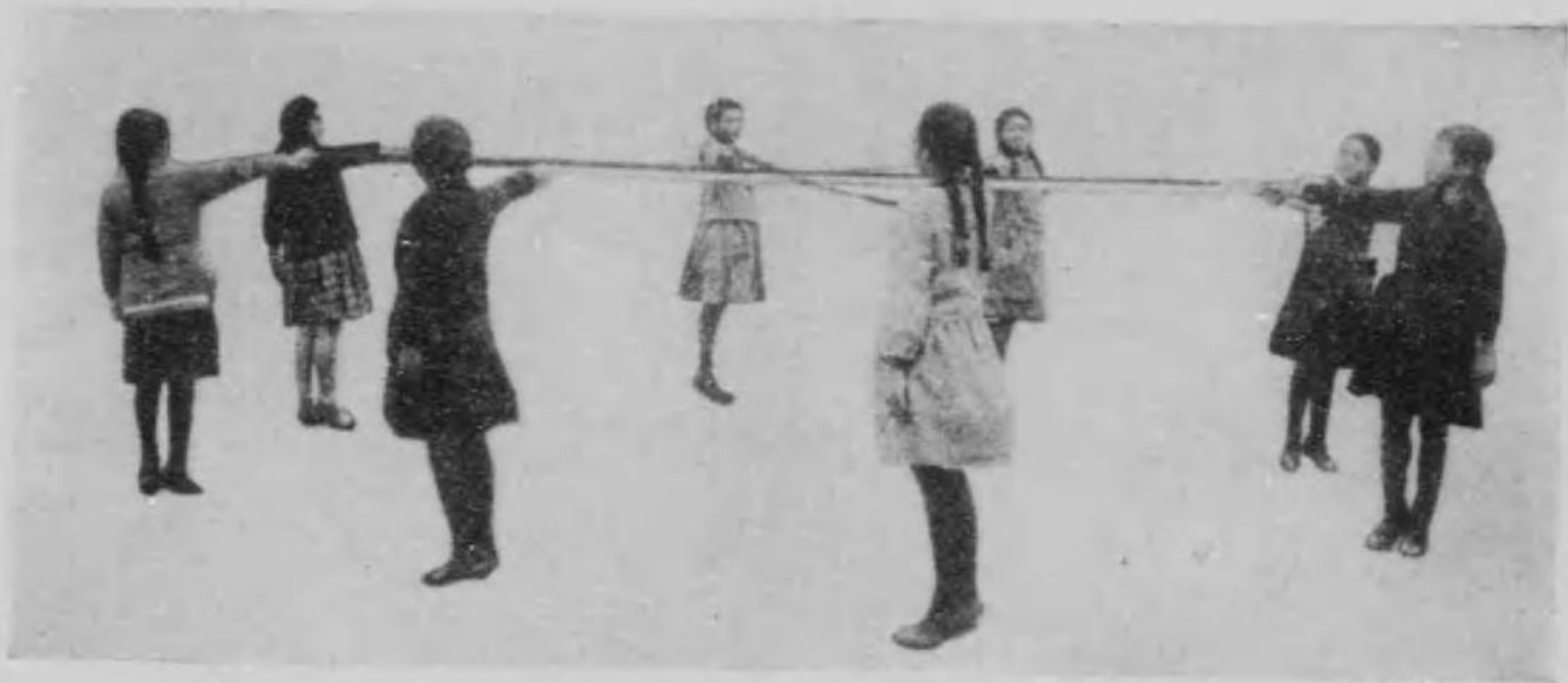
全體歩法一をしながら第十五圖のような位置につく。一、二番生は最初の(8)呼で動き、七、八番生は次の(8)呼で、三、四番生は第三回目の(8)呼で、五、六番生は最後の(8)呼で動く、最後の(8)呼で五六番生が動き出すと同時に八、四、二番生は中心に動いて全體第十六圖様になる。

【第四節】

- 一 (32) 呼 一、五、七、三番生は歩法五、をしながら時計の針の廻る方向に大股に跳んで廻る、同時に二、六、八、四番生は歩法四を歩幅狭くしながら相手との位置を保つて進む
- 二 (32) 呼 一と反對の方向に同じ歩法で廻りもぎす。

圖六十第





(一の節三第) スンダフーカス 圖七十第

三 (16) 呼 第十六圖の位置に於て(8)呼間全體歩法一をしながら各、自分の持つて居る布を高く舉げてその下を潜り始の向になるそれから歩法四を(8)呼間右と左にする。

四 (16) 呼 二、六、八、四番生は中央に立つたまま、留つて相手に向ふ。相手の者は左膝を屈ける、布は二、六、八、四番生は高く持ち一五、七、三番生は床につけて低く持つ。

(注意)

- 一 布を弛めない様にする事。
- 二 布を潜る時かまさない様にする事。

### 一三 スイリツシユクラツプダンス (楽譜1)

隊形 二列圓形 内生の右手と外生の左手を取りて圓周に向きて立つ。  
歩法

#### 【第一節】

一 (16) 呼 互に外側の足内生は左足、外生は右足より(1)にて踵を前床上につく、(2)は其の足の爪先を後方床上につく、(3)の時内側の足にて跳び。外側の足の膝を屈げて前に舉げ、(3)(4)にて外側の足より、チェンヂステツプ(3)で外側の足を出し、(3)にて内側の足を引きつけ(4)で更に外側の足を前に進むをなす、(5)より(8)までは内側の足にて同じ動作をなす、(9)より(16)までの八呼間は、チェンヂステツプをなす。

二 (16) 呼 前同様の動作を今一度繰返へす。

#### 【第二節】

一 (16) 呼 相手と向ひ合ひ、(1)(2)でおじぎ一回、(3)(4)は拍子(手を打つ)三回、(5)(6)はおじぎ一回、(7)(8)は拍子三回、(9)(10)は相手の右手と右手とで一回拍子

(11) は左手同士で一回拍手、(13)(14)は右肩引きに足踏四度しながら一廻轉  
 (15)(16)は大きく足踏三つなす。

二 (16)呼 前同様の動作を今一度繰り返へす。

### 一四 サークルダンス

#### 隊形

一列圓形 圓の中心に向つて立つ、

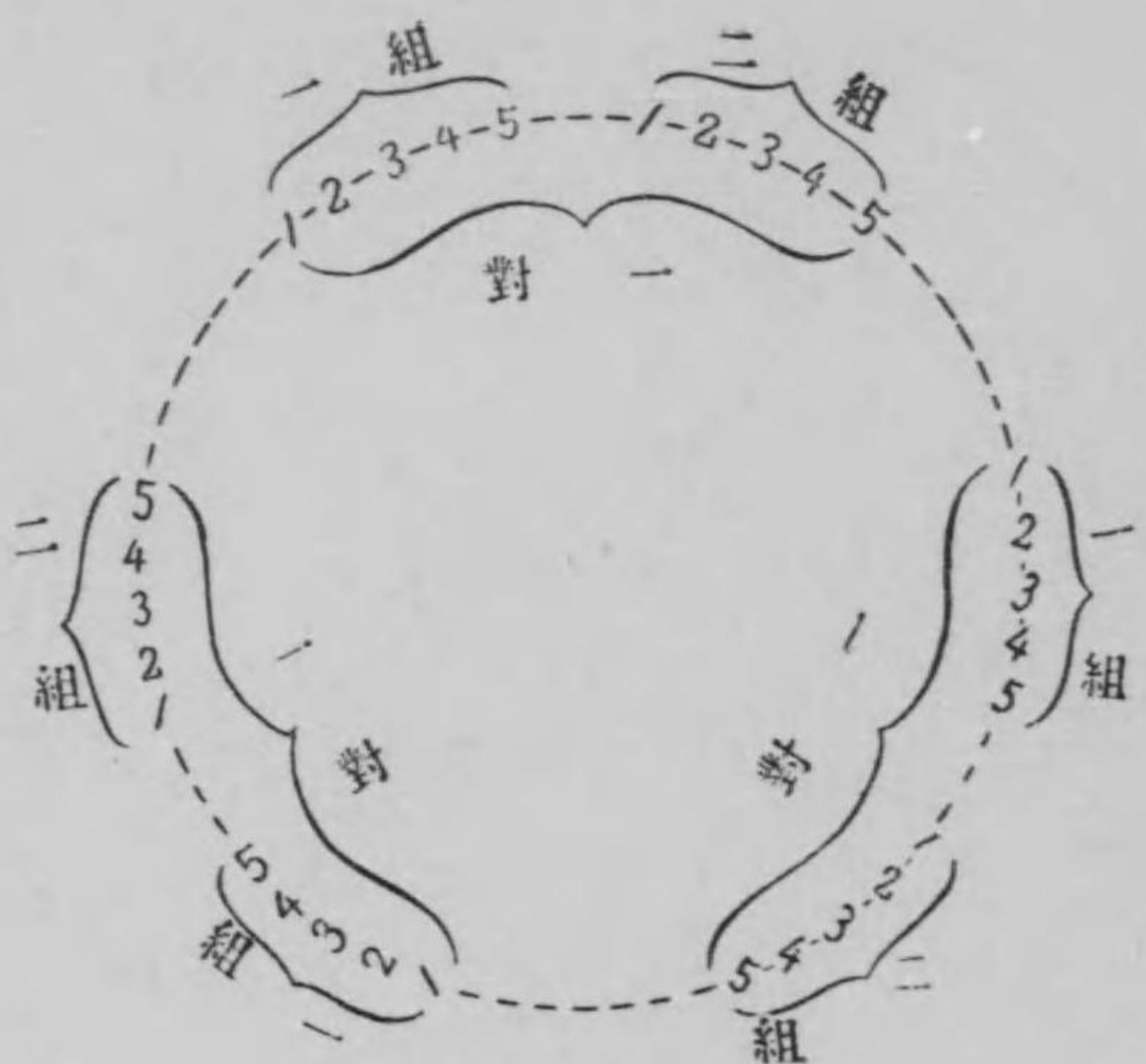
五の番號をつけて五人一組となり、更に其組が二つ合つして一對となる。

(第十八圖)

#### 歩法

一スキツピング(16)呼 (1)全體一列圓形

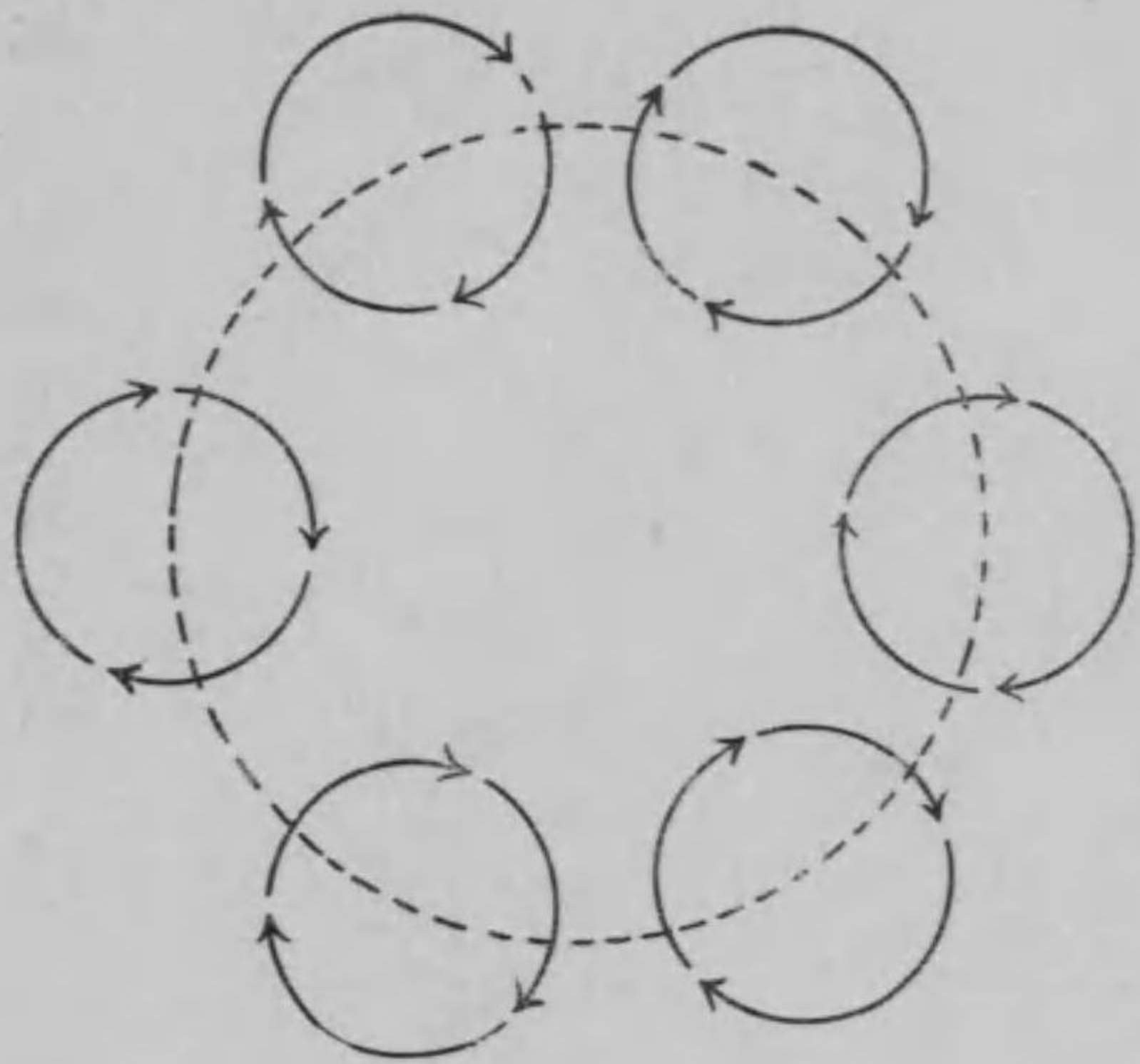
に連手、體を少し右に捻つて右足を右に出し、其右足で更に其場で跳ぶ、同時に左足は高く屈膝舉股、(2)左足を右足の右に出し、更に其場で跳ぶ、同時に右足は高く屈膝舉股、足頸をよく伸ばして。(8)迄右左交互に以上次の(1)―(8)體を左に捻つて同じ



圖八十第

を繰り返して圓心に對して右に廻はる、  
 一四 サークルダンス

動作で左に行き元の位置にかへる。



圖九十第

二足踏(8)呼 足踏(8)呼間に各組は

五人宛手をつないで皆後向即圓の外方を向いて小圓を作る。(第十九圖)

三スキッピング(16)呼 後向連手の

まゝ第十九圖の矢の示す方向にスキッピングで(8)呼行く次に前と反對の方向即左の方に同じ動作を(8)呼して元の位置に還る。

四足踏(8)呼 足踏をしながら第十

八圖の位置に還る、即全體同一圓周上に立つ。

五通常歩(8)呼 各組の三番生は中央に進んで三番生ばかりの圓を作り、残りの

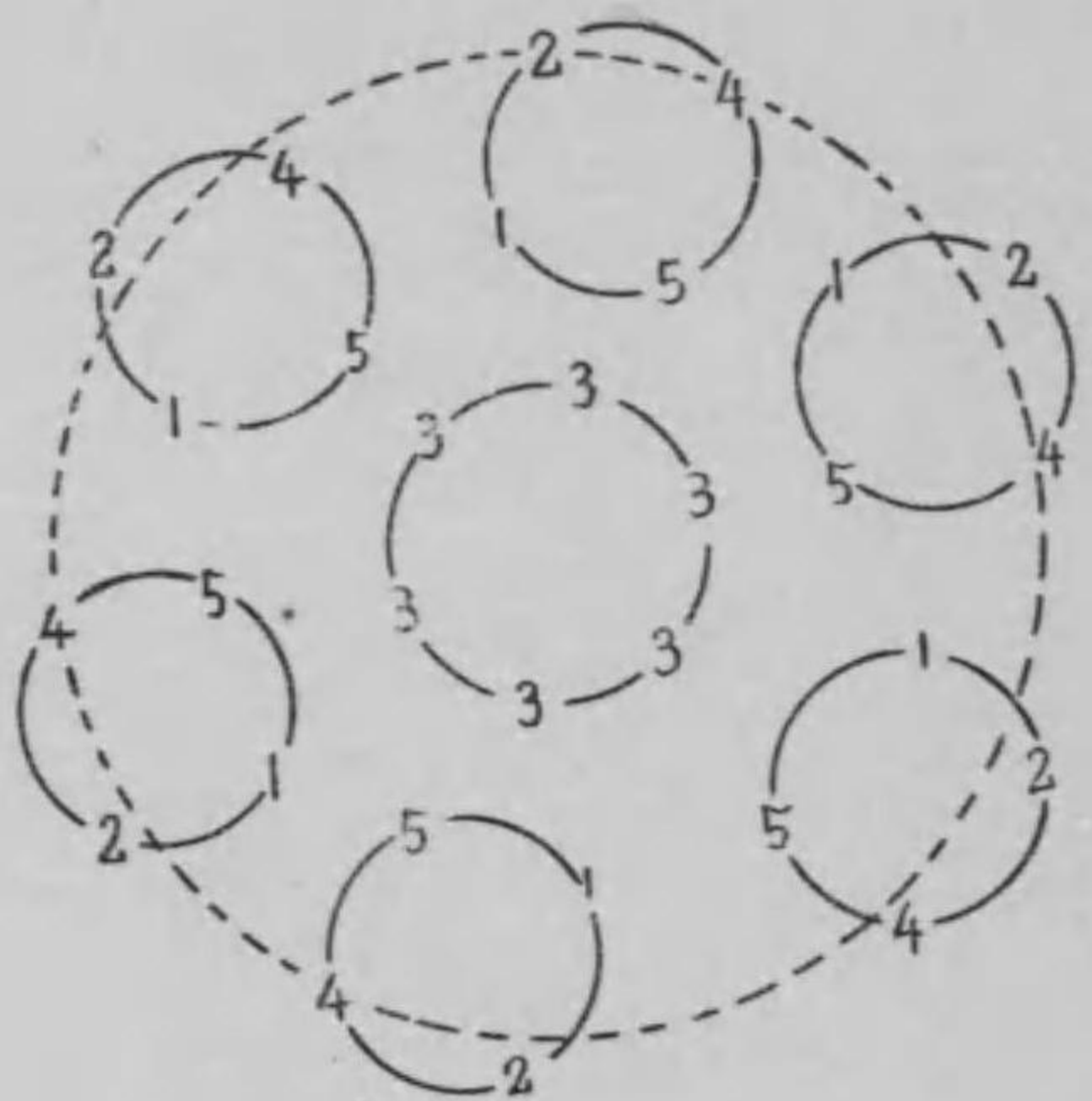
四人は其場で各小圓を作る(何れも圓の内方向に)、各圓は繋いだ手を高くあげる。(第二十圖)

六(16)呼 (1)右足を右に出す、(2)右足で

軽く跳び同時に左膝を屈げて足を後にあげる、(3)左足を左に出す、(4)左足で跳び、同時に右膝を屈げて足を後にあげる(右足で跳ぶ時は右上を見左足で跳ぶ時には左上を見る)、(5)―(16)以上を繰り返す。(第二十四圖)

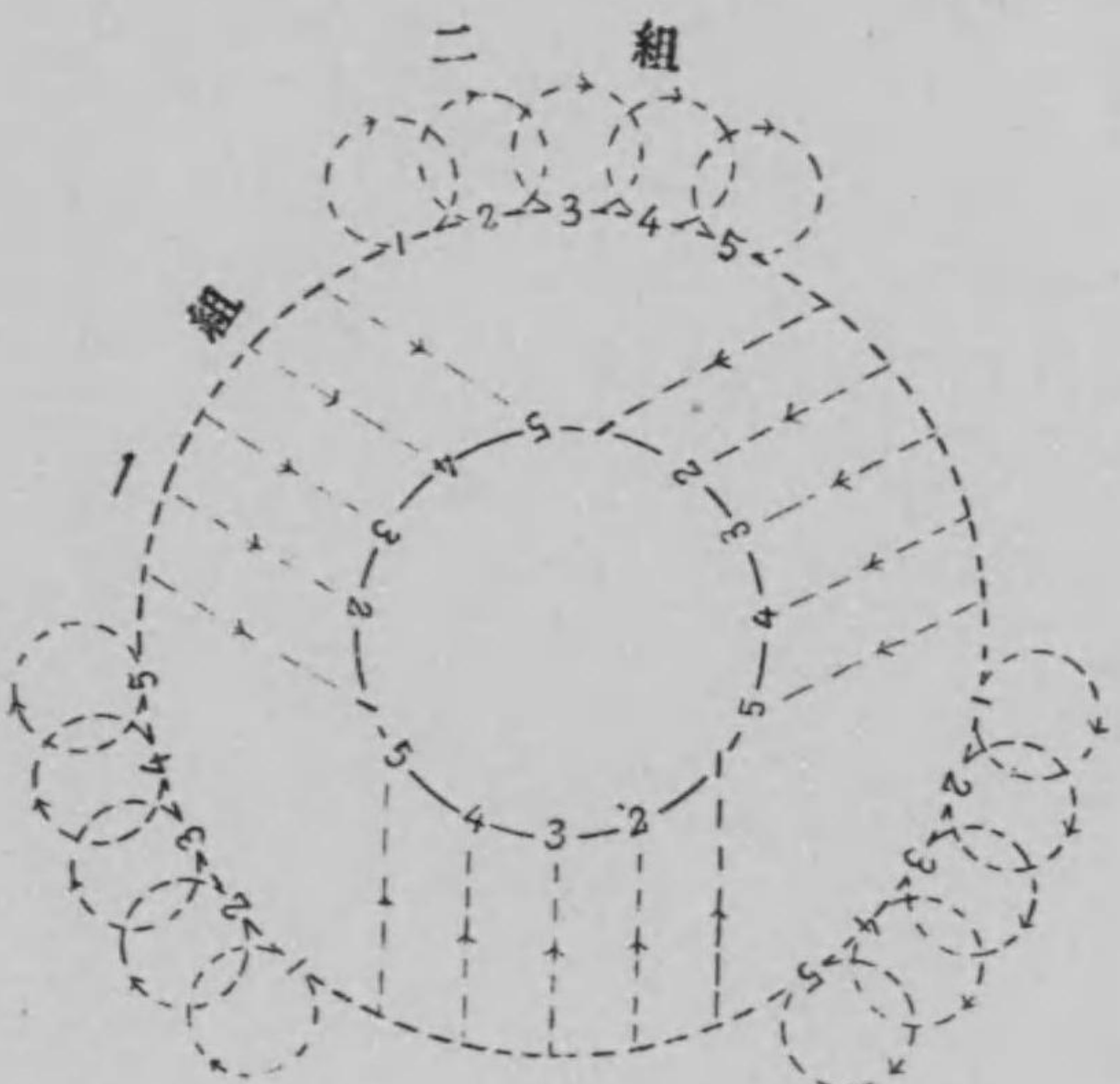
七解圓、通常歩(8)呼 通常歩(8)呼間に全體第十八圖の位置に還る。

八スキッピング(32)呼 一組は高く手を繋いでスキッピング(8)呼間に圓の中心に向つて進み、他の一組と手を繋いで一組ばかりの圓を作る(第二十一圖)次の(8)呼間にスキッピングで元の位置に退る、其間に二組は各自小圓を描

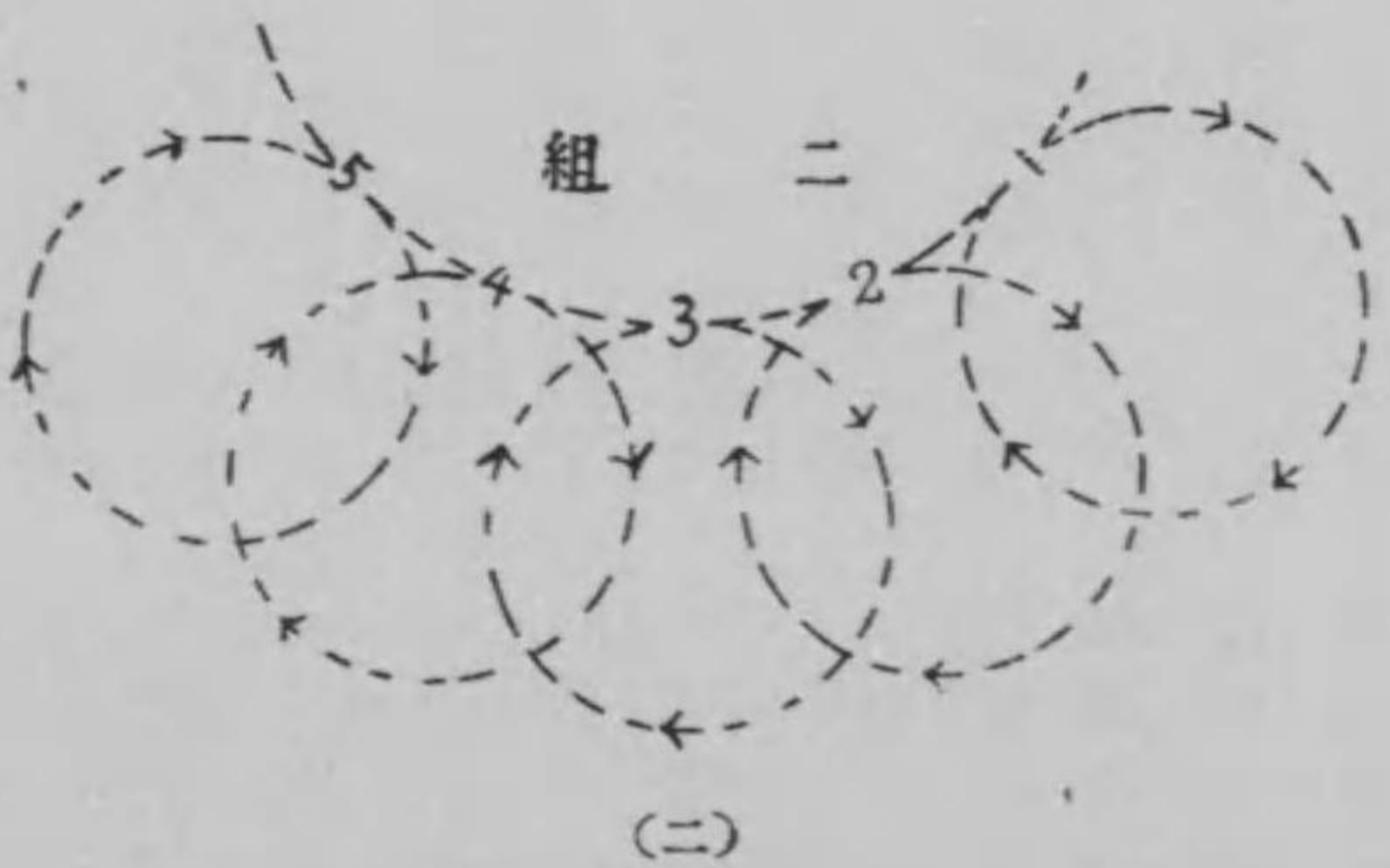


圖十二第

きながら右から左にスキッピングで一周する。(第二十二圖(一))

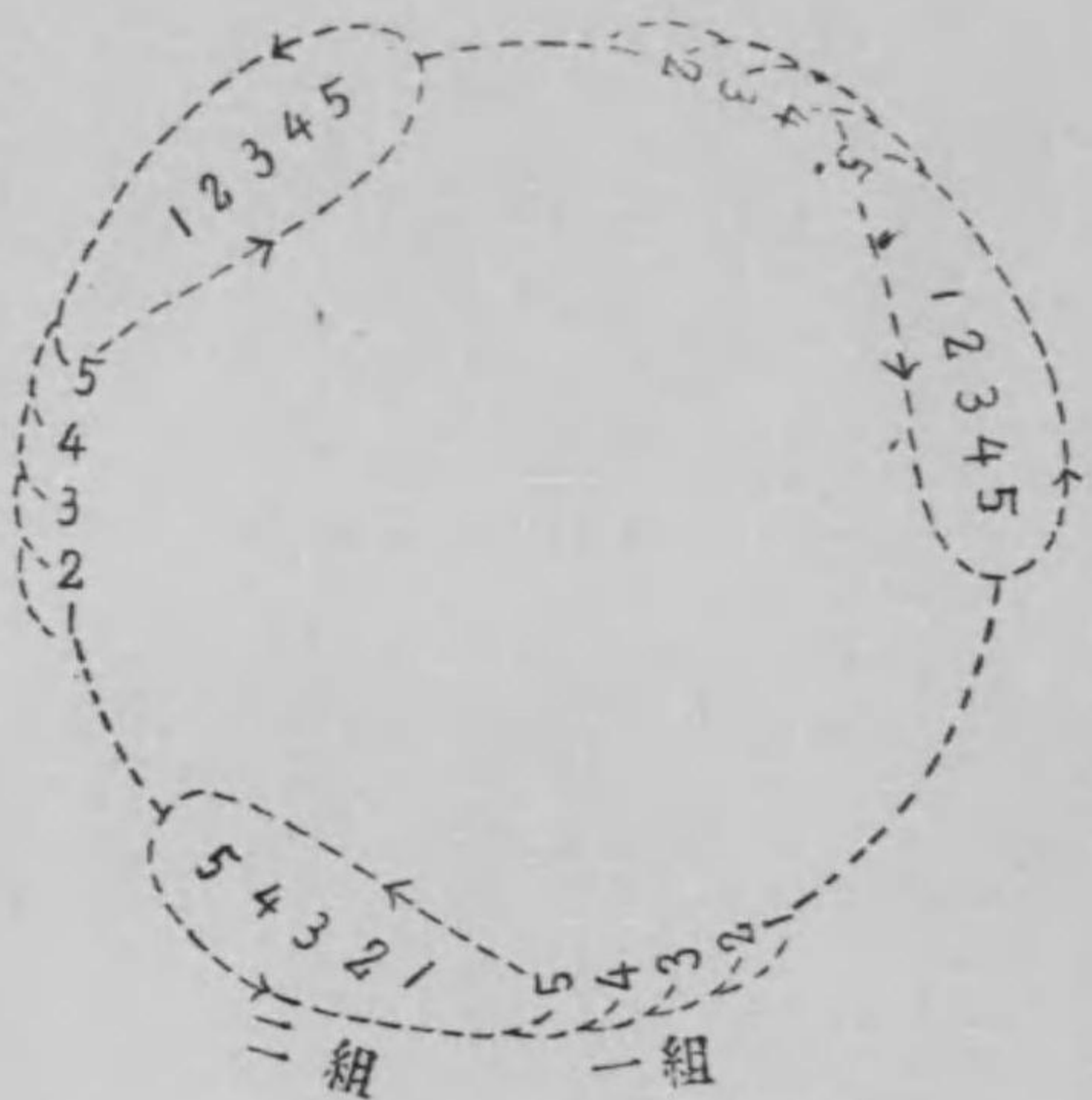


(一) 圖一十二第



(二)

次の(16)呼間は一組と二組とが代つて前と同じ動作をする、即二組が前に出て一組が小圓に廻る。



圖二十二第

姿勢がくづれない様に出来るだけ早く且回数多く右から左に廻轉する。

九片組スキッピング、他の片組片膝立  
 両手月見(32)呼 (16)呼二組は片膝立に跳  
 き両手をアーチ形に上にあげて  
 それに眼を注ぐ、其間に一組は  
 大股に手を振りながらスキッピ  
 ングで二組を前から後に廻はつ  
 て元の位置に還る。(第二十二圖及  
 第二十三圖及)  
 次の(16)呼は一組と二組と代つて同  
 じ事をする。

一〇 フェアリーターン(8)呼 両手をア

ーチ形に上に挙げ、踵をあげて



(九法歩) スンダルクーサ 圖三十二第



(六法歩) スンダルクーサ 圖四十二第

(注 意)

此のダンスは十人一對、五人一組としたが人数の都合によつては八人一對でも六人一對でもよろしい、從て四人一組、又は三人一組、となるわけである五人組と定めても、人員によつては或組丈が四人になり、他は全部五人としなければならぬ時もある、兎に角端數になつた生徒がのけものにされぬ様に教師は何か考へをつけて、臨機の處置を取らなければならぬ。

一五 エースオブダイヤモンド

隊形 歩法

二列圓形を作り内生の右手と外生の左手とを取りて立ち二人を一組とす。

【第一節】

一 (16) 呼 二人連手のまゝ互に外側の足(内生は左足外生は右足)より通常歩進にて進む。

二 (16) 呼 一と同じ姿勢にて外側の足よりスキツピング(前スカーフダンス歩法五参照)にて進む。

【第二節】

一 (8) 呼 (1)で自分の両手をボンと打ちならず、(2)で互に相手と右肘を組み合はせ組んだ手を中心内生は左足より外生は右足よりスキツピングにて右めぐりにて一廻轉して元の位置に復す。

二 (8) 呼 (1)は前の(1)と同じく左肘を組み合はせない前と反對に廻轉して元の位置に復す。



【第三節】

一(8)呼 前節が終ると共に兩人向ひ合つたまゝ、左手の上に右手を重ねて肘を肩の高さに上げる、(1)で外側の人は右足一步前に歩し、(2)で右片足跳び、左足は後方に擧ぐ、(3)は左足を(1)の如く前に出す、(4)は(2)の如く左片足跳び、右足を後方に擧ぐ、かくして(8)まで圓の中心に向つて進むこの時内生は(1)で左足を後方へ一步退く、(2)で左足にて跳び右足を前方に擧ぐ(3)で右足を後方に一步退く、(4)で右足にて跳び左足を前方に擧ぐ、此の動作を(8)まで圓の中心の方にしながら退く。

二(8)呼 前八呼間と同様の動作を内外生反對に内生は(1)で左足より進み(2)で左にて跳び、右足を後方に擧ぐ、(3)は右足一步前、(4)は右足跳び、左右を後方に擧ぐ(足頸をのばして)、外生は右足を後方に一步退く、(2)で右足にて跳び、左足を前方に擧ぐ、(3)で左足を後方に一步退く、(4)で左足にて跳び、右足を前方に擧ぐ、かくして兩生共(8)までなす。

【第四節】

一(16)呼 前節が終ると同時に向ひ合つたまゝ、外生の左手と内生の右手とを取

り他の手は腰に取る、(1)で外生は右足を右に、内生は左足を左に一步出し(ど)にて互に他の足を引きつけ(2)にて更に一の足を出す(チェンヂステツブ) (3)は互に内側の足(内生は右足、外生は左足)を前方に出し兩人肩中合はせになる、(ど)にて外側の足を引きつけ、(4)で更に内側の足を一步出す(5)(ど)(6)は(1)(ど)(2)に同じ、(7)(ど)(8)は(3)(ど)(4)に同じ、かくして(13)(14)で止り向ひ合ひになつたまゝ、(15)(16)は二人にておじぎをなして終る。

### 一六セボガ (樂譜と)

隊形 一列圓形二の番號を附けて、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

#### 【第一節】

一(16)呼 全體手を取り、左足より左方にガロツプ(1)で左足を左方に踏み出して直に右足を左足側に進めて元の姿勢になり、(2)にて又(1)如く行つて進むにて(7)まで進み(8)にて右足を前左方に振り挙げ同時に左足で一回とぶ。前八呼間と同様の動作を右足より右方になして(8)の時は左足を前右の方に振り挙ぐ。同時に右足にて一回とぶ。

二(8)呼 一の時と同様に手を取りたるまゝ、左足より圓の中心に向つて三步(1)(2)(3)と進み、(4)の時右足を左足に揃へ(5)(6)(7)と三步右足より後にさがり(8)にて左足を右足に揃ふ。

#### 【第二節】

一(8)呼 一番と二番は互に右肘を組み合せ左手を上方にアーチ形に挙げ一番は

右足より二番は左足より始めてスキツピング(前スカーフダンス歩法五参照)にて一廻轉する。

二(24)呼 一番と二番は互に向ひ合つて兩手を相手の肩の上に乗せて圓の中心に向つて内側の足(一番は右足、二番は左足)より(1)にて一步進み、(2)にて外側の足を内足の足に揃ふ、かくして(8)までに四歩進む。

前八呼間と同様の動作を外側の足より外方に向つて(8)まで進み元の位置にかへる。

前同様に更に四呼間(二歩)中心に進み四呼間を外方に進む。

三(8)呼 第二節の一(8)呼と同様の動作をなして終る。

### 一七 アスレチックダンス

此のダンスは、ランニング、砲丸投、立幅跳、槍投、走高跳、圓板投、リレーの七競技の形を探りてダンスに仕立てたものである。

隊形 體操の排列  
歩法

一ランニングの形(32)呼 (1)ランニングに於けるスタートの姿勢をとる。即右足を半歩後に引き、其膝を屈げて、膝頭を地に着け、左膝を立て、両手を左足の左右につけ、(四指外拇指内につける)體を前に屈げる、(2)は(1)の姿勢を保持す、(3)は左膝を伸ばし即ちその膝頭を地から浮かせて、體を少し起して前方を見る、(4)は(3)の姿勢を保持す、(5)と(6)で右、左、右と前方に三步駈歩をし、(6)の時決勝線に入つた時の姿勢を取る。即両手を上へ挙げ左足を後に挙げる。(7)で左向いて両手を下す。  
以上の歩法を四回繰り返す、其度に新方向に向つて進む。(第二十五圖)

二砲丸投の形(32)呼 (1)左臂を左斜上に挙げ、右手は砲丸を握つた形にして右耳

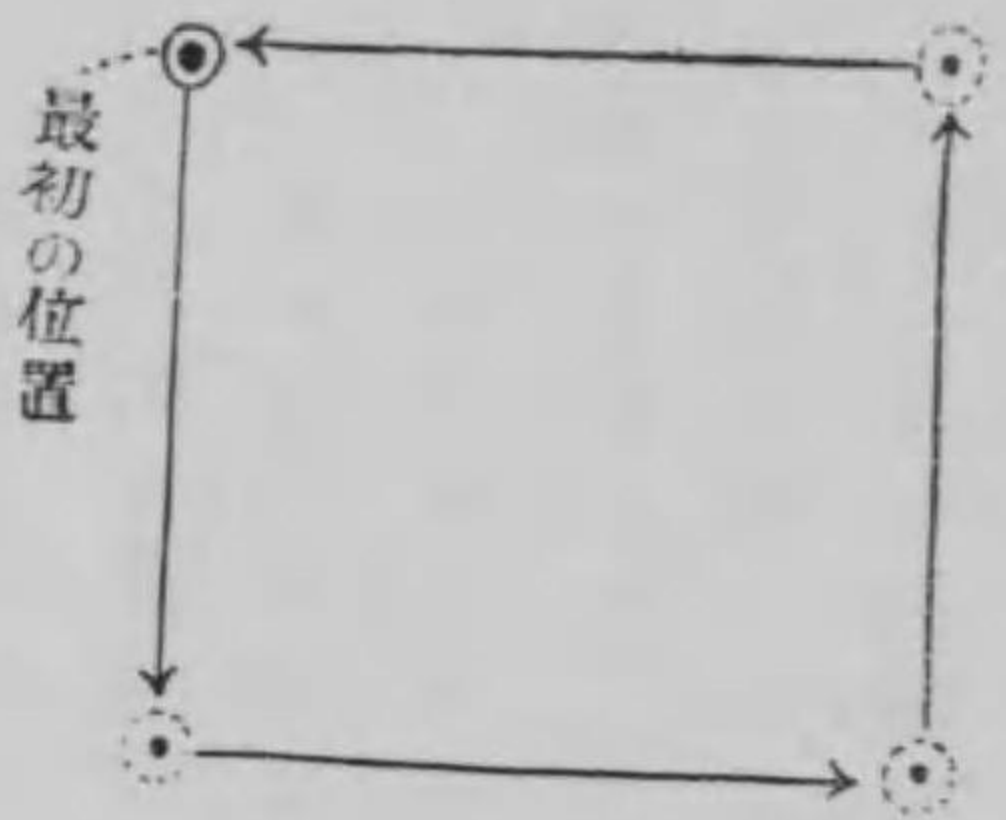
の後に持つて行く、右足を後に引いて、體重をそれに加え、眼は左手先を通して、砲丸を投んとする遙か向ふの方を凝視する、(2)は(1)の姿勢を保持する、(3)は右足で跳び、左足は浮かして置く、(4)左足を地につける

(5)右足を前に踏み込んで、砲丸を前上に投げる形を取る。即右手を前上に投げ出し、左手を後に伸ばして、左足後に挙げる、(6)は(5)の姿勢を保持する、(7)兩臂を下し、兩足を揃へて左を向き、直立姿勢になる。(8)休む。

以上の歩法を四回繰り返す、方向は前同様

第二十五圖の矢の示す方向を探る。

三立幅跳の形(32)呼 (1)兩臂を上へ挙げて、且踵を挙げる、(2)は(1)の姿勢を保持する、(3)は半膝を屈して、臂を下す、(4)は(3)の姿勢を保持す、(5)兩臂を上へ挙げて前に跳ぶ、(6)は(5)の姿勢を保持する(7)は兩足で跳んで左を向きながら、兩手を下す、(8)休む。



圖五十二第

以上を四回繰り返す、方向は前同様にする。

**四 槍投の形** (32) 呼 (1) 砲丸投の(1)の形と同じくする、但右手は槍を握つた形を採つて、耳の後に持つて行く(軽く握り拳を作る)、(2)は(1)を保持す、(3)は(4)左右左と前に三步駆歩で進む、(5)右足を前に強く踏み込んで、左足を後にあげる、右手は槍を投げた時の様に前上に投げ出し、左手は後に伸ばす、(6)は(5)を保持す、(7)右足を引附けて左を向き、両手を下して直立姿勢に還る、(8)は休む。

以上を四回繰り返す、進む方向は前同様に毎回方向をかへる。

**五 走高跳の形** (32) 呼 (1) (2) 左右と二歩前進す、(3) (4) 左右左と三步駆歩前進(5) 小供が蠅跳をする時の様に右足で高く跳んで、空中で左廻りをして、地上に附く、同時に左足は膝を屈けて高く後に挙げ 両手は上に挙げる、(6)は(5)を保持す、(7)は直立姿勢になる、(8)休む。

(注 意)

此歩法は、今迄とは違つて、跳上つた時に百八十度廻轉して後向となる。以上を四回繰り返す、従つて方向は同じ道を往復二回する事になる。

**六 圓板投の形** (32) 呼 (1) 左足を前に出し、膝を屈げて、體重をそれに移し、而して両手を合して、圓板を握つた形を採り、左膝の邊に振り出す、(2) 右膝を屈げて、それに體重を移しながら左膝を伸ばし、両手を右膝の邊に振りもどす、(3) (4) 圓板を右手に持ち、左手を下げて、左廻りにくるくる廻はり乍ら膝を稍低くして、左右左と三步、足を運んで前進す、(3) 左足を前に出す、(4) 右足を(3)と同方向に出すと同時に左に百八十度廻轉して後向になる、(4) 左足を(3)と同方向に出すと同時に更に左に百八十度廻轉して始の向に還る、之で一廻轉したのである、(5) 圓板を前上に投げた形をどる。即右足を強く前に踏み込んで、左足を後に挙げ、右手を上前に挙げ、左手は後に伸ばす、(6)は(5)を保持する、(7) 直立姿勢をとりながら左を向く。(8) 休む。

以上を四回繰り返す、方向は歩法一に同じく度毎に方向をかへる。  
**七 リレーの形** 此の歩法は退場の時に用ふるが、前の様に繰り返してやつてもよろしい。

**A 退場の場合、(1) (4)、第一列生と第二列列以後の者(四列排列なら三列全部)**

とは異つた動作をする。

第一列生は歩法一のランニングのスタートの姿勢を取り、(1)―(4)迄に歩法一の(1)―(4)迄と同じ動作をする、(5)からは駈歩で都合好い位置迄退場する、但拍子を合はせ、且つ二列以後の者と動作を合はせて進む。

第二列以後の者は、(1)右足を後に引き、(2)は(1)を保持す、(3)左膝を屈し、體を少し前に傾けて、右手を右後に廻して、リレーの棒を受け取る様な恰好をし頭も亦後に廻して右手を視る、(4)は(3)を保持する、(5)から駈歩退場、第一列生と歩調を合せて、一緒に列を亂さない様に去る。

B 退場せずに繰り返へす場合、(16)呼又は(32)呼

二列横隊と假定して説明する。

前列生は退場の時第二列生以後の者が採つた形即リレーの棒を受け取る姿勢を(1)―(4)迄して、(5)―(8)駈歩で前に進む。

後列生は(1)―(4)は退場の時第一列生が採つたスタートの姿勢をとる、(5)走り出す時、前列生の掌を打つ(リレーの棒を渡した積り)、(8)まで前列生と拍子を合はせて前に走る、次の(1)で前後列生はともに廻はれ右をする、今度は前列

生が後列となり、後列生が前列となつた譯である、従つて次の(8)呼間は前と反對の動作を各列が繰り返して行けばよい。

(注 意)

- 一 これは列が亂れ易いから始終氣をつけて居なければならぬ。
- 二 此のダンスは直線的の動作ばかりであるから、其の質に合ふ様に、活潑に、勢よくしなければならぬ。

### 一八雪 車

隊形 八人一組 位置のつき方は各節に示す。  
必要な歩法

一(8)呼 (1)右足で右に跳び、(2)右足の拇指側に左足爪尖をつけて、膝を外に開く、(2)左踵で前方の床を打つ、(3)―(8)以上を繰り返す。

二(8)呼 (1)左踵で、右踵をこつんと打つ(直立の姿勢から左足を左方に少しく舉げ急に下して)。(2)左踵で左方を打ち直ちに左足に體重を移して踏み、(2)右足を強く左足後の床に踏つけてから直ち其の踵をあげる、(3)―(8)以上を繰り返す(組は兩方共に同じ方向に向き、内側の手を交叉して相手の内側の腰を支へ、外側の手は掌上に横にあげる)。

三(8)呼 (1)兩足で跳び、同時に體前で拍手一回。(2)右足で跳び、同時に左膝を屈げて左足を後にあげ左足尖を右手で打つ、(3)兩足で跳び、同時に體前で拍手一回、(4)左足で跳び、同時に右膝を屈げて右足を後に舉げ右足尖を左手で打つ、(5)―(8)以上を繰り返す。

四(8)呼 (1)左足で跳び、右足を膝をく外に向けて少し屈指爪先を左足後方につける。(2)之を右足中心になし、(3)―(6)之を左右交互に繰り返す。最後に兩足を揃へる(手は最初から腕組して肘を肩の高さに保つ)。

五(16)呼 (1)―(4)右足を右に出し、右膝を屈げる(手は握つて前と後に伸ばす、即ち右の手は、右足の方向に、左手は、左足の方向に)、(5)―(8)四度ギャロツプをしながら右に行き、最後に反對の方向に向く。(第二十七圖(1))  
次の(1)―(4)右足を右に踏み出し、(5)―(8)四度ギャロツプをしながら元の位置にかへる。

六(16)呼 (1)―(8)全體右肩越に相手を見る、右手でお互に腰を支へ、左手を横に伸ばす、足尖を廣く左に出し右足で八度跳びながら右に廻轉する(左足は廻轉に従つて動かす)。  
次の(1)―(8)手と、足を取り替へて前と反對に廻轉しながら同じ動作を繰り返す。

七(8)呼 (1)―(2)右足を大きく前に出し、左足爪尖を、右踵の後に持つて行く、(3)―(4)は(1)(2)に同じ、(5)―(6)左足を左に強く踏みつける、(7)(8)兩足を揃

へる(各組は右肩通過をして、お互に左肩越に見る)。

八(8)呼 頭の後で手を打ち、(1)―(8)兩足で八度跳びながら右廻りに一廻轉する

九(8)呼 踵で駈歩八つ、足頸と膝とをよく伸ばして、右左交互に強く足を前に蹴りあげて前に進む。

左

【第一節】

全體第二十六圖の様な位置につき、前に向く

(8)呼 全體歩法一をして場所を變へる、一、

二、三、四、番生は左足から、五、六、

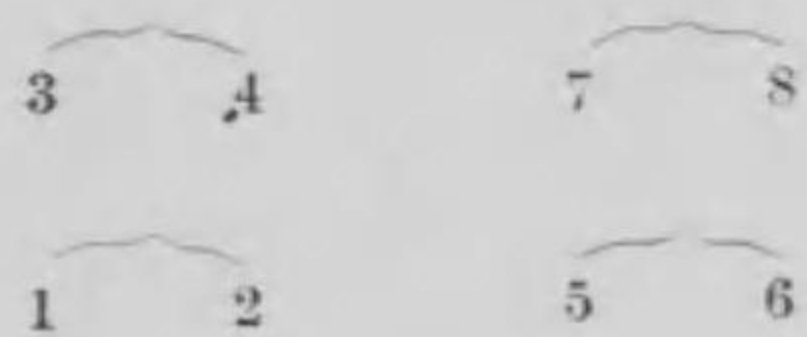
七、八、番生は右足から始める。そして

一、二、三、四番生はそれ〴〵五、六、

七、八番生の前を通過する。

(8)呼 全體歩法二をして元の位置に還る。

後



前

圖六十二第

右

(16)呼 以上を、も一度繰り返して、最後に各組は對向になる。

【第二節】

(8)呼 全體歩法三をする。



雪 圖七十二第 (節二第) [一] 車



雪 圖七十二第 (節三第) [二] 車

(8)呼 全體歩法四をする、四、七番生は

二、五番生と共に

通過しなければな

らない、それで全

體は、第二十八圖

の矢の示す方向に

向つて進み、通過

の時には、二、四

番生が外を通り、

五、七番生が内側

を通る。

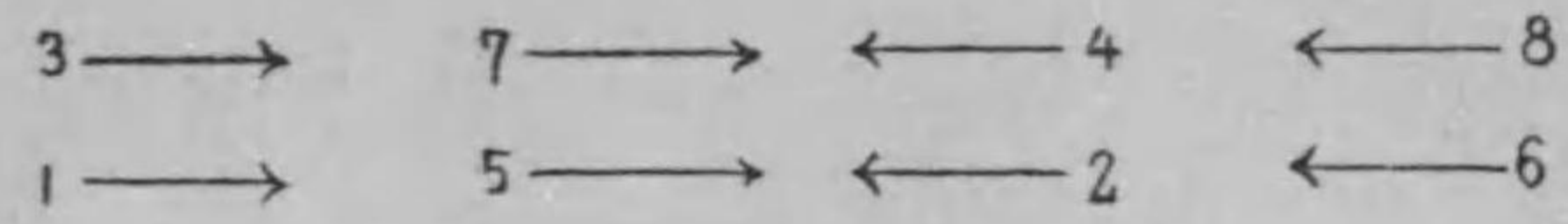
(16)呼 全體歩法五を第

廿八圖の様な位置

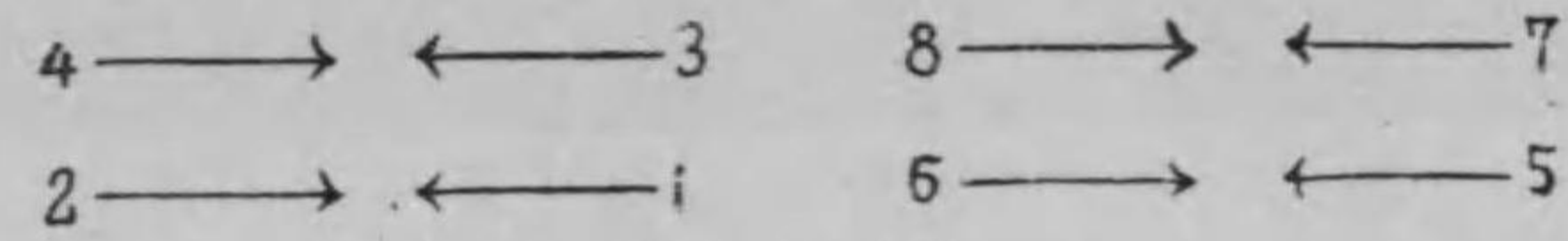
です。(第二十七圖(一))

七七

七七



圖八十二第



圖九十二第

最初の(8)呼の最後では(8)の時全體第二十九圖の様な位置につき、矢の示す方向に向く、(16)呼の最後では(16)の時全體が第二十六圖の位置に還り、各組は向對になる。

【第三節】

(16)呼 全體歩法六を右に廻りながら(8)呼して、次に左に廻りながら(8)呼する。

(8)呼 全體歩法七をする。それで今は第二十九圖の様な位置になつて居る。(二十七圖(二))

(8)呼 全體歩法八をする。

(32)呼 以上をも一度繰り返す、そして第二十六圖の様な位置につき、各組は對向になる。

【第四節】

(8)呼 右足から始めて歩法一をする、それで一、三、五、七番生は前を、二、四、六、八番生は後を通過する。

(8)呼 全體歩法二をして元の位置に還る。  
(16)呼 以上をも一度繰り返す。

【第五節】

第二節に同じ。

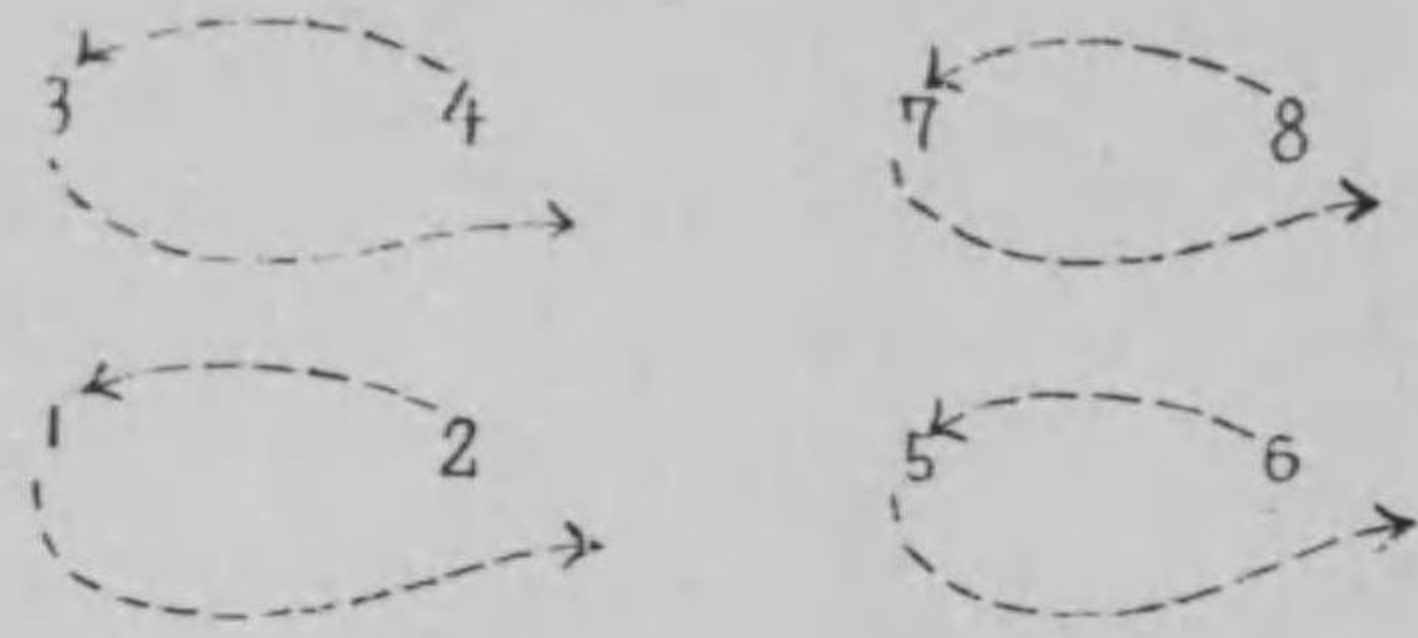
【第六節】

第三節に同じ。

【第七節】

(8)呼 全體歩法一を第四節の様に右足から始めて行ふ。  
(8)呼 全體歩法二をして元の位置に還る。  
(16)呼 以上を繰り返す。

(4)呼 全體歩法二を後の方に四呼して、各組はお互に遠ざかる様になる。  
(12)呼 全體歩法四をしながら第三十圖に於ける様に働く、即二、四、六、八



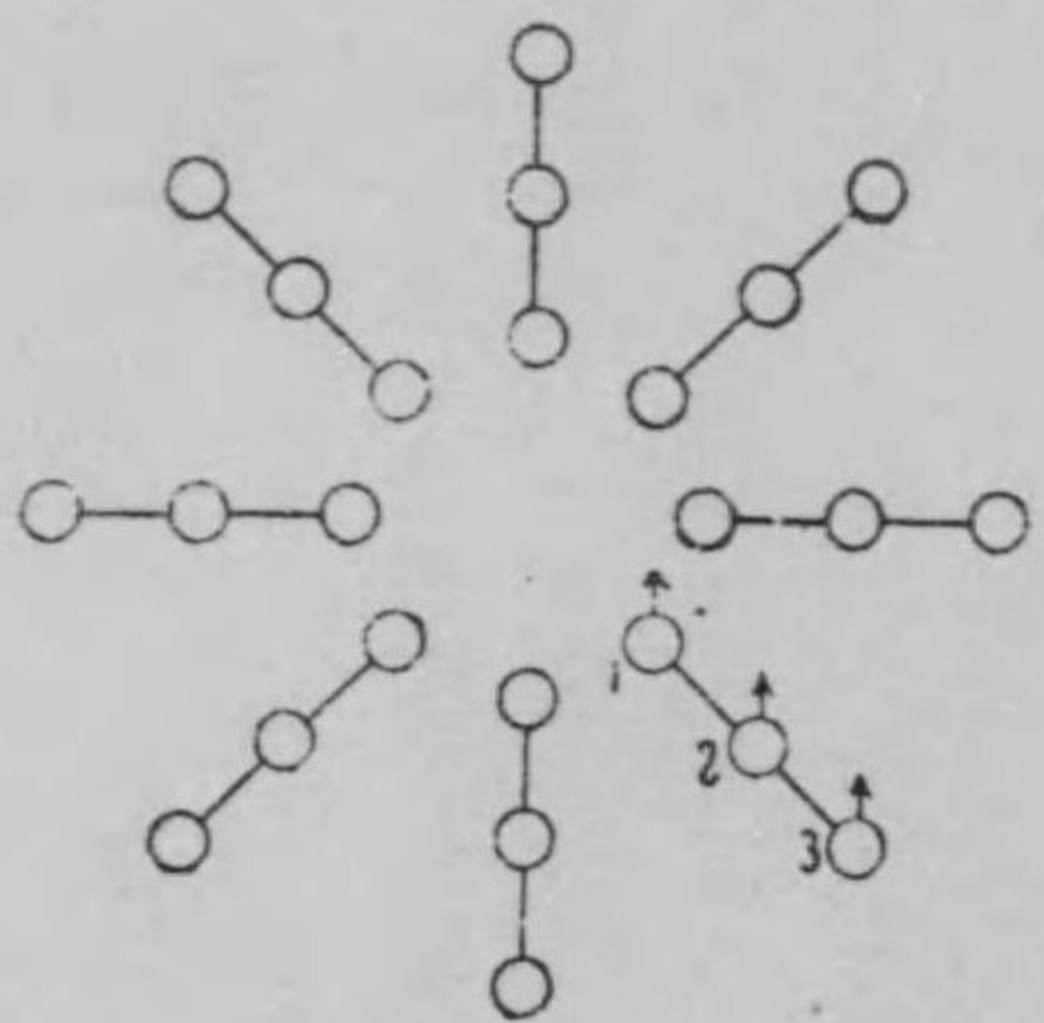
圖十三第



番生はそれぐ一、三、五、七番生に従つて動けばよい。

### 一九 五分間ダンス

**隊形** 圖の如く三列圓形を作り(第三十二圖)一二三の番號を附し、圓周に向つて立つ  
**歩形** 全部駢歩を以つてなす。



第三十二圖

#### 【第一節】

- 一(8)呼 三人一列のまゝ、お互に接し合つてゐる手を取り左足より圓の内方斜前に(圖の矢の示す方向)軽い駢歩にて進む。
- 二(8)呼 前同様の動作を圓の外方前に進む。

#### 【第二節】

- 一(8)呼 二番生と三番生との間の手を高く擧ぐ(1)より(4)までにその下を一番生が前よりくゞる、そしてくゞつたばかりのところで進まずに待つてゐる。(5)より(8)までに三番生は手をとつたまゝ、前に進んで一番生の元ゐた場所に進む、二番生はこの時手が交叉になつてゐるからくるりとひつくりかへる。三人

共廻れ右をした形になる。

二(8)呼 前同様動作を今一度繰り返して始めの位置にかへる。

【第三節】

一(8)呼 駈歩にて前進す。

二(16)呼 三人にて圓形を作り左方に十六呼間めぐる。

【第四節】

一(8)呼 一番生と三番生の間の手をはなし元の様に一列になり八呼間前進す。

二(8)呼 一番生と三番生は進まずに其の場で駈歩足踏、二番生は前の列の二番生のゐたところに進みて新しき相手となり又第一節より繰り返す。かくて最初の相手と相會するまで続ける。

IIII ベビーポルカ

隊形 二人對向の二列圓形、又は二列横隊。



第三十三圖 (一法步) カルボービベ

歩法

一 シングルベビー (16) 呼 (1) 右足を前に出す、同時に右腕を屈げて、人差指を立て、對向生の鼻を指差す。左手の甲で右手の腕を支へる (第三十二圖) (2) は (1) の姿勢を保持す、(3) 直立姿勢に還る、(4) 休む (5) (8) 右足の小趾側に、左足爪尖をつけて交叉し、兩踵を舉げて右廻りに一廻轉する、其間に右手を左耳の邊から頭上に高くあげ、それから右後に大き

一〇 ベビーポルカ



（三法歩）カルゴビーベ 圖三十三第

く廻しながらおろす。次に手と足を左に取り替へて前の(1)―(4)迄をなし、(5)―(8)迄に左廻りに一廻轉しながら左手を右手でした時の様に動かす。

ニダブルベビー

(8)呼(1)跳んで右足を前に出す(左足その位置)同時に右手を上左手を下に胸の前に於て手頭の處で交叉し、指は人差指だけを立て、對向生の鼻を指差す、(2)手は(1)の姿勢のまま、上下に軽く振る、足は其のまま、(3)―(4)左手を上、左足を前にかへて、(1)(2)と同じ動作をする。(5)(6)手を前で打ち降して横に開いてから頭上に高くアーチ形に擧げながら

右廻りに後向きになる。(足は左足を前に出したまゝ、足尖だけを後に廻して體の向に従はず)、(7)(8)手は(5)(6)と同じ、足は前のまゝ、足尖の向だけをかへて左廻りに體は始の向にかへる。

三ホップ

お招き、點頭(16)呼 圓の内側の者は自分の相手の外側の者を招き方の説明は後にする。招きながら右足からホップをして後に退がる、(8)呼間同時に外側生は手を腰にして偶數呼の時ベヨンと頭を下げてうなづきながら内側生に従つて内に進む。(第三十三圖)

次の(8)呼間は外側生お招き、内側生點頭ホップで外に行つて元の位置に還へる。(第三十三圖)

お招きの手は人差指だけを立て、他の指は軽く握り、頭の前上から鼻の前を通つて下におろす、手の甲を自分の方に向けて軟かに動かす。

四別れ

(4)呼 (16)呼外側生は直立のまま、動かない、内側生はスキツピングで右足から始めて外側生の右、後、左と通過して一周し、前に来た時相手と右手を握り合つて握手をする、手を離して各々右手を上にあげて出来るだけ早く手頭から先を振る(汽車の別れに手又はハンカチーフを振つて名残

りを惜む様な氣持で手を振る、内側生は手を振りながら引き續きスキツピングで後に退る。(始から終り迄内側生はスキツピングを休む事なし)

(16) 呼 今度は外側生が代つて内側生を前の様にして廻る。

(8) 呼 二人は直立のまま、眼を見交して、両手を上にあげ、手頭から先を出来るだけ速かに振る。

五 シングルベビー (16) 呼 歩法一を繰り返す。

六 フェアリーターン (8) 呼 両手を頭上高くアーチ形に舉げてそれに眼を注ぎ、踵を舉げて出来るだけ早く右廻りに幾回も廻轉する。廻轉の数は多い程よろしいが姿勢が崩れない様に注意しなければならない。

〔注意〕

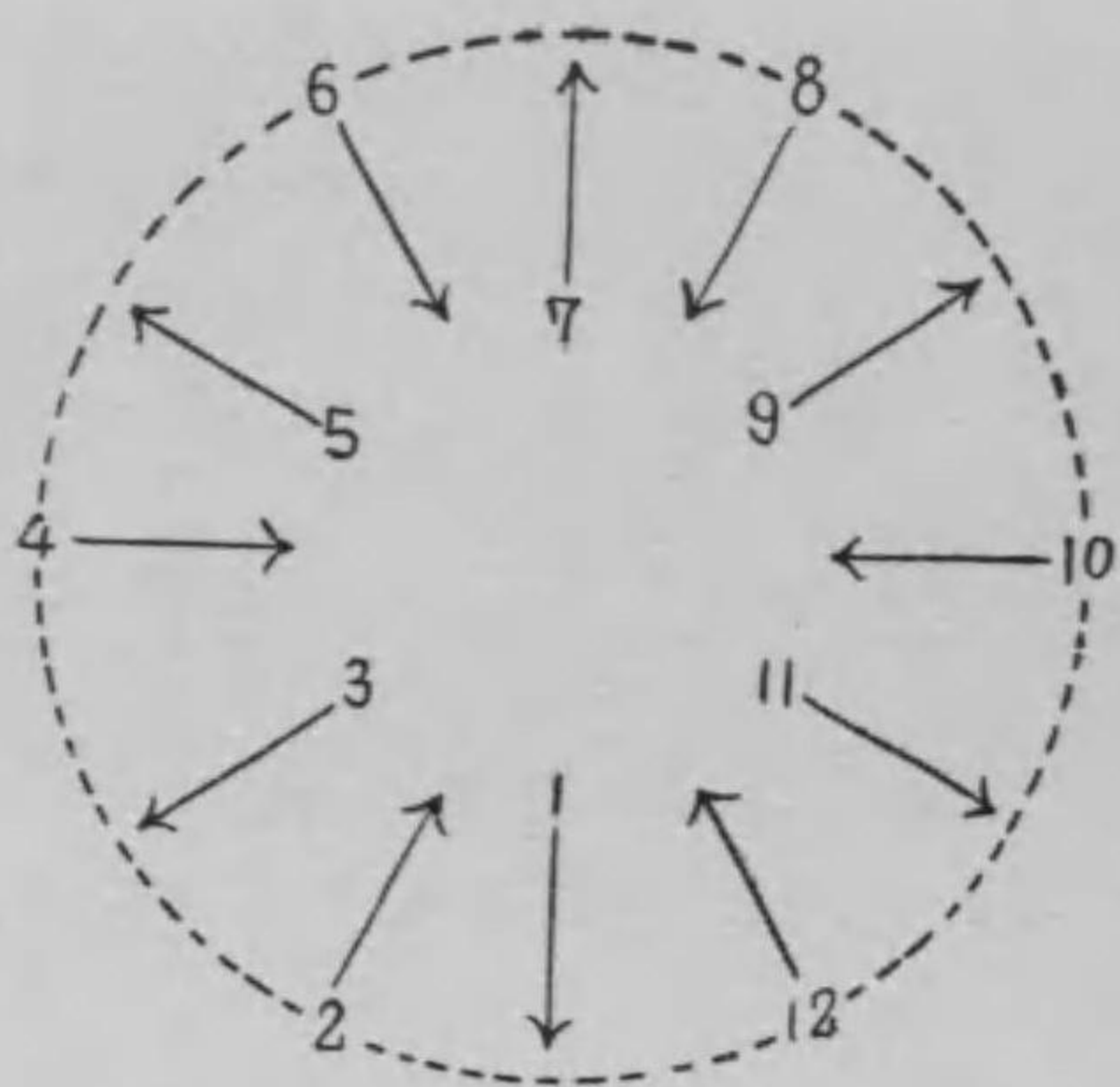
別れの時、内側生が外側生をスキツピングで廻つてから後に退る場合に、餘り退り過ると内圓の者同士がくつついて、間隔がなくなるため、次に外側生が内側生を廻る時には通れなくなつて混雜するから適當な場所迄退つたら、其場でスキツピングを續けて居る様にした方がよい。

二二 萬歳遊び(其の一)

隊形 一列圓形、圓の中心に向つて立ち、二の番號をつけて二人一組となる。

歩法

- 一 ホップ (16) 呼 全體手を繋ぎ、體を少し右に捻る、(1) 右足を右に出す、(2) 右足で跳び、同時に左足屈膝舉股
  - (3) 左足を右足の右に出す、(4) 左足で跳び同時に右足屈膝舉股、(5) 一
  - (8) 迄以上を繰り返す(圓の中心に對して右に行つた事になる)
- 次の八呼は、同じ歩法を體を左に



圖四十三第

捻つて、左に行きながら繰り返す。

二 ホップ (8) 呼 體を右に捻つて再びホップで右に行く。(8) まで。

三 ホップ拍手廻轉 (8) 呼 右足からホップをしながら其場で右廻りに一廻轉する



第三十五圖 萬歳遊び(六、五)の六法歩

その間に(1)(3)(5)(7)の時に手を體前で打ち下ろす様に拍手をする。

四 ホップ(8)呼 全體手を繋いで左にホップをする。(8)まで。

五 ホップ拍手廻轉(8)呼 歩法三を左に廻りながら繰り返す。

六萬歳

(一)(8)呼 奇數生は駈歩前に(4)呼、後に(4)呼前進の時は體を前に倒し、手は横に廣げて進み、(4)の時體前下で拍手し、それを上にあげてから、少し横に開き體を後に反してそのまま、後に退がる。

(二)(8)呼 偶數生が(一)を繰り返す。

(三)(8)呼 奇數生が(二)を繰り返す。

(四)(8)呼 偶數生が(三)を繰り返す。

(五)(8)呼 奇數生は(一)を繰り返す、偶數生は

奇數生が後退する時、即(5)―(8)で前に進む、従つて奇數生とは入違ひになるこの時偶數生圓の中心に進みきりになつてゐる。(第三十四圖及第三十五圖)

(六)(8)呼 奇數生(二)を繰り返す。偶數生は(1)―(4)後退し、(5)―(8)前進す、この時も又偶數生は圓の中心に進みきりになつて居る。

七二人右手連手ホップ廻轉(16)呼 各組二人は右手と右手とを高く繋いで、右廻りに右足からホップで(8)呼廻轉する、但し舉げた足の膝を伸ばす。(第三十六圖)  
次の(8)呼は、左手と左手に繋ぎかへて前と反對の方向に廻轉する(繋がない方



第三十六圖 萬歳遊び(七法歩)

の手は横少し上にあげる)

(注意)

- 一 萬歳の時、出る時には體を前に倒して、足尖が體につく位に膝をまげて足を後に高くあげ、引込む時には體を起して、むしろ天井を見る位に體を反して、手は斜上横にあげて駈歩で退る。
- 二 二人連手ホップ廻轉の時には、お互に顔を見合ふ事。

### 二二 萬歳遊び (其の二)

除形 萬歳遊び其の一に同じ。一列圓形圓の中心に向つて立つ。

歩法

- 一 ホップ (16) 呼
- 二 ホップ (8) 呼
- 三 ホップ拍手廻轉 (8) 呼
- 四 ホップ (8) 呼
- 五 ホップ拍手廻轉 (8) 呼

以上歩法一、から五迄は萬歳遊び其の一の歩法一から五迄に同じ。

六 手腰ボルカ足踏 (16) 呼 初めの (8) 呼 (1) 手を腰に取り右足を右に出し、(2) 左足爪尖を右足踵につける、(3) 右足を更に右に出し、(4) 右足で跳び、同時に左足屈膝舉股、(5) 左膝を伸ばして、斜左前の床を左足爪尖で引掻く様にして打つ、同時に右足で跳び、(6) 左足屈膝舉股、同時右足で跳ぶ、(7) は(5)に同じ、(8)は(6)に同じ。

二二 萬歳遊び (其の二)

次の(8)呼 (1)左足を左に出し、(2)右足爪尖を左足踵につける、(3)左足を更に左に出す、(4)左足で跳び、同時に右足屈膝舉股、(5)右膝を伸ばして斜右前の床を右足爪尖で引掻く様にして打つ、同時に左足で跳ぶ、(6)右足屈膝舉股、同時に左足で跳ぶ、(7)は(5)に同じ、(8)は(6)に同じ(手は始終腰に取つて居る)

七兩手月見振足ボルカ(16)呼 全體右向をする、兩手を頭上にアーチ形にあげる

(1)右足を前に出す、(2)左足爪尖を右足踵につける、(3)右足を更に前に出す、(4)右足で跳び 同時に左足屈膝舉股をしながら膝から下を前、後、前と振る。(斯様に振足するから振足ボルカと云ふ)、(5)左足を前に出す、(6)右足爪尖を左足踵の處に持つて行く、(7)左足を更に前に出す、(8)左足で跳び、同時に右足屈膝舉股しながら膝から下を前、後、前と出来るだけ速かに振る、以上を(16)呼迄続ける。

八駈歩(8)呼 全體連手、圓の中心に向き直つて中の方に駈歩(4)呼、(4)の時繁いだ手を上に挙げる、其のまゝ駈歩で(5)―(8)迄後退する。

九萬歳 (二)―(六)迄、萬歳遊び其の一の歩法六の(二)―(六)迄に同じ。

一〇二人腰連手ホップ廻轉(16)呼 (8)呼、歩法は萬歳遊び其の一の歩法七に同じ  
手は相手の腰をお互に右手で軽く支へ、左手はアーチ形に上にあげる、(8)呼、手を取り替へて反對の方に廻轉する。

### 二三 ギヤザリンピースカーズ (樂譜3)

隊形 一列圓形を作り、圓心に向つて立ち二の番號を附す、二十人以内を一組とし、それ以上の人數の時は、幾つも圓形をつくる。

歩法

#### 【第一節】

一(12)呼 全體連手して、左足より始め左方にガロツプ(お馬遊び歩法一参照)を八呼間なし、そして(9)より(12)までの四呼間は手を離し足踏をしながら左肩引きに一廻轉す。(左廻り)

二(12)呼 前同様の動作を右足より始め右方にガロツプをなし、最後の四呼間は右肩引きに一廻轉す(右廻り)

#### 【第二節】

一(12)呼 一番生は圓の中心に向つて一、二歩ガロツプにて進み全體手をつなぎて十二呼間にガロツプにて時計の針のめぐる方に一めぐりして元の位置に復す。

二(12)呼 前同様の動作を二番生がなす。

#### 【第三節】

一(8)呼 一番生は(1)より(3)まで左足より三步圓の中心に進み、(4)の時右足を後方に擧げ、同時に兩手を左右より頭上に擧げ、ボンと一つ手を打ちならす。(5)より(7)まで三步右足より後に退り、(8)の時足を揃へる。此動作中一番生が(5)より後に退る時、二番生は、一番生の(1)より(2)までの動作をやはり左足よりなす。そして此時一番生と二番生とはすれ違ひになる。

二(8)呼 (1)より(4)までに、中心に進んでゐる二番生が退つて來ると同時に、一番生は前同様の動作にて圓の中心に進み手を打ち(5)より(8)までの四呼間に、右肩引きに一めぐりしながら元の位置に復す、この時は二番生は出ないで立つて居る。

三(16)呼 前同様の動作を二番生より始めて、一番生と二番生が互に反對の動作をなす。

#### 【第四節】

一(12)呼 一番生と二番生は互に向ひ合つて手を腰に取り、左足より左斜前方に

二三 ギヤザリンピースカーズ



(1)より(3)まで三步進み、(4)の時右足を左足の後につけて少しく兩膝を屈ぐ、(5)より(7)まで、右足より三步右斜後方に退き、(8)の時左足を右足に揃ふ、(9)より(1)(2)までの四呼間は左足より始めて足踏をしながら左肩引きに一廻轉す。

二(12)呼 前同様の動作を今一度繰りかへす。

【第五節】

第二節の動作全部をなす。

【第六節】

第三節の動作全部をなす。

【第七節】

一(12)呼 一番生と二番生は互に右肘を組み合はせ、左手はアーチ形に頭上に舉げ、スキツピングにて八呼間めぐり(9)より(12)までの四呼間は、各自兩手腰にして、左肩引きに足踏しながら一廻轉す。

二(12)呼 前同様の動作を左肘に組み換へ右手頭上にアーチ形に舉げてなし最後の四呼間は各自兩手を腰にして右肩引きに一廻轉す。

【第八節】

第二節と同じ動作をなす。

【第九節】

第三節と同じ動作をなす。最後に一二番兩生向ひ合つておじぎして終る。

### 二四 スコッチリル

隊形 體操の排列。  
歩法

- 一スコッチリル、片足跳、右で(8)呼、左で(8)呼 (1)手はそのまゝ、又は甲を腰にさる。右足を右に出して其爪尖で軽く床を打つ、(口輪<sup>(イ)</sup>)同時に左足で跳ぶ、(2)右膝を屈げ、其足の甲を左膝の後につける、同時に左足で跳ぶ、(第三十七圖)(3)―(4)は(1)(2)に同じ、(5)―(8)迄右足屈舉股のまゝ、左足で四度軽く跳ぶ。次の八呼間は同じ動作を左側で繰り返す。
- 二スコッチリル 駈歩足踏、右で(8)呼、左で(8)呼 (1)―(4)迄は歩法一の(1)―(4)迄に同じ。(5)―(8)迄は股を高く舉げて、右左、右左と四度駈歩足踏をする。次の(8)呼間は同動作を左側で繰り返す。
- 三スコッチリル 廻轉、右に(8)呼、左に(8)呼 (1)―(4)迄は歩法一の(1)―(4)迄に同じ、(5)右足を大きく右に出し、左足の甲を右膝後につける、(6)―(8)迄に右足で跳びながら右廻りに一廻轉する。次の(8)呼間は同じ動作を左足で

繰り返す。

- 四右足から始めて(8)呼、左足から始めて(8)呼 (1)右足を斜右前に振り舉げてからそれを左足の處に左足を切る様に下す、同時に左足を斜左後に舉げる(2)斜左後に舉げた左足を右足の處に持つて来る、同時に右足を斜右前に舉げる、(3)―(7)迄は同じ歩法を繰り返す、(8)は(7)の時に後に舉つて居る可き左足を斜左前に廻はす、同時に右足で跳ぶ。次の(7)呼間は左足から始めて同じ歩法を繰り返す(8)で兩足を揃へる。
- 五ロッキングステップ、右足前に(8)呼、左足前に(8)呼 (1)右足を斜右上から左足の前に踏み込み、それに全體重を托してその方によろめきながら兩膝を屈げて、左足は膝をよく外に開いて爪尖だけを床に着ける、(2)左踵を下して體重をそれに移し換へてその方によろめき、右足は踵をあげて爪尖だけを床につける、以上の歩法を(7)迄繰り返す、(8)で左足を斜左前に舉げる、次の(1)―(7)迄は左足を前にして交互に體重の置き換へをして前の様によろめく事を續ける、(8)兩足を揃へる。
- 六マークスタンプ、右から始めて(8)呼、左から始めて(8)呼 (1)右足を揃つて右



(一法歩) ルリチツコス 圖七十三第

に出す、(2)左足を右足に引きつける、それから  
 兩踵をあげる、(3)左足を揃って左に出す、  
 (4)右足をそれに引きつけて兩踵を舉げる、(5)  
 右足を揃って右に出す、(6)左足の踵をあげて  
 膝をよく外に開いて右足の側に引きつけその  
 爪尖だけを床につける、手は左手を下横に掌  
 を外に向けて舉げ右手は頭上に高くアーチ形  
 にあげる、(7)左足を揃って左に出す、(8)右足  
 爪尖で左踵の直ぐ後を強く、とん、と踏みつ  
 け其の勢で速に兩踵を舉げて立つ、手は右手  
 を横下に、左手を高く頭上にアーチ形に舉げ  
 る。  
 次の(1)―(8)左足から始めて前の動作を左側主  
 に繰り返す。

### 二五 ダツチダンス (三拍子)

隊形 體操の排列

歩法

(1) (2) (3)、(2) (2) (3)と云ふ風に數へる。

一 (12) 呼 手は軽く握つて腰に取る、(甲をつける)、(1)右足で強く其の場に踏みつ  
 ける、(2)左足爪尖で左斜前の床を打つ、(3)右足で跳び、同時に左足を前  
 上にあげる、(2) (2) (3)は左足から始めて同じ動作を繰り返す。之を(12)呼迄  
 右左交互に繰り返す。

二 (12) 呼 手は歩法一に同じ、(1)跳んで足を左右に開く、(2)跳んで兩足を揃へる  
 (3)跳んで足を左右に開く、(12)呼迄以上を繰り返す。

三 (12) 呼 (1)兩手は體の前下で圓を作り、右足を揃って左足の左前に出す、(2)手  
 は體の前下で手の甲と甲とを對向にして、手頸の處だけでコツンと打つ  
 左足爪尖で右足踵の直ぐ後をトンと打つ、(3)手は(1)に同じ、跳んで兩足  
 を揃へる、(2) (2) (3)は左足踵を斜左前に出し、手は拳を作つたまゝ手の甲  
 を下にして横稍上にあげる、(3)左足を揃って右足の右前に出す、(2)右足

爪尖で左足踵の直ぐ後をトンと打つ、(3)跳んで兩足を揃へる、(4)(2)(3)は(2)(3)に同じ。(但し右足でする。)

四(12)呼

手は軽く握つて後腰に取る(甲を後腰につける)、(1)跳んで右足爪尖を左足踵の處に持つて行く、同時に體重は全部左足にかけて左足の方に稍よろめく、そして少し兩膝を屈げる、(2)伸びあがつて跳び、足の位置は前のまゝで體重を置き換へる、即右踵を下し、右足に全體重をかけて左足踵をあげる、そして少し兩膝をまげる、(3)前の様にして、(1)の様に右足だけに體重をかける、(2)(3)跳んで左足爪尖を右足踵の處に持つて行くそして前の様に右左交互に體重の置きかへをする、次の(6)呼は以上を繰り返す。

五(24)呼

(1)右足で跳んで右を向き、體を前右に捻ぢて兩手を體前右下にあげる(2)左足爪尖で右踵の後をトンと打つ(手も體も(1)のまゝで)(3)跳んで正面にかへる、手はおろす、(2)(3)左足爪尖で左床を強く踏みつける、同時に兩踵をあげて伸び上る、手は左手を左下に掌を外向けにしてあげ、右手を頭上に高くアーチ形にあげる、(3)(2)(3)は左足で跳んで左を向き、(1)

(2)(3)と同じ動作をあべこべにする。

(4)(2)(3)は(2)(3)を右にあべこべにする、次の(6)呼は(1)(2)(3)、(2)(2)(3)に同じ、次の(6)呼は手を腰に取り、兩踵を合したまゝ六度跳ぶ、その間に右廻りに一廻轉する。

六(12)呼

(1)右足で前に跳ぶ、(2)左爪尖で右踵の後を打つ、(3)右足で跳ぶ、(2)(3)左踵で左前の床を三度打つ、次の(6)呼は左足から始めて前の歩法をあべこべに繰り返す、手は歩法一に同じ。

### 二六 スケートダンス

隊形 二列圓形 左手中心になる。互に右手と右手、左手と左手とを取る。(之を前綾手連手と云ふ)

#### 【第一節】

一(8)呼 兩生共左足より(1)(2)と二歩前進し、(3)の左足で床面をすつて少しく膝を屈げて出し、(4)で左足跳び、右足を後に擧ぐ、(5)より(8)までは(1)より(4)までの動作を右足より始めてなす。

二(8)呼 一の(3)(4)だけの動作を左足より初めて四回なす。

#### 【第二節】

一(8)呼 お互に向ひ合つて手を腰に取り(甲をつける)各自(1)で左側に左足を出し、(2)で右足を左足に揃ふ、(3)で更に左足を左に出し、(4)は左足にて跳び同時に右足を前に振り擧ぐ、(5)より(8)までは同様の動作を右足より右方になす。

二(8)呼 互に右手と右手とを取り(1)(2)で左足を左斜前に出し體重を左足に移し

(3)(4)は右足を右斜前に出し體重を移す、(5)(6)は左足(7)(8)は右足を使つて一めぐりなし元の位置に復す。

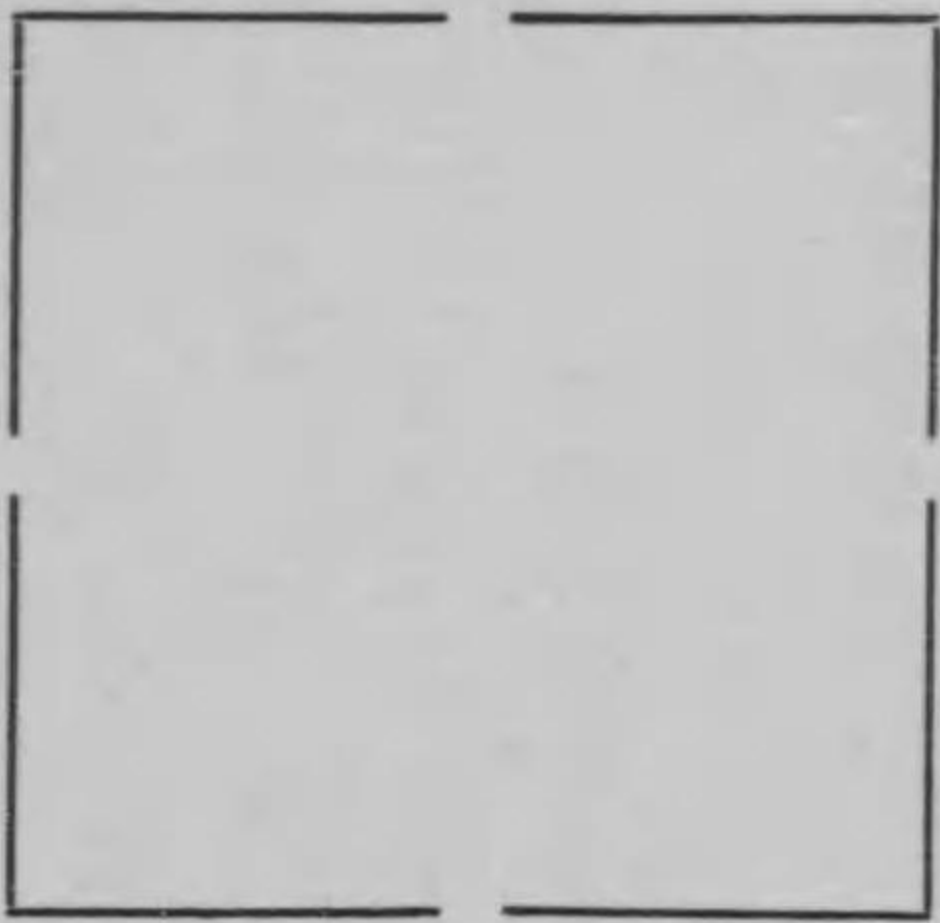
### 二七 變形行進

隊形 四角形、各邊は背の高い者を右に、低い者を左に置く、各邊は二等分になる、併し人数の都合に依ては何れかの組が一人多くなる場合がある。(第三十八圖)

#### 歩法

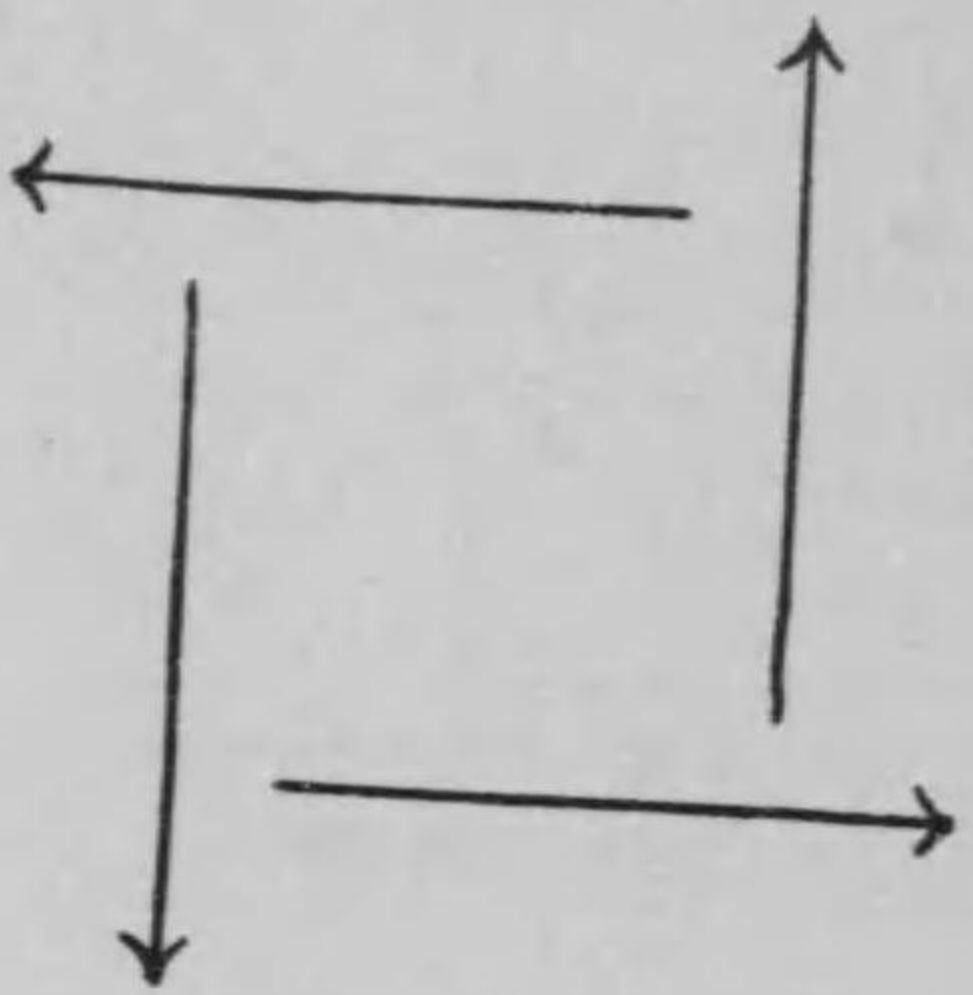
最初に通常歩で一通りやつて順序を良く呑み込ませる。體力の弱い者には之でもよろしいが、稍丈夫な者には全體をランニングで行ふ。

猶進んだ者にはホツブど、スキツピングどを適當に取りませてする。同じホツブをするにしても、肩連手にしたり、手付きホツブ



圖八十三第

ブ(手と足と交互にあがる様に)又は廻轉ホツブ(廻はりながらホツブをする)等にすれば一層面白い。  
方形が基本形であつて種々に變形しては再び方形に還る。



圖九十三第

一 (32) 呼 (16) 呼(1) | (8) 右向をして、右足から

大きい方に進む、(第三十九圖) 次の(1) |

(8) 廻れ右をしてもとの四角形に還る

(小さい方に向いて居る)

(16) 呼小さい方に(8)呼進む、今度は前

と反對の形が出来る。次の(1) | (8) 廻

れ右をして大きい方に進みもとの四

角形にかへる。

二 斜二列縦隊(64) 呼(第四十圖) (32) 呼各邊は矢の

示す方向に進み(16)呼で對角線に二列

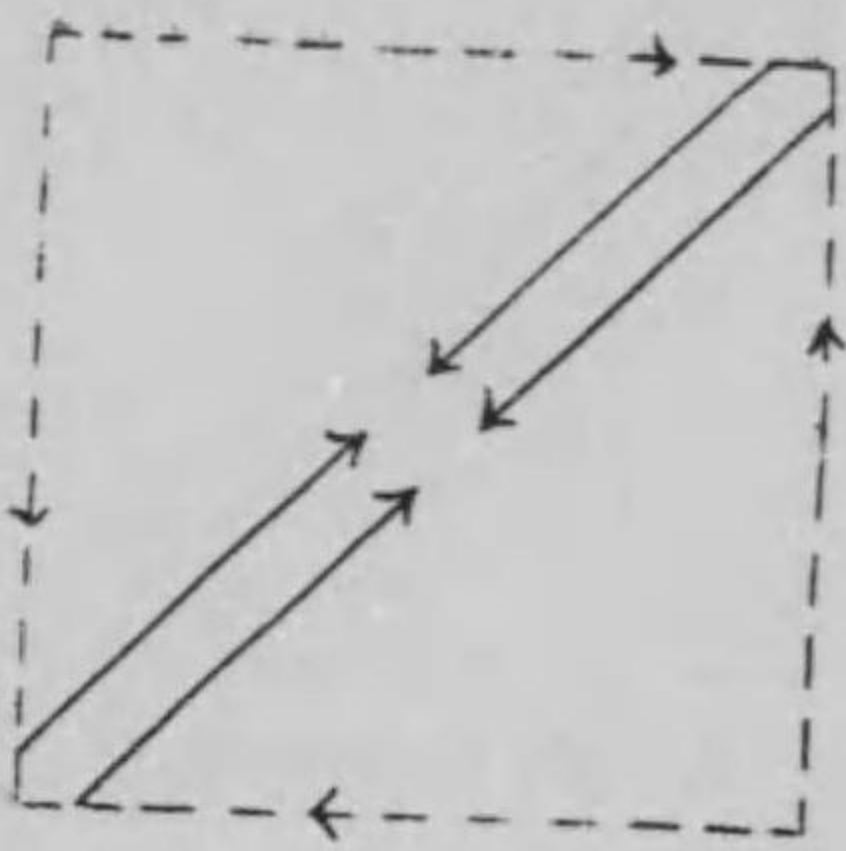
縦隊をつくる、次の(16)呼は廻れ右を

して元の四角形に還る。

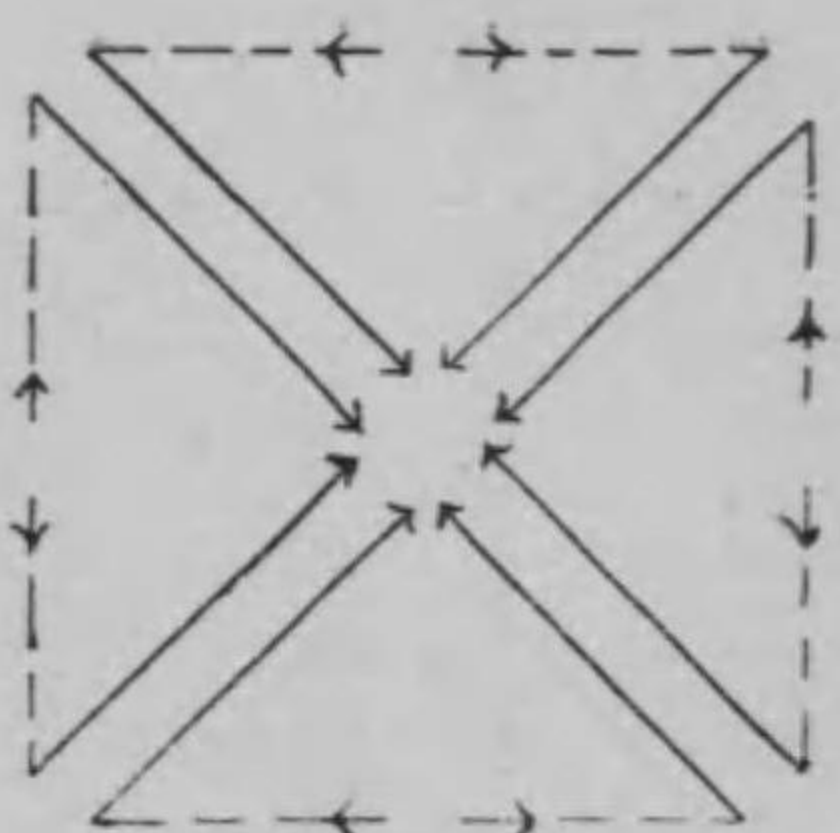
(32) 呼 前と反對の方向に、對角線二列縦

隊を作る、それから四角形に還る。

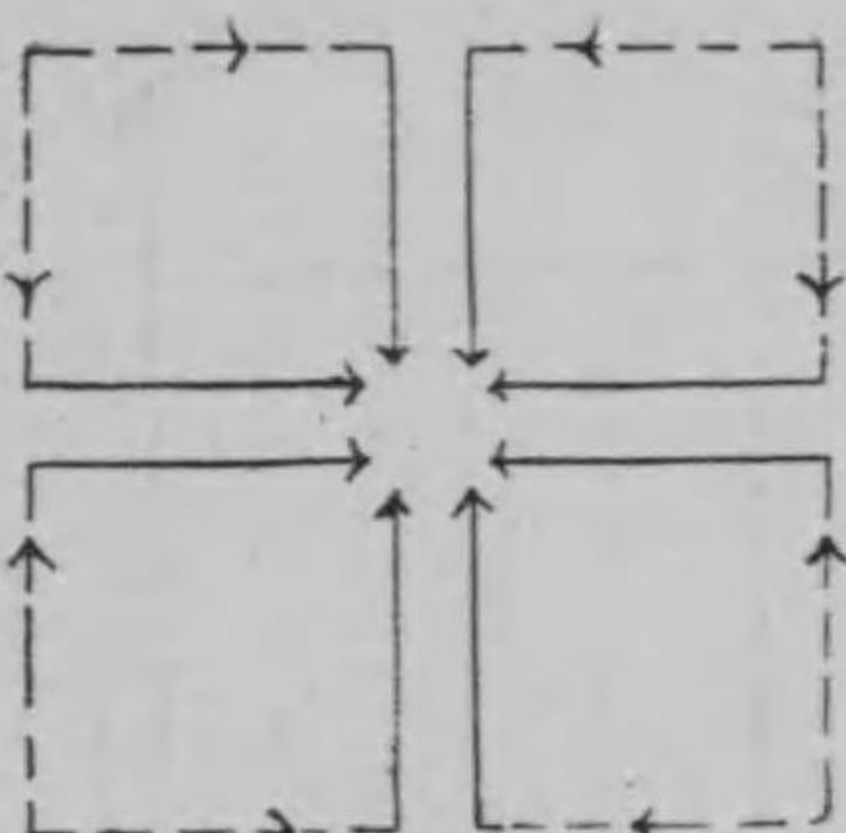
三 二列交叉形(32) 呼(第四十一圖) (1) | (16) 各一邊は



圖十四第



圖一十四第



二八十四第

第四圖矢の示す方向に進み、各邊真中で切れて二列交叉形を作る、次の(16)呼は廻れ右をして四角形に還る。

四二列十字形(32)呼(第四十二圖)(1) | (16)各邊は矢の示す方向に進み、二列の十字形を作る、次の(16)呼は廻れ右して方形に還る。

五一列交叉形(64)呼(第四十三圖)(32)呼(1) | (16)各邊は矢の示す方向に進み(大きい方が先頭に進む)一列交叉形になる、次の(1) | (16)廻れ右して方形に還る。

(32)呼(1) | (16)前と反對の方向(小さい方が先頭に進む)に進んで一列交叉形を作る、次の(16)呼廻れ右して方形に還る。

六一列米字形(16)呼(第四十四圖)(1) | (16)各邊は真中で二つに切り矢の方向(小さい方先頭)に進み一列

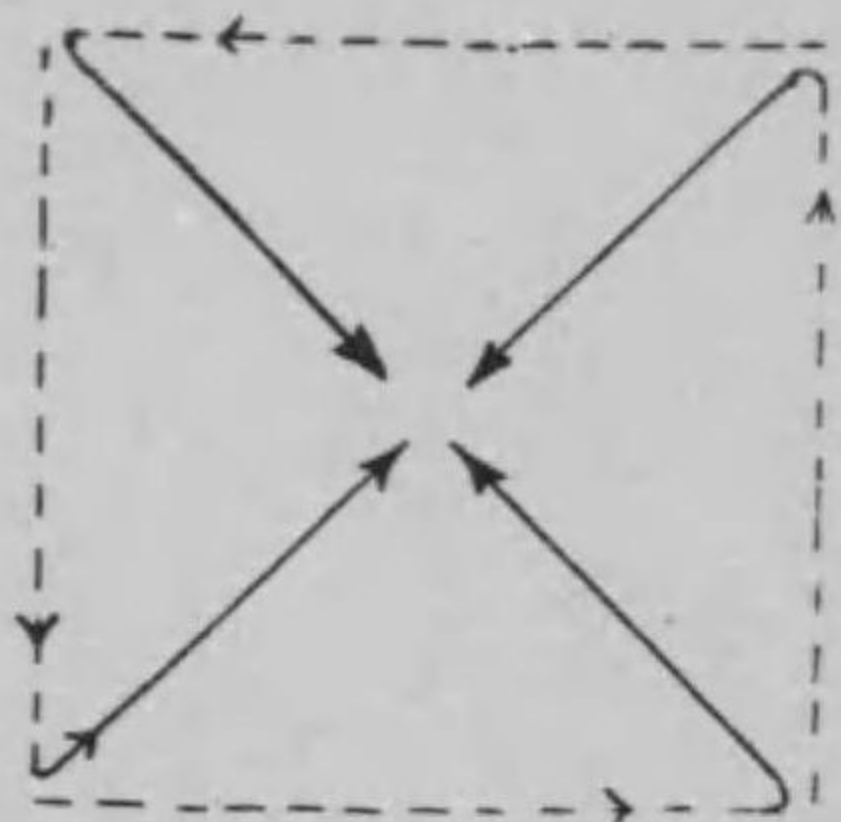
の米字形になる

七左向足踏連手(8)呼

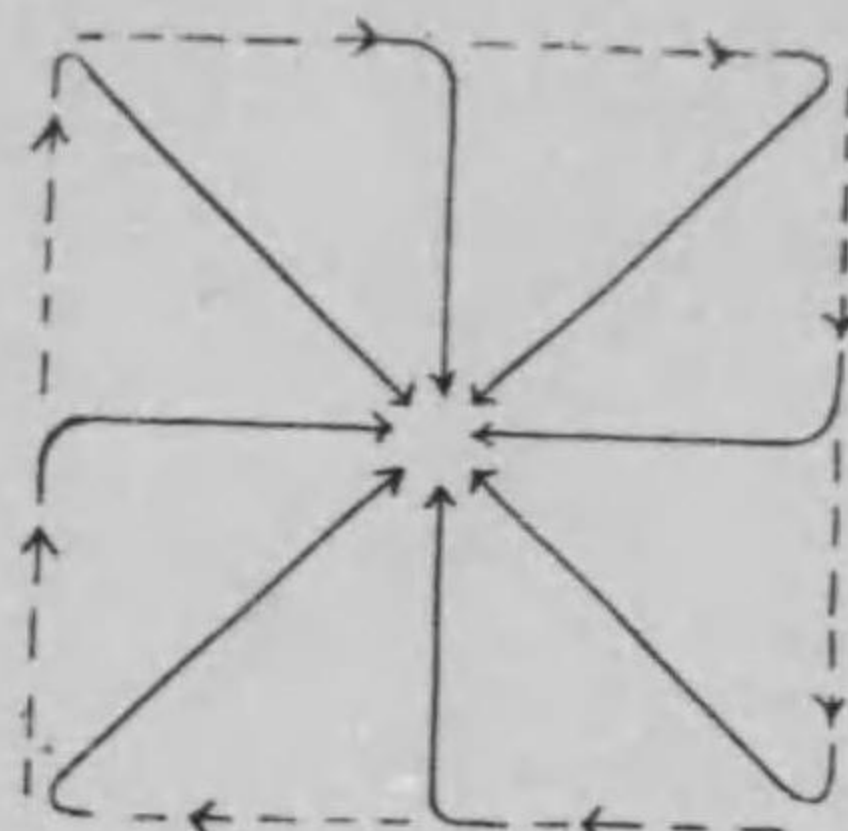
(1) | (4)米字形のまゝ、足踏をしながら左向をして手を繋ぐ、各先頭の中央にゐる八人は對向列と右手を繋ぐ(5) | (8)尙足踏をしながら繋いだ手を上にあげる。

八風車(56)呼(第四十五圖)(1)

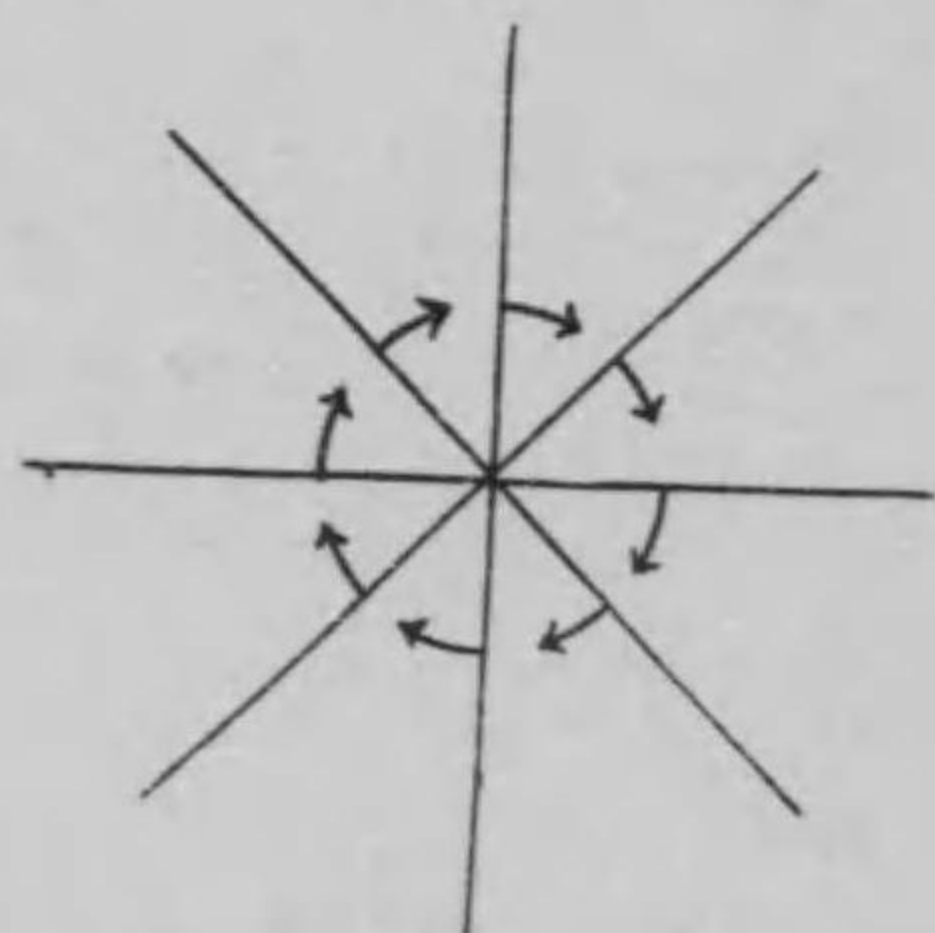
| (16)全體線を亂さぬ様に氣をつ



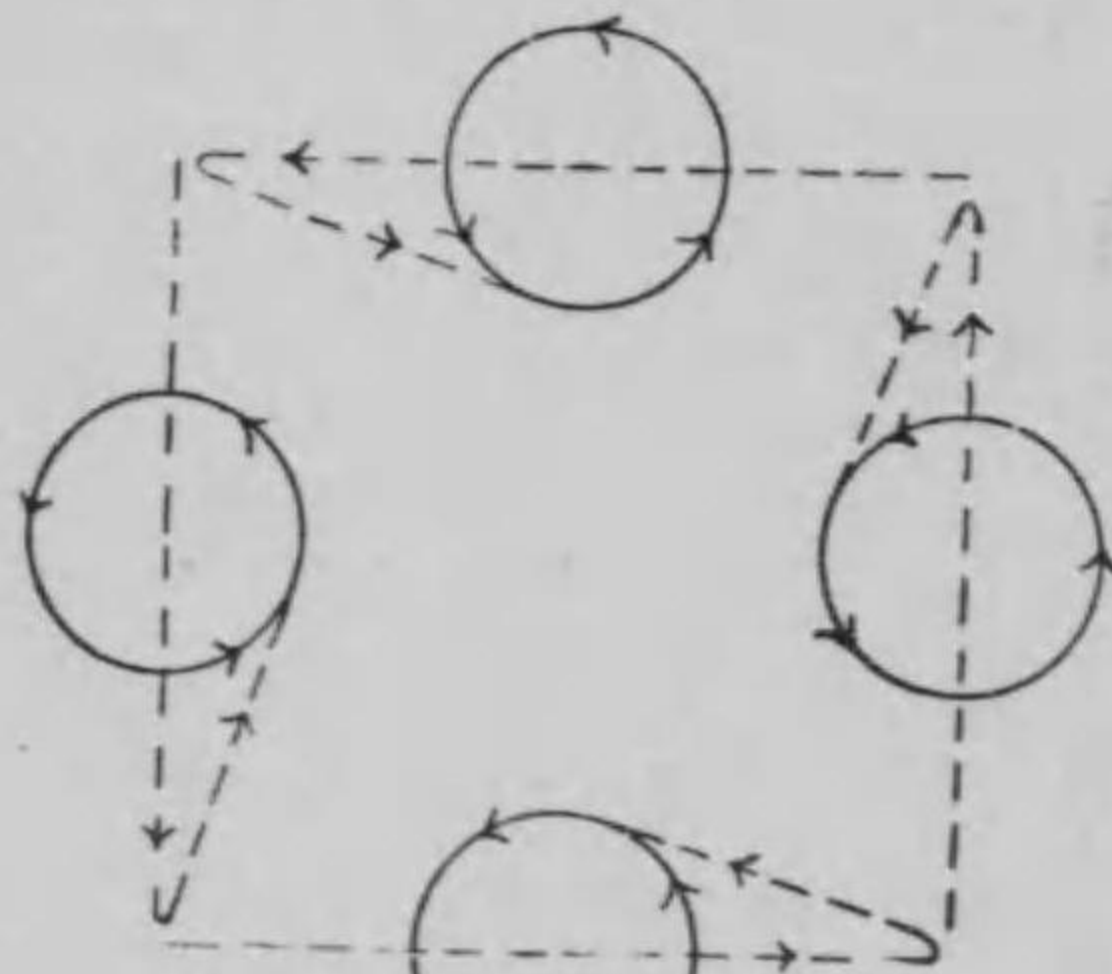
圖三十四第



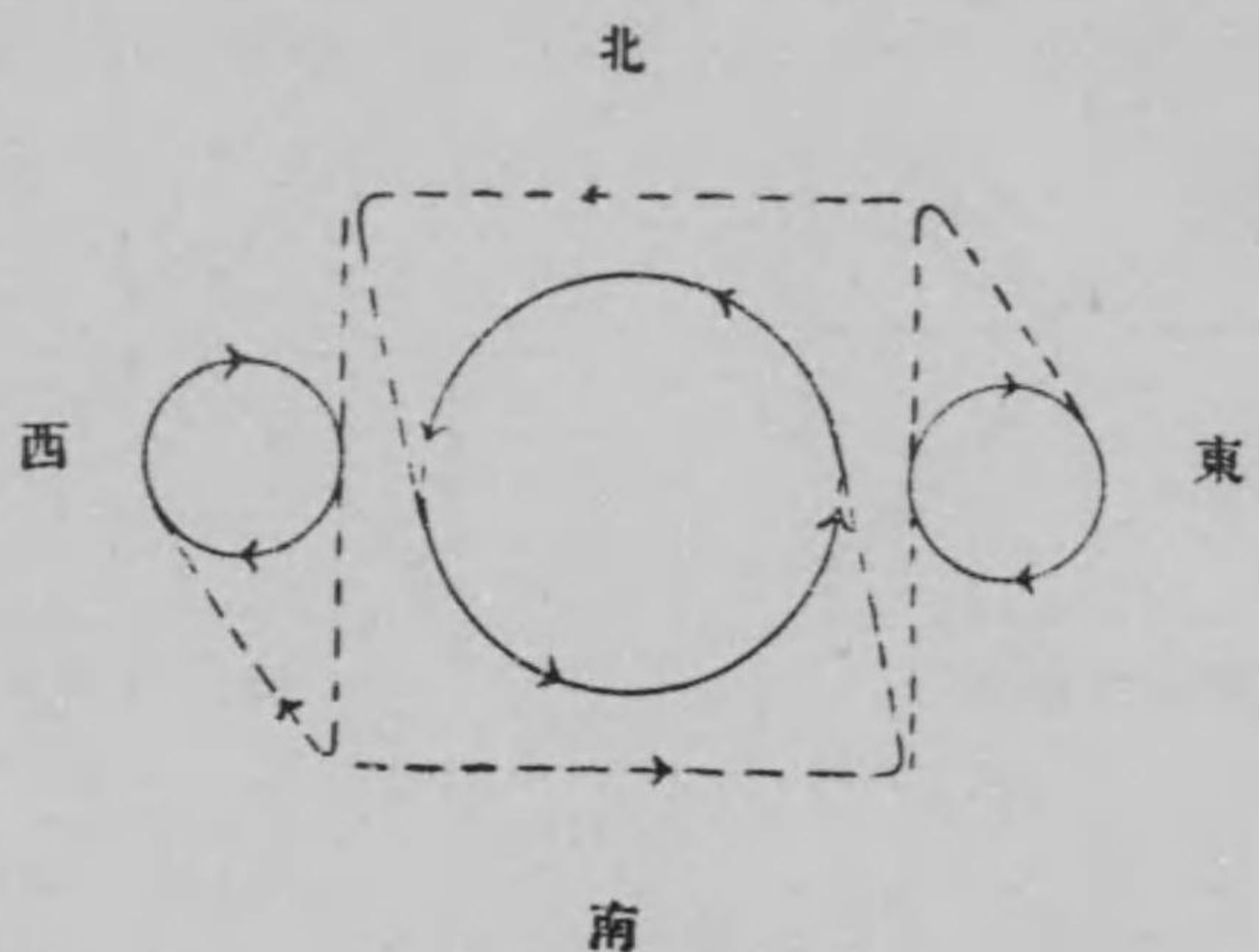
圖四十四第



圖五十四第



圖六十四第



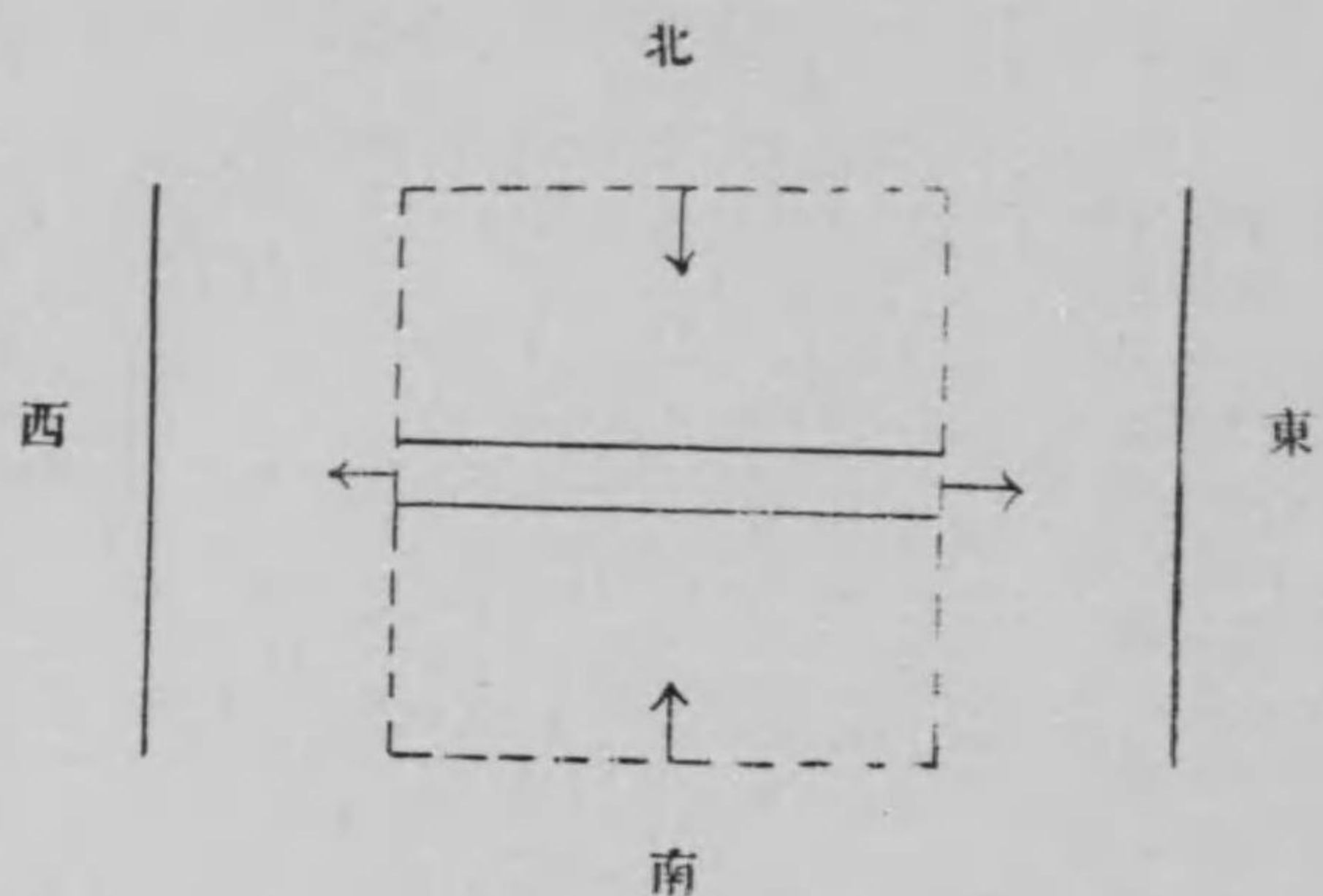
圖七十四第

九小圓四個

(64)呼(第四十六圖)(32)呼(1) | (16)各邊は大きい方を先頭に矢の示す方向に進み、小圓を作り、各小圓は手を繋いで一ばいに廣がり圓の中心に向つて足踏をする、次の(16)呼大きい方先頭に進んで方形に還る。

(32)呼小さい方先頭にして前の通

一一〇



圖八十四第

一〇大圓一個、小圓二個(80)呼(第四十七圖)

りを繰り返す。

(40)呼東西の二邊は大きい方先頭に(16)呼外に廻つて各小圓(二つ)を作り、南北の二邊は、矢張大きい方先頭に内に進んで、兩邊合して中央に一つの大圓を作る次の(24)呼大きい方先頭にして元の方形に還る。

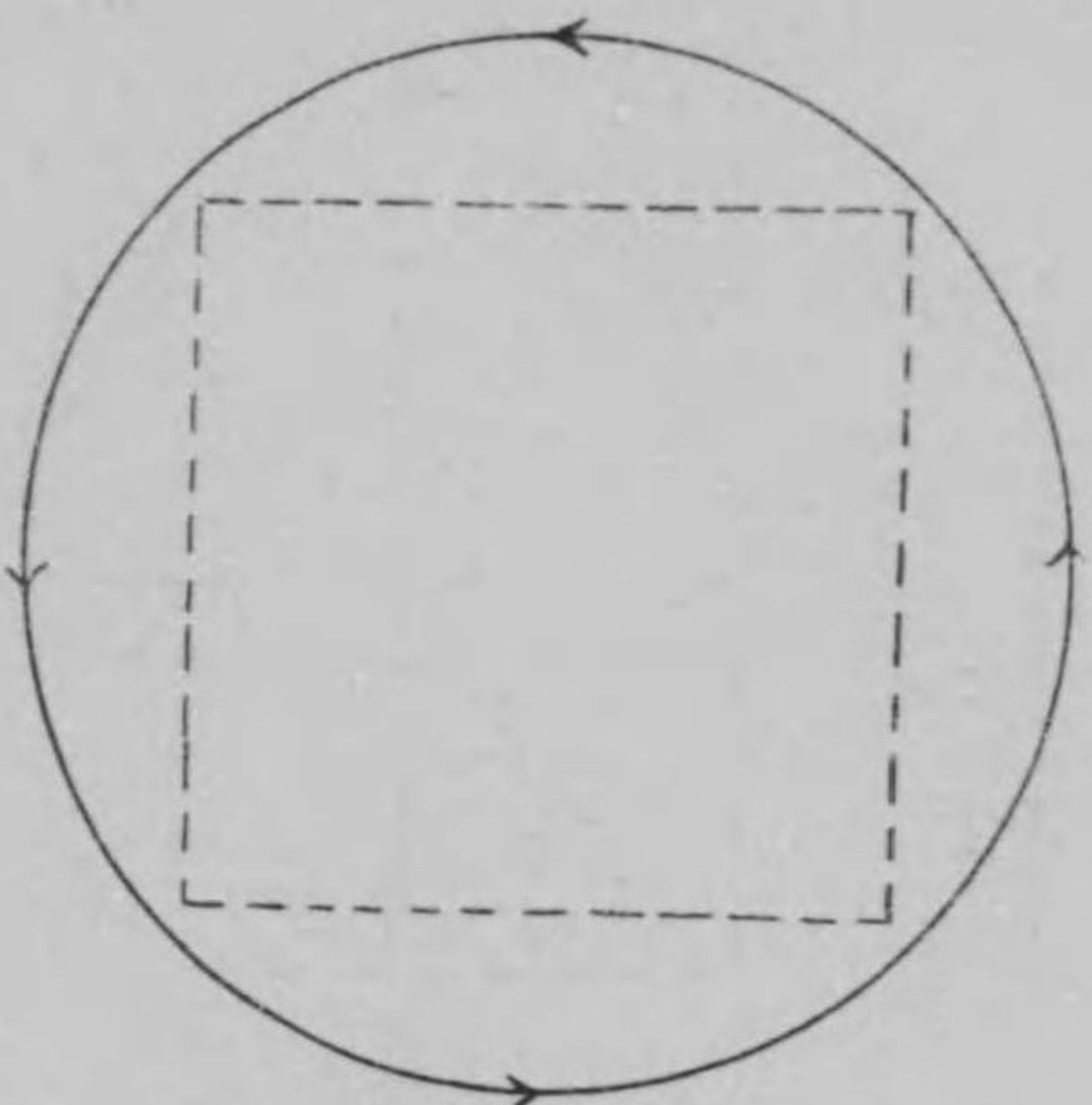
(40)呼前と反對に南北の邊が小圓東西の邊が合して大圓を作る、それから(24)呼で元に還る、今度も大きい方先頭である。

一一二列内、二列外(64)呼(第四十八圖)(32)呼(1) | (8)東西の二邊は廻れ右して

一一一



外に進み、南北の二邊は内に進んで二邊對向となる。次の(8)呼はそのまゝ足踏をする、次の(8)呼で廻れ右をして方形に還る最後の(8)呼足踏をする。



圖九十四第

(32)呼前と反對に南北が外に行き、東西が内に進む、最後の(8)呼間全體連手となつて外に廣がり一つの大圓を作る。

一二 駟歩右左、前後行(48)呼 (24)呼(1)―(8)圓形連手の儘體を右にひねつて右に駟歩する(口繪(二)の口及第四十九圖) 次の(8)呼、體を左に捻つて左に駟歩をする、次の(4)呼、前に倒れる様に體を伏せて駟歩前進、最後の(4)呼、體を起して後に駟歩で退がる。  
(24)呼、前のをもう一回繰り返す。

(注意)

- 一 種々に變つて行く隊形を、各定めて居る呼數中にきちんと作り上げる事
- 二 次第に四角形が廣くなりたがるから氣をつけなければならぬ。始の内は各邊上に線を書いておいて必ず其線上に還る様にするのも一方法である

### 二八 スコットランド跳歩

#### 隊形

二列圓形、左手中心に立ち、内外の二人が一組となる。

#### 歩法

##### 一(16)呼

(1)内外の各二人宛は、各内側接して居る方の手を取り(垂れたまゝ、で)外側の足を前に出す(圓の内側の者は左足、外側の者は右足)、(2)内側の足を外側の足の踵の後に持つて行く、(3)外側の足を更に前に出す、(4)は(2)で前に出した足即外側の足で跳び、内側の足を前に振りあげる。此時つないだ手を前に振りあげる、(4)更に外側の足で跳びながら後向になり、(此の時手は前方より後方に振る)前に舉げて居た内側の足を新方向に舉げる手は前と反對に繋ぎかへる、今度は圓の中心に右手が面する様になつて居る筈である、それで前に内側だつた足が今度は外側になり、外側だつた足が内側になつたのである、(5)外側の足を前に出す、(6)内側の足を外側の足の後に持つて行く、(6)外側の足を更に前に出す、(7)外側の足で跳び内側の足を前にあげる、(8)外側の足で跳びながら後向きになり始の向

即左手中心に向き直る、同時に前にあげて居た足を新方向にあげる、そして手を繋ぎかへる。

次の(1)―(8)は以上を繰り返す。

##### 二ボルカ足踏(16)呼

(1)外側の足を外に出す(内圓の人は圓の中心に向けて、外側の人は圓の外側に向けて出す、従つて二人は次第に内外に離れる様になる、(2)内側の足尖を外側足の踵の處に持つて行く、(3)外側の足を更に外に出す、(4)外側の足で跳び、内側の足を屈膝舉股にする、(5)内側の膝を伸ばして斜前の床を爪尖で引掻く様にして打つ、同時に外側足で跳ぶ、(6)内側の足屈膝舉股、同時に外側の足で跳ぶ、(7)(8)は(5)(6)に同じ。次の(1)―(8)は前の動作を内側に即二人が近づく様に内側の足から始めて繰り返せばよい。

##### 三(16)呼

全體左手中心に立つたまゝ、(1)右左と二歩前進す、(2)両手を上にアーチ形に舉げて右足を前に出し、其の踵で床を打ち、同時に左足で跳ぶ、(4)―(8)は(3)を繰り返しながら右廻りに一廻轉して元の向になる。次の(1)―(8)は同じ歩法を左足から始めて左側主に左廻りに繰り返す。

四交換歩(16)呼 (1)右足を前に出す、

(2)左足尖を右足の後に持つて行く、(2)右足を更に前に出す、其の間に右手を



第五十圖 コツラトドン跳歩(一法歩)

アーチ形に上にあげてそれに眼を注ぐ(3)右手を下し、左足を前に出す、(2)右爪尖を左足の後に持つて行く、(4)左足を更に前に出す其の間に左手をアーチ形に頭上にあげてそれに眼を注ぐ、(5)16以上を右左交互に繰り返して前進する。

以上の歩法——四迄をも一回繰り返す。

### 二九 ルシヤンコサツクダンス (楽譜4)

隊形 一列圓形 一二の番號を附し、圓の中心に向つて立つ。  
歩法

#### 【第一節】

一 (16)呼 全體手を取り(圓をつくる)、(1)で左足を左に出す、(2)は右足の踵で床を強く、蹴つて左斜前に振り擧ぐ、(3)は右足を右に出す、(4)は左足の踵で床上を強くけつて、右斜前に振り擧ぐ、かくして(16)まで続く。

二 (16)呼 一番生と二番生は、向ひ合つて、兩手を前に屈げて組み肘を肩の高さに保つ、前同様の動作を左から始めて、八呼間なす、残りの八呼間は同じ動作を続けながら相手と右肘を組み合はせ、左手は斜左上によく伸ばして擧げ、一めぐりして元の位置に復す。

#### 【第二節】

一 (16)呼 全部圓心に向つて手を取り、第一節の始めの八呼間と同様の動作をなす(9)は左足を左に出す(11)は右足尖を左足後方に附けて稍兩膝を屈ぐ

(13) は更に左足を左に出す、(15) (16) は右足踵で強く床をけつて、左方前に振り擧ぐ。

二(16) 呼 前同様の動作を右方になす。

【第三節】

一(8) 呼 一番生と二番生は互に向ひ合つて第一節二の初めの八呼間と同様になす。

二(8) 呼 お互に同じ動作を続けながら(1)より(4)までは相手と左側通過をして前に進み新しき相手と向ひ合ひ、(5)の足に(6)の足(右足)を揃へて(7) (8)にて新しき相手とおじぎをなす(手は各自體前に組みたるまゝ)

以上を幾度も繰り返へして初めの相手になるまで行ふ。

三〇 リングダンス

隊形

二列横隊前向、二の番號をつけて四人一組になる、各自二個宛直徑胸巾位の藤製のリングを持ち、それを両手に一個宛分けて持つ。

歩法

一(16) 呼 (1) (2) 右足を斜右前に出し、右手で右足の前を内側から外側へ横に切る(左から右へ) (3) 右手を上を挙げる、(4) 手と足を元に戻す、(5) (6) 左足を斜左前に出し、左手で左足の前を横に切る、(右から左へ)、(7) 左手を上を挙げる、(8) 手と足を元に戻す。

次の(8)呼は以上を繰り返す。

二(16) 呼

(1) (2) (3) 両手を横に(手の甲上向)あげてガロツプで右に行き、(4) 左足尖を右足前に出す、右手は上に左手は下に體前に運び、上下のリングを床に平行にして、上下對向にする。(5) (6) (7) 両手を横に舉げて左足からガロツプで左に行き、(8) 右足尖を左足の前に出す、左手は上に、右手は下に、體前に運んで上下のリングを對向にする。

三〇 リングダンス

## 三(16)呼

(1) 右足を斜右前に出し、右手で右足前を切る様に動作する、(2) 右手を上にあげる、(3) 右手は(2)のまゝ、左手を後に廻してリングを體の後に隠す同時に右足を前に出す、(4) 左足爪尖を右足踵につける、(4) 右足を更に前に出す、(5) | (8) 左を主に左手左足から始めて同動作をする。次の(1)で廻れ右をして後向になり、右左交互に前を繰り返して元の位置に還る。

## 四(16)呼

前方の列の者は廻れ右して二列が對向になり、對向の各二人は兩方から手を前に伸して環を二つ宛合せて二つ宛を兩方から握る、(1) (2) (3) 場所の右の方にガロツプ、即歩法二の(1) (2) (3) (4) をし、(4) で進んだ方向の手を上にあげ、反對の手を下體前にリングを立てる、(5) | (8) 同動作を左側にする、(8) の手のおき方は(4) とあべこべである。

次の(8)呼は前を繰り返す。

## 五(16)呼

前列生は右膝立姿勢をこる、そして自分のリングを床に平行にして、兩手を前に出す、後列生は前列生に對向の儘直立、(1) (2) 立った人が座つた人のリングを上から打つ、(3) (4) 座つた人が立った人のリングを打つ、(5) | (8) 交互に打つ事を続ける(打つ時は臂を上から大きく使ふ)。(口繪(六)のイ)

今度は立つた人は右膝立姿勢になり、今迄座つて居た前列生は立つ、次の(8)呼間は立つた人から始めて前の様にリングを交互に打つ。

## 六(16)呼

歩法四に同じ。

## 七(8)呼

二人宛對向、兩方から二個宛リングを握つたまゝ、(1) 前列生は右足を前に出して左廻りにひつくり返つて後向になる、(2) 左足を右足に引きつける、(3) (4) ひつくり返つて元の對向にかへる、(5) 同じく前列生は再び左足を前に出し右廻りにひつくり返り後向になる、(6) 右足を左足に揃へる(7) (8) 元の對向にかへる此の間後列生は動作をしない。

## 八(8)呼

二人同時に歩法七のように同方向にひつくり返り、背中合になり、更にひつくり返つて元の對向になる、但方向は前列生を主にして歩法七に準ず、従つて前列生が右足を出して左廻りをする時には後列生はそれらに供つて右廻りに左足を出す様になる。かくて次に反對の方に二人同時にひつくり返り又元の對向にかへる。

## 九(16)呼

(1) | (4) 二人同時に歩法八の様にひつくり返る、そして兩方共背中合に

なつた儘片膝立になる(出した足の膝を地につける)、(5)―(8)立つて元の向に歸り對向になる。次の(1)―(4)前と反對の方にひつくり返つて片膝立姿勢になり背中合せになる、(5)―(8)立つて元の向、對向になる。(第五十二圖)



圖一十五第  
(九法步)リンゲダンス

一〇(8)呼 四人一組となりリングを二つ宛握り合つて、四人のリングによつて繋がれた圓になり、右に(4)呼、左に(4)呼ガロツプをする。

一一(16)呼 四人連手圓の儘、右足を前に出して、(1)―(4)靜に片膝立になり出来るだけ反身になる。(口繪六のロ)

(5)―(8)靜に立つ。

次の(8)呼を左足を前に出して前と同動作をする。

一二(8)呼 四人連手のまゝ、(1)(2)對角線上の二人が歩法八の様にひつくり返り他の二人はそのまゝ直立、(3)(4)元の向にかへる、(5)(6)他の二人が代つてひつくり返り前の二人は直立姿勢、(7)(8)元の向にかへる。

一三(8)呼 四人連のまゝ、(1)(2)四人一緒に(口繪六のハ)の様にひつくり返り(3)(4)元の

向にかへる。

一四(8)呼 四人手をどつたまゝ、(1)―(4)右足を前にして、立つたまゝ反身になる、(5)―(8)體をおこして足を揃へる、次の(8)呼左足を前に出して反身になりてから元にもどる。

(注意)

- 一 リングを握りかへる時、落したりあわてたりしない様にする事。
- 二 立つたり座つたりするのを機敏にする事。
- 三 いつも手を大きくつかふ事。
- 四 隊形を崩さない様にする事。

### 三一 御 挨拶 (二人遊び)

隊形 二列横隊、前後列二人が一組となる。

#### 歩法

一 御挨拶(16)呼 前列生は廻れ右して後列生に對向になり、前後列の各二人は右手と右手を高く舉げて繋ぐ。(第五十二圖)

(二)後列生御挨拶 (1)右足を前に出し、爪尖だけを床につける。(第五十二圖)

(3) | (4)右足を斜右後に出して、爪尖だけを床につける。(第五十三圖)

(5) | (8)右足爪尖を左足に交叉して左廻りに一廻轉する、手は繋いだま、前列生は後列生を廻してやる様な氣持ち、後列生は前列生の手にひつかかつて姿勢を崩さぬ様にしどやかにくるくつと廻轉する。

(二)前列生御挨拶 (1)後列生と同じ動作をすればよい、但最後の二呼、即(7)(8)で手を離して右前に進み、後列生の左側に出る、そして前列生が後列生と同方向に向き前後列が一行前向になつて肩手連手をする、即ち兩手を横に舉げてお隣の肩にお互に手をかけ合ふ。(第五十四圖)



圖 二十五 第

(一)法步) 御 挨拶

圖 三十五 第

#### 二 前振足踏歩(16)呼 (1)左足で跳び、

右足爪尖を左足母趾側につける、(2)左足で跳び、右足を前

右に振りあげる、(第五十四圖) (3)

| (6)は(1)(2)を繰り返す、(7)と

(8)右左右と三度足踏する、次

の(1) | (6)は足を取り換へて左

側で前と同じ動作をする、(7)

(8)は手を放して前列生が元の

位置に還り二列對向になる。

#### 三 御挨拶(16)呼 歩法一の御挨拶(二)

(二)に同じ、最後に前列生は後列生の左側に出て一列の前向肩連手になる事も前の通りである。



(二法步) 御 挨拶 圖 四十五第

四 ボルカ足踏 (16) 呼 (1) 右足を右に出す(肩連手)

(2) 左足爪尖を右足踵の處に持つて行く、  
(3) 右足を更に右に出す、(4) 右足で跳び、  
同時に左足屈膝舉股、(5) 左膝を伸して、  
斜左前の床を左足爪尖で引掻く様に打つ  
同時に右足で跳ぶ、(6) 左足屈膝舉股同時  
に右足で跳ぶ、(7) (8) は(5) (6) に同じ、次の  
(1) | (8) 迄は前と同じ動作を左足から始め  
て左側にする。

五 御挨拶 (16) 呼 歩法一 (一)(二) に同じ 但(二)の最

後(7) (8) は前列生は前に出でずに二列對向  
のまま止まる。

六 ウエルシュステツプ (16) 呼 (1) 右足を右に出

す(手腰又は其まま)、(2) 左足を右足の處に  
持つて行く、同時に右足を右に振りあげ

る、(3) 左足で跳び、同時に右膝を屈げてその膝を外によく開いて、右足  
が三角形になる様に爪尖を左膝の右側につける、(4) (5) 右左と二度足踏す  
る、(5) (8) 左足から始めて左側で同じ動作をする。  
次の(8) 呼は以上をもう一度繰り返す。

七 御挨拶 (16) 呼 歩法一 (一)(二) に同じ 但最後は二列のままである。

八 脇組手ボルカ廻轉 (16) 呼 (1) 前後列の各組は二人宛、右脇組手になり、左手を  
アーチ形に頭上にあげ、お互に顔を見合つて右足を前に出す、(2) 右足踵  
の處々左足爪尖を持つて行く、(3) 更に右足を前に出す、(4) 右足で跳び、  
左足屈膝舉股、(5) 左足を前に出す、(6) 左足踵に右足爪尖をつける、(7) 更  
に左足を前に出す、(8) 左足で跳び、右足屈膝舉股になる、以上をやりな  
がら右廻りに廻轉する。

九 (8) 呼 次の(8) 呼は左手に組みなほして前と同じ動作を左廻りに繰り返す。

(1) | (4) 二人向ひ合つて両手を取り、右膝を屈げて右足を後に引き手を  
左右横に水平に廣げる、(5) | (8) 直立姿勢にかへつて終る。



### 三二 麗はしき乙女

隊形 體操の排列

歩法

#### 一 (16) 呼

(1) 跳んで右爪尖を左、右尖につける、(2) 左足で跳び、同時に右足を前に蹴り上げる、(3) 右足を右に大きく廻はしながら、左足の後に持つて来る  
 (と) 左足を左に出す、(4) 右爪尖を左踵につける、手は掌を下にして左右に挙げる、(5) (6) 左足を前に踏み込み、同時に右膝を屈げて後に挙げる、(7) (8) 右足を後に出す、同時に左膝を屈げて前にあげる足頸をよく伸ばす。  
 左足を前に踏み込む時には左手は前に低く、右手は後に高くあげる、右足を後に出す時には手は前とあべこべにする。

次の(8)呼は以上を左足から同じ動作を繰り返す。

#### 二 ビロウエツト (8) 呼

(1) 左足で跳び、同時に右爪尖を左足母趾側につける、(2) 左足で跳び、同時に右足を右斜前に振り挙げる、(3) (4) 右爪尖を左足小趾側につけ、両踵を挙げて、左廻りに一廻轉する、(5) (8) 同要領で左足主に行

ふ。但手は右足から始める時には両手を右に挙げ、左足からする時には両手は頭上にアーチ形にあげ最後には左右に下す。

#### 三 (16) 呼

(1) 右足を左足の前から左方に出して交叉する、(と) 左足を左に出す、(2) 右足を右足の前に再び交叉する、(3) 左足を右足の前に交叉する、(と) 右足を右に出す、(4) 左足を右足の左に再び前に交叉する、(5) 右足を左足の前に交叉する、(と) 左足を左に出す、(6) (8) は(5) (と) を繰り返す、手は左右にあげ、掌下向きに波状に動かす。

次の(8)呼は左足から始めて前とあべこべに繰り返す。

#### 四 (16) 呼

(1) 右足を右に出す、(2) 右足の前に左足を交叉する、(3) 右足を右に出す  
 (4) 右足の後に左足を交叉する、(5) (8) 右足を軸にして軸廻旋をする即ち  
 (5) 右足で跳んで右を向き、稍膝を屈げる、(と) 左爪尖を右踵の後に立てる、(6) 右足で跳んで九十度右に廻り、その膝を屈げる、(と) 左爪尖を新に右踵の後に立てる、(7) (8) は九十度廻轉しながら前の歩法を続け最後には一廻轉して正面に復す。

次の(8)呼間は以上を左足から始めて繰り返す。右に行く時には右手を

三二 麗はしき乙女

掌上向きに右にあげ、軸廻旋の時には左手を左にあげる、左足から始める時には手は前とあべこべになる。

五(8)呼

(1)右足で前に跳ぶ、(2)左足を右足の處に持つて来ると同時に右足を屈げて右足を前にあげる、手は右手は前下に、左手は横にあげる。(3)(4)は(2)の姿勢で二度左足で跳ぶ、手は前の(1)(2)とあべこべにする。(5)―(8)以上を左足から始めてあべこべに繰り返す。

三三 夏の精 (樂譜5)

隊形 體操の排列  
歩法

一(8)呼

(1)右足を前に出し、左足爪尖を右踵につける、(2)右足を更に前に出す(2)左足を後に引く、右足を左足の前に左爪尖に右踵がつく様持つて行く(3)左足を更に後に引く。前に行く時には右手は左右上に掌は下向に高く左手は左足後に少し低く掌下向にあげる、後に退る時は手の方向は其のまゝで、右手を低くし左手を高くする。(第五十五圖)  
次にピロウエット(麗しき乙女歩法二)をする、(3)右足を前に出し、兩手を掌を下にして横にあげる、(4)右足で跳び同時に左足を前に蹴りあげる(4)(5)左足爪尖を右足の小趾側に前からつけ、兩踵をあげて右廻りに一廻轉する、此の時に手は頭上にアーチ形にあげるけれど、最後に再び横に廣げる。

(5)―(8)以上をもう一度繰り返す。

二ボルカ(8)呼 (1)右足を左足の前から左足の左に出す、(2)左足をその右足の左に出す、(2)右足を再び其の左に出す、(3)右足で跳び、左足屈膝擧股、(3)左足を左に出す、(4)右足を左足の左に出す、(4)左足を更に左に出す、(5)左足で跳び、右足屈膝擧股にする、(5) | (8)右足から始めて、右に行きながら同動作をすればよい、手は常に上にあげる。

三(4)呼 (1)(2)右足をすつて前に出し、體を前に傾けて左足を後にあける(右手を前上に、左手を後下にあげる)、(2)(3)左足を後に引き、右足を前にあげる(右手は頭上にかぶる様に、左手は體前に低く、右手と相對して掌を上にしてあげる)、(3)右足尖を左踵につける、(4)左足を左に出す、(4)右足を左足の前に出し爪尖を床につける。

四(4)呼 (1)(2)右足で後に跳んで、左足の後に其の右足を交叉する、兩手は右にあげる。(掌下向き左手は體前から左に右手は右に平行に。指は平に揃へないで)、(2)(3)左足で後に跳んで、右足の後に其の左足を交叉する、兩手は左にあげる。(3) | (4)以上をもう一回繰り返す。

五(12)呼 (1)右足爪尖を左足踵につける、(2)左足を左に出す、(2)右足尖を左足の

前に出す兩手は頭上にアーチ形にあげる。(3)跳んで左足を左に出す、(4)右足尖を左足の前に出す、(4)跳んで左足を左に出す、(5)右足尖を左足の前に出す。(常に左に跳んで行く時は兩手は左にあげる、(5)(6)は(1)(2)に同じ。

次の(1) | (6)は以上をあべこべに繰り返せばよい。

六(4)呼 (1)右足爪尖を左足踵につける、(2)左足を左に出す、(2)右足尖を左足の前に出す、(3)左足を左に出す、(3) | (4)以上を左足から始めて、右に行きながら繰り返す。兩手は常にアーチ形に上にあげる。

七(8)呼 (1)右足を左足の前左方に出す、(2)左足を左に出す、(3)右足を更に左足の前左方に出す、(4)右足で跳び同時に左足を斜左に擧げる。兩手は(1) | (4)左にあげる、(5)左足を右足の前右に出す兩手を右にあげる。(6)右足を右に出す、(7)左足を右足の前右に出す、(8)左足で跳び、同時に右足を斜右に擧げる。

八(8)呼 (1)兩踵を擧げて、兩手を掌を外に向けて上にあげる(2)踵を下し、兩手を横迄下す、(2)は(1)に同じ(3)右左と足踏して、兩手を右にあげる



第五十五圖 夏の精 (一法步)

(4) | (2) 右左と足踏して兩手を左にあ  
げる。(5) | (8) 以上をも一廻繰り返す

九(8)呼

(1) 左足で左に跳び、(2) 左足の前に  
右足爪尖をつける、(2) 尙體重は左足  
のみにかけて稍膝を屈げる、右爪尖  
で床をつき、左膝を伸ばして左足で  
左に三分の一廻轉をする、(2) 右爪尖  
を新しく左足踵につける、(3) (2) (4) (2)  
は(2) (2)を繰り返して完全に一廻轉す  
る。

次の(5) | (8) は右足から始めて、右足  
を軸にして右廻りに一廻轉する

一〇(8)呼

(1) | (2) 右足を挙げ、二度床を輕  
く引搔く、手は横にあげ、足に做つ  
て下に動かす、(3) | (4) 右足を前に出

し、體を足の方向に傾ける。右手は體の方向に高く、左手は後に低くあ  
げる、(5) | (8) 左足から始めて左側で同動作をする。

一一(4)呼

(1) 左足で跳び、同時に右足爪尖で軽く其場で床を打つ、(2) 左足で跳  
ぶ、(2) 左足で跳び、同時に右足爪尖で軽く床を打つ、(2) 右足で跳ぶ、(3)  
| (4) 右左の足を前とあべこべにして同動作をする。

一二(4)呼

(1) (2) 右足を前に出し爪尖を床につけ體重を左足にかける、兩手を上  
にアーチ形にあげそれに眼を注ぐ。(2) 右足を元へかへして直立姿勢にな  
る(3) (2) 左足を前に出し爪尖を床につけ、全體を右足にかける、兩手を上  
にアーチ形にあげそれに眼を注ぐ、(4) 直立姿勢になつて終る。

### 三四精の樂 (樂譜5)

#### 隊形 體操の排列

#### 歩法

一(4)呼 (1)右足を前に出し、左足爪尖を右足踵の後に持つて行く、更に右足を前に出す、(2)左足を後に引き、右足を左足の前に持つて行く、左足を更に後に引く。前に進む時には右手を高く、左手を低くあげ、後に退る時には左手を右手よりも高くあげる。(3)(4)ピロウエツトをする、即(3)両手を頭上高くアーチ形にあげ、左足で跳ぶ、右爪尖を左足母趾側母趾の所につける、左足で跳び、右足を斜右前に振りあげる、(4)右足を左足の左に前方から交叉して左廻りに一回轉する。

二(4)呼 ボルカ、(1)左足を右足の前右横に出して交叉する(2)右足尖を左足踵につける、(2)左足を更に右に出す、(3)左足で跳び右足屈膝舉股、兩手は横にあげて上下に腕らせる、臂よりも手頭から先を餘計に動かして、(3)右足を右に出す、(3)左足爪尖を右踵につける、(4)右足を更に右に出す、(3)

右足で跳び左足屈膝舉股、手は前に同じ、

三(8)呼 (1)右足を前に出し體を前に傾けて、左足を後にあげる、右手は斜右上にあげ、左手は後に低くあげる。(2)左足を後につけ、右足を足頭を良く伸して前にあげる、右手は頭上にアーチ形にあげ、左手は前下から掌上向きにあげる。(3)右足尖を左足踵につける。(3)左足を左に出す。(4)右足尖を左足の前に持つて行く、手は上に高く兩指先が觸れる様に圓形に舉げる。

四(2)呼 (1)後に跳んで左足の後に右足を交叉する、兩手は右にあげる、(2)後に跳んで右足の後に左足を交叉する、兩手は左にあげる。

五(12)呼 (1)左足爪尖を右足踵の後に持つて行く、(2)右足を右に出す、(2)左足爪尖を右足の前に出す、兩手は頭上にアーチ形にあげる。(3)右足で右の方に跳ぶ、(4)左足を右足の前に持つて行く、右に行く時に兩手は右に投げ出す。(5)(6)は(1)(2)に同じ、次の(1)―(6)左に同歩法を繰り返す。

六(4)呼 (1)(2)(3)左足爪尖を右踵につける、右足を右に出す、左足を右足の前に持つて行く、右足を更に右に出す。(3)(4)は以上を繰り返す。手は

常に頭上にアーチ形にあげる。

- 七(4)呼 (1)右足を左足の前左に交叉に出す、兩手は左にあげる。左足を左に出す、右足を左足の前左に出して交叉する、(2)右足を右に出す、兩手を右にあげる、左足を右足の前右に出して交叉す。右足を右に出す、左足を右足の右前に出して交叉する(3)兩手を頭上にアーチ形にあげ左足を左に出す、右足を左足の前に交叉する、(4)右足を右に出す、左足を右足の前に交叉する。

(注意)

此の歩法は忙しく足取をしなければ間に合はない。

- 八(8)呼 (1)(2)二度踵をあげる、手は踵をあげる時に掌を外にして上にあげ踵をおろす時におろす、(3)(4)強く足を踏みつけながら右足から前に進む手は始に右に兩手をあげてからおろし、次に左に兩手をあげる以上をもう一度繰り返す。

- 九(2)呼 (1)(2)兩手を上にアーチ形にあげて、兩爪尖で右廻りに一廻轉する。

- 一〇(8)呼 (1)(2)右足をあげてから二回右足尖で床を軽く引掻く、右手は上に掌

左向き、左手は横に掌上右向きにあげる、(3)(4)右足を前に出し其方に體を傾ける、右手は上に 左手は後にあげる、(5)―(8)同步法を左足から始めて繰り返す。

- 一一(4)呼 (1)(2)右足で跳び、同時に右足爪尖で軽く床を打つ、又左足で跳ぶ、再び右爪尖で軽く床を打つ、同時に左足で跳ぶ、又左足で跳ぶ、(3)(4)同じ歩法をあべこべにして繰り返す。

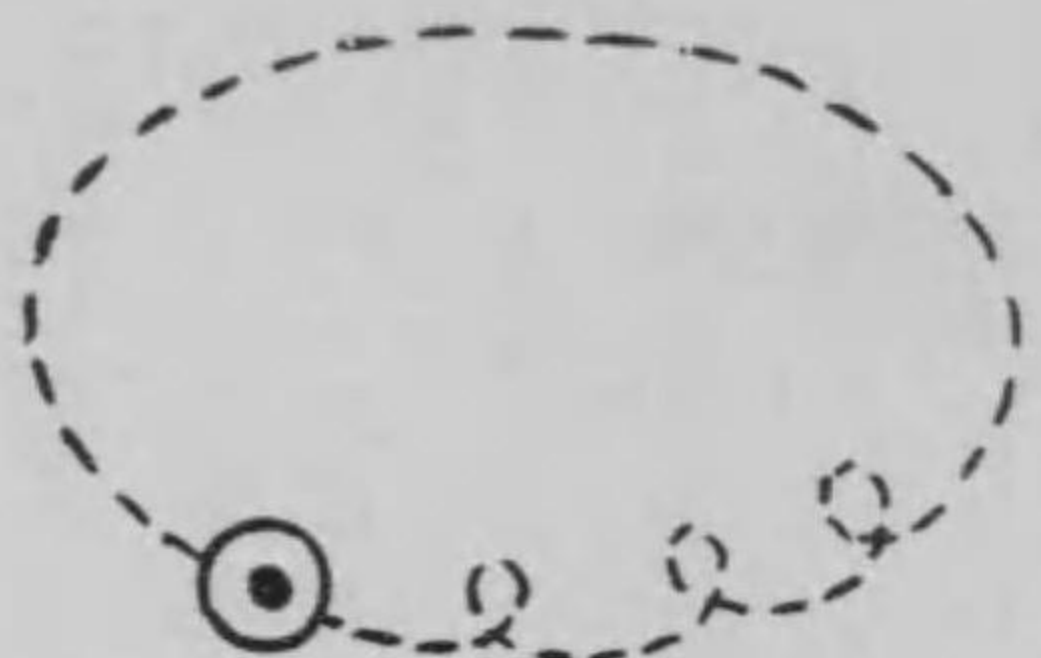
- 一二(4)呼 (1)右足爪尖を左足の前に交叉し、兩手を上に高く圓形にあげる、(2)直立姿勢にかへる、(3)左爪尖を右足前に交叉し、兩手を上に圓形にあげる、(4)直立姿勢にかへる。

- 一三(4)呼 軸廻旋、(1)右足で跳び、(2)左足爪尖を右足踵の後に立てる、膝の屈伸をしながら之を繰り返して右に次第に廻る、(左足から始める時には左に廻る)。

組合せ

- (2)呼 右足を前に出して爪尖を床につける、兩手は掌を上に向けて左右に曲線をつけて優雅にあげる、頭は軽く右に傾ける。

- (4) 呼 歩法一をする
- (4) 呼 右廻りに各自小圓を書き乍ら右足と左足とで歩法二をし再び前向になる。
- (8) 呼 前の二つを繰り返す。
- (8) 呼 右足と左足とで歩法三をする。
- (4) 呼 右足と左足とで交互に四度歩法四をする。
- (2) 呼 (1) 右足を前に出し、(2) 左足を其踵の處につける、(2) 左足を前に出す、(2) 右足を其踵の處につける。
- (8) 呼 麗しき乙女の歩法二の(3)(4)をする。
- (6) 呼 歩法五を右に行きながらする。
- (4) 呼 歩法六を右に行きながらする。
- (8) 呼 歩法一を二度する。
- (4) 呼 歩法七をして最初の位置にかへる。
- (4) 呼 歩法一をする。
- (8) 呼 第五十六圖の様に丸く動きながら歩法八をする。



第五十六圖

- (4) 呼 歩法一三軸廻旋をする、右足を軸にして左足爪尖をその踵につけて跳びながら右廻りに一廻轉する。
- (4) 呼 右足と左足とで歩法二をしながら右廻りに一廻轉する。
- (8) 呼 右足と左足とで歩法一〇をする。
- (8) 呼 右左と交互に歩法一一を四度しながらその場で廻る。
- (2) 呼 歩法二を右に行きながらする。
- (2) 呼 左に廻つて軸廻旋をする。
- (2) 呼 左に行きながら歩法二をする。
- (2) 呼 右に廻つて軸廻旋をする。
- (2) 呼 右に行きながら歩法二をする。
- (2) 呼 前向で左足小趾側に右足爪尖を立て、兩踵をあげて左廻りに一廻轉する。
- (4) 呼 右左交互に歩法一二をする。
- (4) 呼 歩法八の前半をする。

- (4) 呼 右肩を後にして、小圓に廻りながら歩法二をする。
- (4) 呼 軸廻旋をし、最後に右足を左足の後左に引きて交叉し、手は頭上アーチ形にあげ、右手を左手よりも少し高くあげて、右手に眼を注ぐ。

三五 タンプリンダンス (其の一) (樂譜6)

隊形

二列縦隊、此のタンプリンダンスは多人數に教へるに都合よい様な形式であつて、それに或タランテラ歩法を適當に排列したものである。音樂は三つの部分から成り立つて居る。A || 1節、B || 8節、C || 16節である。歩法は音樂に合わせてやり各節は(1)と(2)と勘定して行く。各右の手にタンプリンを持ち左手を横に掌上向にあげる各曲の(1)と(2)の時に左の掌で、下の方でそれを打つ

歩法 A(始め)

- 一 (28) 呼 右足から始めて部屋に添ふて駈歩をし、部屋の中央に眞直に縦隊になる、音樂の各小節(2)呼に二歩駈ける。
- 二 (2) 呼 其場駈歩をしながら各組は對向になる。
- 三 (2) 呼 各組はお互に挨拶をする、その仕方は、右足爪尖を左足の後に交叉して、兩膝を屈し、兩手を廣げて、それを少し横にあげて、丁寧にお辭儀をする。



**B (一)**

一(4)呼 全體前に四つ駢歩をして、對向生と右肩通過(右肩が摺れ會ふ様に通過する)をする。

二(4)呼 其場で駢歩足踏四つしながら右に廻轉して、對向生と向ひ合ひになる

三(4)呼 駢歩四つで再び相手と右肩通過をして、もとの位置に還る。

四(4)呼 其場で駢歩足踏四つしながら右に廻轉して對向生に向ひ合ひになる。

**C (二)**

一(2)呼 (1)ど左足で跳び、同時に右足爪尖を左足の前につける、(2)左足で跳び

同時に右足爪尖を右横につける。

(6)呼 同動作を續ける。

二(8)呼 同動作を左で繰り返す。

三(2)呼 相手に向けて、肩と頭とを少し前に傾け、手を下げる、そして(1)左足を左に滑べらせる、(2)右足を左足に引きつける。(3)右足を左足の後に交

又する。

(14)呼 左に滑べる事を續ける、其間に左に動きながら二度圓に廻る、相

手と常に對向を保つ、此の歩法の終りにはもとの位置に還る。

**A (三)**

一(2)呼 (1)ど右足で跳び、同時に左足を前に出し左足爪尖を床につける、(2)ど

右足爪尖が前につく様に跳んで足の位置を換へる。

(14)呼 同じ事を續ける。

二(16)呼 C(二)の歩法三を繰り返す、最後に元の位置に還る。

**B (四)**

一(2)呼 (1)跳んで右向をし、左足爪尖を前につける、(2)兩踵を擧げる(2)ど踵を

下ろす。

(2)呼 (1)跳んで半左向をし、右足爪尖を前につけると(2)兩踵を擧げる(2)ど踵を

下ろす。

(12)呼 右と左とに交互に向いて同じ動作を繰り返す。

**C**

一(16)呼 顔を相手に向けて、B(四)歩法一を續ける。

二(16)呼 右手を相手と下の方で交叉し、左手を自分の腰の後に廻して相手の右

手と繋ぐ、左足を後に舉げて右足だけで跳ぶ(第五十七圖)各呼に一つ宛跳ぶ

そして前に進んで廻轉し、最後に元の位置に還り、相手同士二人並んで立つ。

A (中)

(32)呼 二列縦隊は全體前に駆歩をして分れ、左列の方は部屋の左の方に廻り右列は部屋の右の方に廻る兩方が部屋の向ふ側で逢ふ處迄進み逢つたら又二列になつて部屋の中央に進み真直に前の様に縦隊になる。

B (五)

(16)呼 B(二)に同じ。



(二c 法步) スンダンリアンタ 圖七十五第

C (六)

一組と二組とで一かたまりとなり、三組と四組とで一かたまりになると云ふ風に四人宛の組になり、四人の中心を向く、即對角線に向ふ(第五十八圖)

(16)呼 C(二)の歩法一及二に同じ。

(16)呼 頭と肩とを四人組の中心に向けて、C(二)の歩法三を繰り返す、そして前述の通り右に廻りながら廻る。

A (七)

(16)呼 A(三)の歩法一を繰り返す。

(16)呼 A(三)の歩法二を繰り返す。

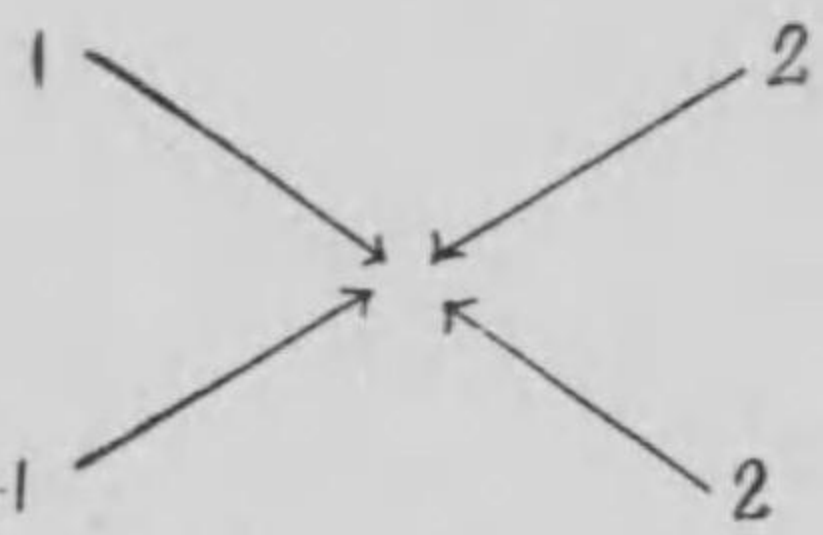
B (八)

(16)呼 B(四)の歩法一に同じ。

C (九)

(16)呼 左手を肩より高くあげ、四人は對角線に右手を繋ぐ中央で四人の手は交叉になる、タンブリンを左手に移す、全體左足を後に舉げて右足で跳びながら前に進む

圖八十五第



で廻轉する、左手を振はして強く、盛にタンブリンを鳴らす。

- (16) 呼 タンブリンを右手に持ち換へて、四人は對角線に左手を繋ぐ、右足を後に舉げて左足で跳ぶ、前と同じく此歩法の間中タンブリンを強く振りながら前と反對の方向に廻る。最後に相手同士は並んで元の位置に還る

A (終)

- 一 (32) 呼 二列縦隊は全體前の方に駈歩をしながら二列のまゝ部屋に添ふて去る  
タンブリンを頭の上で振りながら輕快に去つて行く。  
かくて終りは曲が速になり快活ではなやかに終る。

三六 タンブリンダンス(其の二)

隊形 四人組

必要な歩法

- 一(A) (16) 呼 右足から始めて四つ駈歩(4)呼、左足で跳び、同時に右足爪尖を左足前の床につける、左足で跳び、同時に右足を前に蹴りあげる(2)呼、左足で跳び、同時に右足爪尖を左足前の床につける、右足で跳び左足を前に蹴りあげる(2)呼、タンブリンは(1)(5)(7)の時に打つ。次に左足から始めて後方に退り、同じ歩法を繰り返す(8)呼

(B) 右で軸回旋をする(8)呼タンブリンは(1)の時に打つ、それから兩手を頭上にアーチ形にあげて軸回旋をして終るタンブリンは振らずに静にしておく  
軸廻旋は精の樂の歩法一三に同じ。

- 二(A) 追かけ歩 (1) 右足を右に出す、(2) 左足を右足の前に交叉する。(2) 右足を右に出す、(3) 左足爪尖を右足踵の處に持つて行く、(3) (4) (5) は以上を繰り返す。

(B)右足で跳び、左足を右足前の床につける、右足で跳び、左足を前に蹴りあげる、右足で跳び、左足を右足前の床につける、左足で跳び、右足を前に蹴りあげる(4呼)タンブリンは歩法一に於ける時の様に打つ。

三(8)呼 跳んで右足爪尖を、床につける、右足を左膝の前にあげる、跳んで右足爪尖を床につける、そして左足を跳んだ右足膝の前にあげる(4呼)以上を左足から繰り返す(4呼)タンブリンは(1)(3)(5)(7)時に打つ。

四 ロッキングステップ 右足を左足の前に接して持つて行く、始その足の上に全體重をかけてよろめき、次に體重を置き換へて左足の上によろめく、手は頭上に圓形にする。

【第一節】

全體第五十九圖の様な位置につき矢の方向に向く。

(24)呼 全體歩法一(A)を三度繰り返す、右足から始めて矢の方向にお互に接近しながら進む、今度は左足から始めて後に退り元の場所に還る、もう一度右足から始めて前に進む。

(8)呼 全體歩法一(B)をしながら第六十圖の様になり前向となる。

(24)呼 全體歩法一(A)を三度する右と左に交互に上述の様にする。  
(8)呼 全體歩法一(B)をその場でやり右向になる。

(24)呼 全體歩法二(A)と(B)と三度右足と左足と交互にして右に行き、次に左に行く。

(8)呼 全體歩法一(B)をして、第六十一圖の様になり、矢の示す方向に向く。

【第二節】

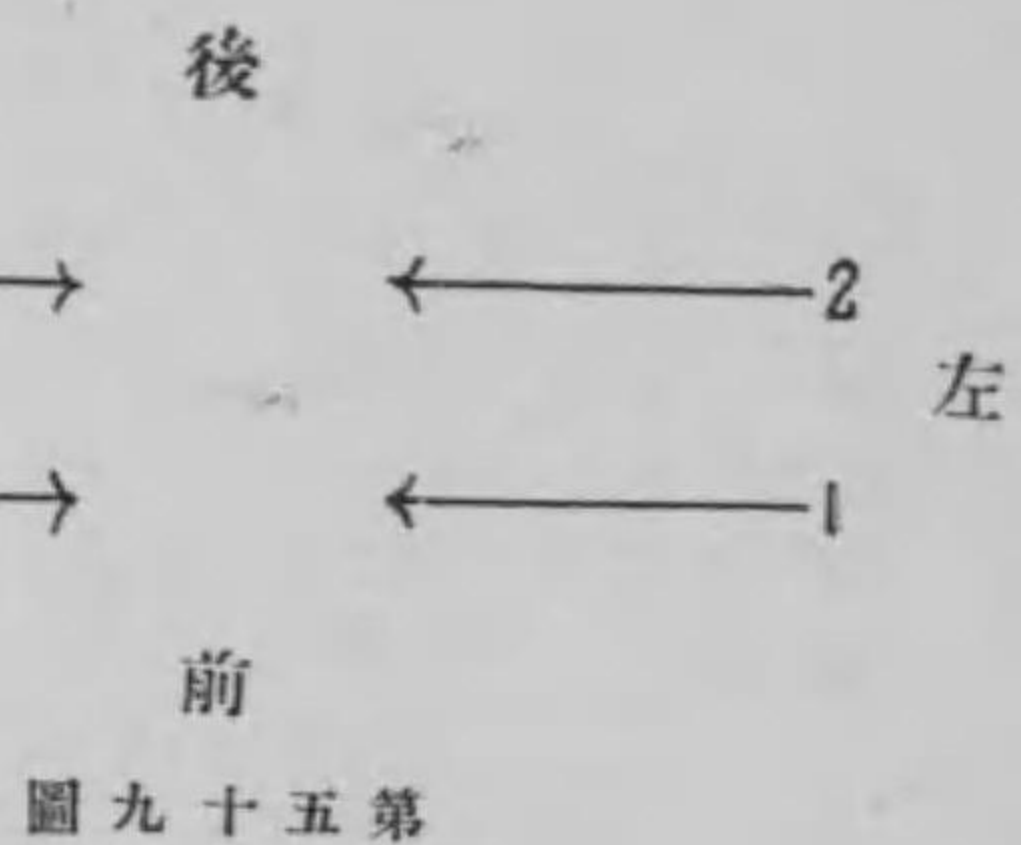
(12)呼 全體歩法三を右左交互に三度する。

(4)呼 全體歩法一(B)をしながら右肩通過で相手と位置交換をする(顔を相手と見かはしながら通過する)。

(16)呼 第六十一圖の様な位置に還る爲前二つを繰り返す

(8)呼 全體歩法二(A)をして第六十二圖の様な位置につく。  
(8)呼 全體歩法三を右足でしてから次に左足でし、それから外に廻つて一廻轉する。

(8)呼 全體歩法二(A)をしながら第六十一圖の位置につく。

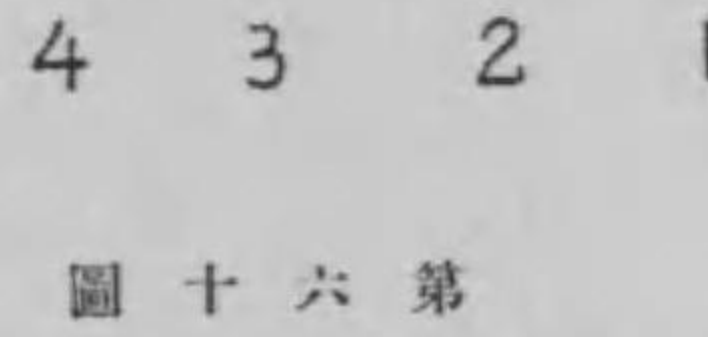


圖九十五第

- (8)呼 全體歩法一(B)をしながら第五十九圖の様な位置につく。
- (4)呼 其場に立つてタンプリンを頭の上で振る。

【第三節】

- (8)呼 一と三番生は歩法一(B)をして場所を換へる、其間に二と四番生は歩法三を其場で右足でしてから左足とする。
- (8)呼 二と四番生は歩法一(B)をしながら位置交換をする、その間に一と三番生は歩法三を其場で右足でしてから左足とする。



第六十圖

全體今は第六十三圖の様になつて居なければならぬ。

- (8)呼 全體駈歩で時計の針の廻る方向に廻る、一番生が前方に来て、残りは第六十四圖の様に整列する、タンプリンは(1)と(8)呼の時に打つ。



第六十一圖

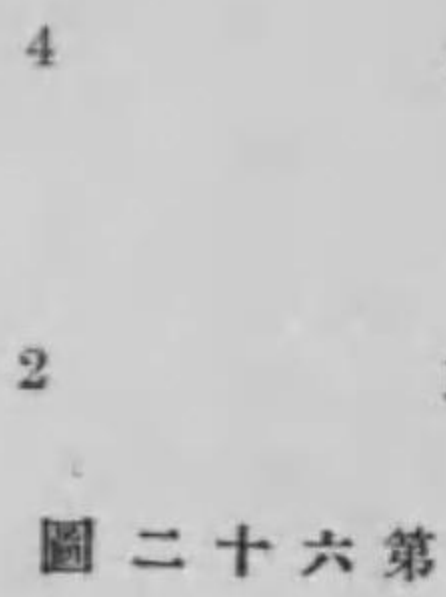
- (4)呼 全體は俄に驚いた様な姿勢を取る、臂は間廣く頭上にアーチ形にあげ右足は爪尖だけを床につける。

【第四節】

- (24)呼 前向につつて全體歩法一(A)を三度する、右足から始めて右左交互に繰り返す、そして前と後に交互に動く。

- (8)呼 列を毀して歩法二(A)をして第五十九圖の様な位置につく。
- (8)呼 全隊歩法一(A)をして、第六十五圖の様になり、後向に整列する。

- (16)呼 全體歩法一(A)を二度する、右足側でしてから次に左側とする。
- (8)呼 全體歩法一(B)をして第五十九圖の様な位置につく。



第六十二圖

【第五節】

- (8)呼 全體歩法三をする、右足側でしてから左足側でする其場で廻轉しながらタンプリンを體前と體後とで打つ。

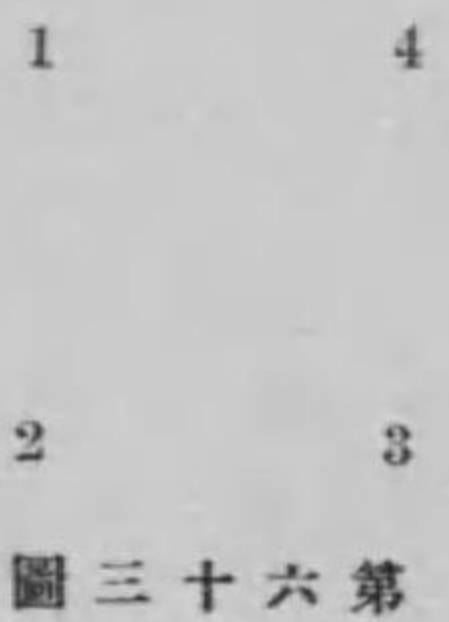
- (8)呼 全體歩法四を其場で廻轉しながらする。
- (32)呼 タンプリンを右の手に高く捧げ、左手で左生のリボンを握つて圓を作り、全體歩法四をしながら時計の針の廻る方向に廻るそれから第五十九圖の様になる。

タンプリンにリボンが下つて居ない時には只手つき丈する。

【第六節】

(16) 呼 全體歩法一(A)を右足から始めて前方に對向生と逢ふ様に進み弧形にお互を通過し、それから又歩法一(A)で後に退る。

一と四番生は始逢ふ様に進み、お互に右肩通過をして背中合になり、左肩を通つて後に退りもこの位置にかへる、二と三番生も同時に同様な事をする。



圖三十六第

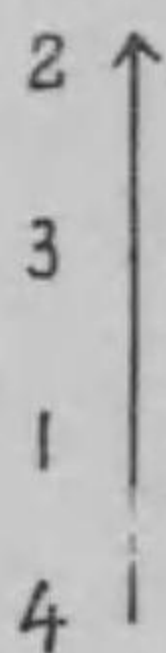
第六十四圖



(16) 呼 全體歩法一(B)をして止まる。

(6) 呼 右膝を曲げてタンプリンを打ち、それから右手を高く保つて左手を横に投げ出す様にし、頭は後上に向けて最後までまつ。

第六十五圖



三七 ロブスタチツク

隊形 體操の排列

歩法

一 (8) 呼 (1) 跳んで足を左右に開く、(2) 跳んで右足を左足の前に交叉する(左足爪尖の前に右足踵が來様に)、(3) 跳んで左足前に交叉しなほす、(4) 跳んで右足前に交叉する、(5) は(1)に同じ、(6) 跳んで左足前に交叉、(7) 跳んで右足前に交叉、(8) 跳んで兩足を揃へる。

二 (16) 呼 (1) 左足で跳んで右足尖を廣く右に出し、體重は全部左足にかけ左膝を屈して稍體を左に倒す、(第六十六圖) (2) 左足で軽く跳び、右爪尖を左踵の直ぐ後に持つて來る、(3) 右足で跳んで左足尖を廣く左に出す、要領は(1)に同じ、(4) 右足で跳び左爪尖を右踵の處へ持つて來る、(5) | (8) 同動作を右左交互に繰り返す、位置は次第に後退する。

次の(8) 呼 (1) 右足で跳び、同時に左足尖を廣く左に出す、(2) 左足を右足の前に持つて來る、同時に右足で軽く跳ぶ、(3) (4) 右足で同動作 (5) | (8) 左右



（二法歩）クツヤタスプロ 圖六十六第

交互に同動作を繰り返しながら次第に前に進む。

三(8)呼 ビロウエツト(一足前振旋廻歩) (1)左足で

軽く跳び、同時に右足尖を左足の拇趾側拇趾の所につける、(2)左足で軽く跳び、同時に右足を右前に振りあげる、(3)(4)右爪尖を左小趾側につけ兩踵をあげて左に一廻轉する、(5)―(8)同じ要領で左足で繰り返して右廻りに一廻轉する。

四(8)呼 スナツチ (1)右膝を屈げ、よく外に開いて後に踏みつける、(2)それに速に續いて右

足で強く跳ぶ、同時に左足屈膝舉股、(2)左足を外に廻す様にして後に踏みつける、(3)其左足で強く跳ぶ、同時に右足屈膝舉股、(3)―(4)同動作を右左交互にしながら後に退

つて行く、足は踏みつける時稍交叉に運ぶ。

次の(8)呼は同歩法で前進する。

五(8)呼 一足前振施廻歩(ビロウエツトのこと) 歩法三に同じ。

六(8)呼 側振踏歩 (1)右足を右にあげ、(足尖そのまゝ)それを左足の處に振りおろす、同時に左足を左に挙げる、(2)左足を右足の處に振り下ろす、同時に右足を右にあげる(3)(4)右左右と足を三步運んで左に行く、(5)で正面になつて左足を左にあげ、それを右足の處に振り下ろす、同時に右足を右にあげる、(6)右足を左足の處に振り下ろす、同時に左足を左にあげる(7)(8)左右左と三步足を運んで右に行く。

七(16)呼 前出廻轉歩 (1)右足尖を前に出す。同時に左足で跳ぶ、(2)左足と右足とを軽く跳んで交換する、(3)(4)右左右と三度前と同じく前出交換する(5)(6)右足を大きく右に出し左爪尖を右足小趾側につけ踵をあげて右廻りに一廻轉する、(7)(8)左足を左に出し、足爪尖を左足小趾側につけて兩爪尖で左廻りに一廻轉する。

次の(8)呼は同じ歩法を左足から始めて繰り返す。

八(8)呼 (1)跳んで右足を右に出し、左足屈膝後舉、同時に右後に向く、(2)右に廻つて元の向に還り、左足を元の位置につけ、右足屈膝後舉、(3)右足を前に出し、小趾側を床につけて、體重は全部左足にかけ、兩手をアーチ形に上にあげて胸を返し、その手先に目を注ぐ。右廻りに廻轉して元の向になつたら、(3)の姿勢を取つてそのまゝ(7)迄保持(口繪(四)の(六)) (8)で直立姿勢にかへる。

### 三八 アイリツシユチツク (其の一)

隊形 體操の排列

歩法 手を腰に取る(手頭を屈して手の甲を腰につける)

一(16)呼 (1)右足を前に出す、(2)右足は其場で跳び、左足は屈膝舉股、(2)左足を前に出す、(3)左足は其場で跳び、右足は屈膝舉股、(3)―(8)以上を續けて前に進む。

次の(8)呼は同じ歩法をしながら後に退る。

二揺り歩(8)呼 (1)右足を前に出す、(2)左足を揺つて右足に引きつける、(2)左足を前に出す、(3)右足を揺つて左足に引きつける、以上を(8)迄繰り返す。

三(8)呼 (1)右足を左足の前から左に交叉に出す、(2)左足踵を左に出す、(2)右爪尖を左踵の處に持つて行く、(3)左足尖を左に出す、(3)右爪尖を左踵の處に持つて行く、(3)左踵を左に出す(4)右尖を左踵の處に持つて行く、(3)左爪尖を左に出す。(手はそのまゝ)

次の(4)呼は左足から始めて右に行きながら同じ歩法を繰り返す。



四(8)呼

(1)左足で前に跳ぶ、同時に右足爪尖で軽く床を打つ、(2)―(4)迄以上を繰り返す、(5)―(8)足を右にとりかへて前と同じ動作をする。

五ビロウエツト(8)呼

(1)左足で跳び、同時に右爪尖を前の床につける、(2)左足で跳び、同時に右足を前に蹴りあげる、(3)(4)右爪尖を前から左足の小趾側につけ、両踵を舉げて左廻りに一廻轉する、(5)右足で跳び、同時に左爪尖を前の床につける、(6)右足で跳び、同時に左足を前に蹴りあげる、(7)(8)左爪尖を右足の小趾側につけ、両踵を舉げて右廻りに一廻轉する、(手は腰にとるかそのまゝ)

六(8)呼

(1)左足で跳び、同時に右爪尖を前の床につける、(2)左足で跳び、同時に右足を前にあげる、(3)(4)足を右にとりかへて同動作をする、(5)―(8)以上を繰り返す。

七(16)呼

(1)左足で跳び、同時に右爪尖を前の床につける、(2)左足で跳び、同時に右足を右前に蹴りあげる、(3)右足を左足の前から左に出し、同時に両膝を稍屈して左足の甲を床につける、體重は右足たけにかける、(ご)左足を左に出す、(4)右爪尖を左踵の處に持つて行く、(5)右足で跳び、同時に

左爪尖を前の床につける、(6)右足で跳び、同時に左足を左前に蹴りあげる、(7)左足を右足の前から右に出し、同時に両膝を稍屈して右足の甲を床につけ、體重は左足だけにかける、(ご)右足を右に出す、(8)左足を右足に揃へる。

次の(1)―(4)は前の(1)―(4)を繰り返す、(5)―(8)右足から後に四歩駈歩で退る、(8)の時に左足後になつたまゝ、両手を頭上にアーチ形にあげて終る。

三九 アイリッシュユチャック(其の二) (楽譜7)

隊形 體操の排列、兩手間隔に立つ、各列左から二の番號をつけて二人一組となる。従つて一番生は左に、二番生は右に同一線上に立つ事になる。

歩法 全體(1)(2)(3)を數へる。

- 一 (16) 呼 (1) (1) 左足を強く前に踏みつける、(2) 右足を左足の處に持つて行く、同時に左足の膝を伸ばして前にあげる、(3) 左膝を屈げて屈膝舉股になる、(3) 左膝を伸ばして前にあげる、同時に右足で跳ぶ、(4) 左膝を屈して屈膝舉股になる、(4) 左膝を前に伸ばす、同時に右足で跳ぶ、(5) 左膝を屈する(5) | (8) 同膝の屈伸を続ける、尙次の(1) | (4) 迄前を続け(5) (6) で左足爪尖を右足前の床につけ同時に右足で跳ぶ、(6) (7) 跳んで足の位置及び床のつ方を交換する。(7) (8) 跳んで又右左足の位置をかへる、(8) (9) もう一度跳んで足を交換し、そして九十度右廻轉して相手と對向になる(最後に一番生は右向、二番生は左向をすればよい)。最初の歩法(1) | (8) 及次の(1) | (4) 迄即(12) 呼間は次第に前進しながらする。

- 二 (11) (8) 呼 (1) | (4) 右足で四度跳び、同時に左足を垂直にし左足爪尖で右足尖の直ぐ前の床を軽く四度打つ、(5) | (8) 左足で四度跳び、同時に右足爪尖で前の様に軽く床を打つ。

- (11) (8) 呼 (1) (2) 前の様に左足で二度跳び、同時に左足爪尖で二度軽く床を打つ(3) (4) 左足で二度跳び、同時に右足爪尖で軽く二度床を打つ、(5) 右足を前に出し、同時に體前で強く拍手し、頭をベコンと下げてから直ぐ起し、(6) 左足を前に出し相手二人が右廻りに廻轉する様に進む、(7) (8) 二人が押し合ふ事なく駈歩で廻轉を続ける。

- 三 (11) (12) 呼 歩法二を繰り返す、最初に左足で跳び、右足爪尖で床を打つ。(11) (4) 呼元の場所に還り、最後に相手はお互に對向になる代りに後向、即背中合になる。

- 四 (11) (12) 呼 歩法二を更に繰り返す。最初に右足で跳び、左足爪尖で床を打つ。(11) (4) 呼 最初に強く拍手をして其場で四つ駈歩をしながら四分の三廻轉して初めの様に全體正面になる。

- 五 (11) (8) 呼 (1) (2) 兩足で跳ぶ、(2) 左足で跳び、同時に右足の膝を伸ばして前にあ

げる、(と)右膝を屈して屈膝舉股の姿勢になる。(3)左足で跳び、同時に右足を挙げたまゝ膝を前に伸ばす。(と)右膝を屈し屈膝舉股の姿勢になる。(4)(と)左足で跳び、同時に右足を挙げたまゝ膝を前に伸ばす。以上をしながら跳ぶ時毎に後に退る。(5)―(8)足を取り換へて前の動作を続ける。

二(8)呼 (1)―(4)は歩法五(一)の(1)―(4)に同じ。(5)―(8)も(一)の(5)―(8)に同じ。最後に跳ぶ時に九十度廻轉右及び左にして相手と對向になる。

六(一)(8)呼 (1)左足で左に跳ぶ、(2)右足を左足の後から左に交叉する爪尖をつける。(3)―(6)以上を繰り返す、(7)左足を左に出す、(8)左足で跳び、右足を前に膝を伸ばしてあげる。

二(8)呼 右足から始めて右に行きながら歩法六(一)を繰り返す。

七(一)(8)呼 歩法六(一)を繰り返す。

二(8)呼 歩法六(二)を繰り返す。最後に九十度右及び左に廻轉して全體正面になる。

八(16)呼 (1)左足踵を前に出す其爪尖をよく上に立てる。(2)(と)機敏に右膝を床に

つけてから再び立つ、(3)右足踵を前に出し其爪尖を上を立てる。(4)(と)機敏に左膝を床につけてから立つ。(5)―(8)左足から始めて後の方にスキップで退る(1)―(4)迄は頭は真直に保ち、(5)―(8)迄は頭を前に傾ける(次の(1)―(8)以上をもう一度繰り返す)。

九(一)(8)呼 (1)―(4)前の方に四つ駆歩、(5)左足で左に跳び、(と)左足前に右足爪尖をつける。(6)尙體重は左足のみにかけて右足爪尖を床につける、左足で三分の一だけ左に廻る、(と)右爪尖を新しく左足踵につける。(7)(と)は(6)(と)に同じ。(8)(と)も(6)(と)に同じ、之で左廻りに一廻轉した事になる。最後に全體は正面になつて居なければならぬ。

二(8)呼 (1)―(6)右足から始めて後の方に六度交互にスキップをしながら退る。(7)(と)右足を相手に向つて右に出す、(8)(と)左足を右足の後に交叉して左足爪尖を床につけ顔を相手に向け挨拶をして終る。

### 四〇 マツルカ(其の一) (三拍子楽譜8)

#### 隊形

二列圓形、左手中心に立つ、内、外、の二人が一組となる。

#### 歩法

一 (48) 呼 内外生二人は内側の手を繋ぐ、外側の手は手を腰にとる(手頭を腰につける) (1) (2) 外側の足を前に出す、(3) 外方の足で跳び同時に内方の足の膝を屈げて後に高く挙げる。(2) (2) 内側の足を前に出す、(3) 内側の足で跳び同時に外側の足の膝を屈げて後に高く挙げる。(3) (2) (3) 外側の足より三歩前進す、(4) (2) (3) 内側の足を前に出す。(繋いだ内側の手は、外側の足から始める時には後方に挙げ、内側の足から始める時には下におろす。従つて二人は外側の足から始めた時には稍對向になり、内側の足から始めた時に稍背中合せになる。)

次の(12)呼は同じ動作を内側の足から繰り返す。

次の(24)呼は前の(24)呼に同じ、但し最後の(3)呼即(46)(47)(48)では内側の足を前に出した場所で、内側の足で跳び組の二人は對向になり、手を離して内

側生は腕を組み、肘を肩の高さに保つ、外側生は二回拍手し最後の一呼は手を左右掌上向に開く。

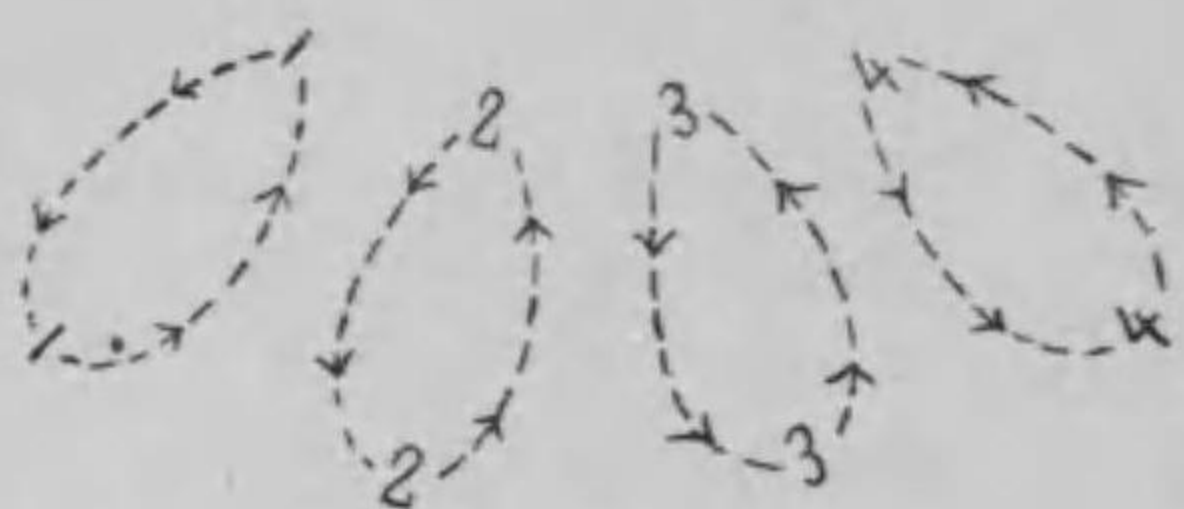
#### 二 (24) 呼

(1) (2) 二人對向のまま、

右足を横から(右足を右横に挙げて)左足の處に急につけて来る、同時に左足を左に挙げる、(3) 左踵で右踵を一回打つとして、(2) (2) (3) は以上の動作を左足から繰り返す、(3) (2) (3) 跳んで足を左右に開き膝をよく外に開いて屈げる、(4) (2) (3) 右踵で右肩引きに全廻轉する、左足はあげて廻はしてもつて来る。(内側生は腕を組み、外側生は両手を左右掌上向に廣げる)

次の(12)呼間は前の動作を左足から始めて繰り返す。

内側生



外側生

第六十七圖

#### 三 (24) 呼

(1) 右足を前に出す、(2) 左足を引き寄せて右踵につける、(3) 右足で跳び同時に右足をよく伸ばして前にあげる、以上を八回繰り返しながら第六十七圖の様に小さい環に廻はる。

四〇 マツルカ(其の一)

## 四(12)呼

(1)右足で内側生は外側生の前に出て、一列圓形になり、(2)(3)で時計の針のめぐりと反對の方向に兩生は駈歩を左足から二歩する。(2)(2)は左足尖を前に出し右膝を少し屈げる。(3)は拍手一回以上をもう一回繰り返す

## 五(24)呼

最初の方向(1)(2)(3)内側生は左足から圓心に向つて強く足を踏みつけながら三歩前進する、同時に外側生は右足から外に向つて三歩進む。(2)(2)(3)外側生は外向のまま、右膝立に跳き兩手を右膝の上に組み(五指をも組む)頭を左後に廻はす、同時に内側生は外側生の方向に向き直る。(3)(2)右足を強く踏みつける、(3)外側生一回拍手、(4)(2)左足を強く踏みつける、(3)兩手を離して掌上向に横になげ出す(立つて居る方は拍手の時及手を横に廣げる時には頭は左肩の方に廻はし、足を踏みつける時には先の前に廻はす)此の間外側生は片膝立のまま、動かない。(1)(2)(3)外側生立つて圓心に向き、内側生は圓心に向つて左膝立に跳き頭を右後に廻はす、兩手は左膝の上に組む、(2)(2)(3)は前の(3)(2)(3)と同じ動作をする。(3)(2)(3)は前の(4)(2)(3)に同じ立つて居る方は拍手及手を横にする時には頭は右肩の方に廻はす。(4)(2)(3)兩方共内側の足から最初の二列圓形にかへる。

## 六(24)呼

二列共圓心に向き手を腰(甲をつける)にとる(1)右足を右に揺つて出す(2)左足を右足につける(3)右足で跳び左足を左にあげる(足尖普通状態同時に右手を掌を上にして頭上にかぶせる様にあげ左手は左足に平行にあげる。掌股の方に) (2)(2)(3)左足から(1)(2)(3)をあべこべにする、(3)(2)(3)は(1)(2)(3)に同じ。(4)(2)(3)左足を右足前から交叉に出して兩爪尖で右肩引に半廻つて圓心に向ける。手は足右にあけて掌下向上下に波状に動かす。次の(12)呼は以上を圓心に後向けたま、左足から始めて繰り返へし、最後に圓心に向いて終る。

### 四一 マヅルカ(其の二) (四分の三拍子)

#### 隊形

體操排列にて全部正面を向き兩手を左右に舉げて少しく肘を屈指掌は下向



圖八十六第

#### 歩法

(1)(2)(3)、(2)(2)(3)、(3)(2)(3)、(4)(2)(3)

と呼ぶ。

#### 【第一節】

- 一(12)呼 (1)(2)で左足を一步左に出し體重を左足に移す。(3)で右足尖を左足の踵につけて同時に兩膝を屈指、上體稍左に傾け手は體前肩の高さに掌下向にして圓形を作る。(第六十八圖)
- (2)(2)は手を左右に開く(掌下向き)と同時に、右足を右に出し、體



圖九十六第

重をその足に移す。(3)は始めの(3)と同じ様に、左足尖を右踵につけ、兩膝を屈指、兩手は歩法一同様に屈指體は右に傾ける、(3)(2)(3)はマヅルカステップ即ち右手を頭上にアーチ形に舉げ、左手は腰に取り、眼は左肩越しに床を見るこれは(1)で左足を一步左に膝を屈げて出し、(2)で右足を右足の所につけると同時に左足を左方に振り舉げ、(爪尖普通)、(3)で右片足跳び、左膝を屈げる。(口繪(一)(二) 次の(4)(2)(3)は(4)で兩手を左右に舉げる掌下向きと同時に左足を床上におろし、(2)で右足尖を右斜前に出し、右手を體前にて手前に屈指左手は側舉のま、眼は右足尖につける。(第六十九圖)(3)は休む。

#### 二(12)呼

前(12)呼間と同様の動作を右足から始めて右方にマヅルカステップ(此の時左手頭上にアーチ形に舉げ右手腰一回なして最後の(4)(2)(3)の時は左足尖前左手を體前に屈げる。

#### 三(24)呼 前同様の動作を今一度左右に繰り返す。

#### 【第二節】

一(12)呼 兩手は左右に舉げたま、(1)で左足を左に(足尖普通)出し、(2)で右足を左

四一 マヅルカ(其の二)

足の所に持つてくると同時に左足を左に振り上げ、(3)は左足を右足の所  
 に持つて来ると同時に右足の膝を屈げ足尖か左膝の後にくるやうに擧げ  
 る。(2)(3)の(2)は右足を右に出し、(2)で左足を右足のどこかに持つて来  
 ると同時に右足を右に振り上げ、(3)は右足を左足の所に持つて来ると同  
 時に左膝を屈げてその足尖が右膝の後方に來るやうに擧げる。(3)(2)(3)は  
 右上上、左手腰でマヅルカステップを左足より前方に一回なす。(4)(2)(3)  
 は(1)(2)(3)に同じ。

二(12)呼 (1)(2)(3)は前同様の動作を右方になす、(2)(2)(3)は同様に左方になす、(3)

(2)(3)はマヅルカステップ(左上上、右手腰)一回前方に右足よりなす。

三(24)呼 前同様に今一度左右に繰り返す。そして(3)(2)(3)の時はいつでも、マヅ  
 ルカステップを前方になすのである。

【第三節】

一(12)呼 マヅルカステップ(右上上、左手腰)を左方に、三回つづける、(4)(2)(3)は  
 左手を斜前上に伸し右手を斜下後に伸し右足を後方に擧げ左足で三回跳  
 ぶ。

二(12)呼 前同様の動作を手足を反対にして右方に行ふ。

三(12)呼 兩手は最初の基本形の如く掌下に左右に擧げ、(1)(2)(3)で左足を左に出  
 す、(2)(2)(3)は左足尖でまはり、右足は前より大きく圓を描きながら後方  
 に向き右足は右に出して開足の姿勢になる、(3)(2)(3)は左足尖を前に出し  
 左手を體前に屈ぐ(第六十九圖)(4)(2)(3)は左手を左に開き、左足一步前に歩し  
 體重を左足に移す。

四(12)呼 (1)(2)(3)は前の姿勢のまま、右足を一步前に進みそれに體重を移す、(2)(2)  
 (3)は左足を進め、(3)(2)(3)は右足尖を前に出し、右手を體前に屈げ左上上  
 に擧げる。(第六十九圖)(4)(2)(3)は右手を右に開き右足より右左と一度足踏を  
 しながら廻れ右をなし、(3)の時右足尖前、右手を體前に屈ぐ、今は正面  
 になつて居る。

五(24)呼 前(24)呼と同様の動作を右足より右方に始める。手足は前と反対になる

【第四節】

一(12)呼 マヅルカステップ(右上上、左手腰)を前方に三回なし、(4)(2)(3)は左手前  
 上方に伸ばし、右手は後下方に伸ばし右足を後に擧げ、左肩引きに左足

で三度跳ぶ間に半めぐりして後向きとなる。

二 (12) 呼 マヅルカステツブ(左手上、右手腰)に三回、(4)(2)(3)は右手前上方に伸ばし、左手は後下方に伸ばし左足後方に挙げ、右足で三回跳びながら右肩引きに半めぐりして元の正面向になる。

三 (24) 呼 前同様に今一度繰り返へし、最後の(4)(2)(3)は、(4)(2)で両手を掌下向に左右にして右足でくるりと右肩引きに半めぐりし、(3)の時左足尖前、左手を體前に屈指、右手は側擧のまゝで終る。(第六十九圖)

### 四一 ホワイトフレイチャ (譜樂9)

隊形 一二の番號を附したる二列縦隊。

歩法 右生は右方へ、左生は左方に、即ち外方へ動作す。従つて右生が右足を出す時には左生は左足を出す事になる。(以下このダンスに限り右生のみを説明し左生は略す)

#### 【第一節】 (樂譜へ調の部)

一 (12) 呼 手腰にし、各外側の足より其の場にバランス(1)で右生は右足を一步右に出し、(2)で左足を右足前におき、右足を僅かに床よりはなす。(3)で右足を其の場におろす。(4)で左足を左に出し、(5)で右足を左足前におき、左足を僅かに床より離す、(6)は左足を其の場におろす左生はこの反對になす。(6)呼間なす、(7)は右足を右に出す、(8)は左足を右足前から交叉し、(9)までに右肩引きに一廻轉す、(10)は右足を右に一步出し、(11)で左足を右足前におき僅かに右足を床よりはなす、同時に右手頭上にアーチ方に挙げ、左手は下より掌を上を右手と向ひ合はす、(12)で右足を其の場に



おろすと同時に手を腰にす。(右生、左生は左右に離れて居る)

二 (12) 呼 前同様の動作を左足より始めて左方にバランス(6)呼間、左に交叉廻轉

一回、左にバランス一回左手上右手下(之で元の位置に還る)

三 (12) 呼 右左生向ひ合ふ、(1)右生は左手頭上にアーチ形に舉げ右手掌上向で右

に舉げ、右方に右膝を屈げ右足を前に踏み出し、(2)で左足を右足の傍に

運ぶと同時に右足を右方に舉ぐ。(3)は左足にてその場に跳び、右膝を屈

く。(4)(5)(6)は同様の動作をなし、(7)は(1)に同じ、(8)は(2)に同じ、(9)はあ

がれる右足を左足のある所に下すと同時に、足をかへて、左足を左に深

く膝を屈げ、右足に充分體重をおきて、(10)(11)は左足尖を左方によく伸ば

して出し其の方に向き左右の手をかへる。

四 (12) 呼 前同様の動作を左足より始めて元の位置にかへる。

【第二節】 (は調の部)

一 (12) 呼 始の縦隊にかへる、各外方の足より其の場でバランスをなす。

二 (12) 呼 右生の一番は(1)で右足を前に出すと同時に両手を體前肩の高さに掌を

下に圓を作る、(2)は足はそのまゝ、右手を上、左手を下に、しづかに開

く、(3)は右足で其の場で一回とび、左足を後方に舉ぐ、右上上、左手下にす、眼は手の下につける、(4)は左足を前に出すと同時に両手を體前肩の高さに掌を下に圓を作る、(5)は左手上右手下に開く、(6)は左足で其の場に一回とび右足を後方に舉ぐ、左手上、右手下にす、(7)(8)(9)は(1)(2)(3)に同じ、(10)(11)(12)は手腰にして左足より足踏二回し、最後の一呼は休止する。

三 (12) 呼 右生は(1)で右足を後に出し、(2)は休む、(3)は右足で一回飛ぶと同時に

左膝を屈げて前舉、右手頭上にアーチ形に舉げ、左手は下から右手に對

向さす、(4)は左足を後に出し、(5)は休む、(6)は左足一回飛ぶと同時に右

足屈膝舉股、左手頭上にアーチ形に舉げ、右手は下より左手に對向さす

(7)(8)(9)は(1)(2)(3)に同じ、(10)(11)(12)は左足より足踏二回、残りの一呼は休止

す。

四 (12) 呼 各外方の足より其の場にバランスをなす。

五 (12) 呼 右生の一番生は第二節二(12)呼と同じ動作を右方になす。

六 (12) 呼 右生一番生は第二節三(12)呼と同じ動作をなし、元の位置にかへる。

(以上第二節は一番生が前方に進む時、二番生は左右に開き、一番生が左右に開く時に、二番生は前方に進む。)

【第三節】 (へ調の部)

一(48)呼 第一節の動作を全部なす。

【第四節】 (變ろ調の部)

一(12)呼 右左生對向、(1)で右生は右膝を屈指右足を右に踏み出す、(2)は左足を右足に引きつけて兩踵を挙げ、(3)は踵を下す、(4)は右膝を屈指右足尖を強く右に向けて右に踏み出し、(5)は體を右肩引きに少し右に轉はす、(6)は右足で一回其の場でとび乍ら右に廻轉し後向きとなる(即ち外方を向き背中合せになる)と同時に左足を左方に振り挙げ、右手掌を外向きに頭上に圓みを帯びて挙げ左手は掌下に左に挙げ體を左に屈ぐ(口繪(一)の口)(7)は手腰と同時に左膝を屈指、左足を左方に踏み出す、(8)は右足を引きつけて舉踵、(9)は踵を下す、(10)は左膝を屈指左方に踏み出す、(11)は右足尖を左足につける、(12)は左足で一回飛ぶと同時に右足を右方に振り挙げ、左手掌を外向きに頭上に挙げ、右手掌を下に右に挙げ體を右に屈ぐ。

二(12)呼 脊中合せのまゝ、前同様の動作を右足よりなして元の位置に返へり對向になる。

三(12)呼 前第四節の一(12)呼と同じ動作を各外方になし右左生は離れる。

四(12)呼 前二(12)呼と同じ動作をなして元の位置に復す。

【第五節】 (へ調の部)

一(12)呼 縦隊のまま各外方にバランスを(1)より(9)までなし、(10)(11)は足踏しながら一番生と二番生は向ひ合つて對向す(12)は休む。

二(12)呼 四人圓形になりて右方圓周に全部左手頭上にアーチ形に挙げ、右手掌上に右に挙げ、第一節三(12)呼と同じ動作を全體右足よりなす。

三(12)呼 第一節四(12)呼と同じ動作を全體左足よりなして元の位置に復す。

四(12)呼 全部(1)より(6)までに右膝を屈げて前に出し左膝は地につけて兩手は前下から左右上にアーチ形に挙げ、残りの六呼間は其まゝの姿勢で待つ。



(一法歩) スンダクツロク 圖十七第

### 四三 クロツクダンス(其の一) (樂譜10)

隊形 體操の排列、腕、組して肘を肩の高さに保つ。  
歩法

一前踵横尖爪(16)呼 (1)左足で跳び、右足踵を前に出す(床を踵でこつんと打つ)(第七十圖)(2)左足で跳び、同時に右足爪尖を右に出す(足裏を右に向ける様に足を内に捻ぢて)(第七十二圖)(3)―(7)迄は(1)(2)を繰り返す、(8)右足を左足の所へかへして兩足を揃へる、次の(1)―(8)同動作を足を取り換へて左側で繰り返す。

二横踵爪尖(16)呼 (1)左足で跳び、右足踵を右に出し床を打つ、(2)左足で跳び、右足爪尖で床を打つ(1)で右踵で打つた場所を打つ、依て足の裏が外方―右方―を向ける、歩法一の(2)と同じ

要領で行ふ、(3)―(7)同場所を踵と爪尖とで交互に打ち、(8)で兩足を揃へる、次の(8)呼は同動作を左で繰り返す。

三後爪尖前踵(16)呼 (1)左足で跳び、同時に右爪尖を後に出して打つ、(2)左足で跳び、同時に右踵を前に出して床を打つ、(3)―(7)後前交互に以上を繰り返す、(8)で兩足を揃へる、次の(8)呼間は左側で同じ動作を繰り返す。

四内爪尖、外踵(16)呼 (1)左足で跳び、同時に右足爪尖を左足の小趾側につける、(2)左足で跳び、同時に右踵を右に出して床を打つ、(3)―(7)以上を繰り返す、(8)で兩足を揃へる、次の(8)呼間は同動作を左側で繰り返す。

五叩き廻り (1)左足で跳ぶ、同時に右踵を前に出して床を打ち、(2)―(6)は(1)を繰り返しながら次



(一法歩) スンダクツロク 圖一十七第

第に右足を右に廻して六度目に直横迄持つて行く、即眞前から眞横迄の九十度の間を右踵で六度打つ事になる、(7)右足を左足の位置に持つて来る同時に左踵を左に出し床を打つ、(8)左足を右足の位置に持つて来る、同時に右踵を右に出し床を打つ、次の(1)右足で跳び、同時に左踵を前に出し床を打つ、(2)―(6)前の(1)―(6)迄と同じく眞横迄床を打ち乍ら、廻し(7)左足を右足の處に持つて来る、同時に右踵を右に出し床を打つ、(8)右足を左足の處に持つて行き、同時に左踵を左に出し床を打つ、同時に速に左手下に右手は頭上にかぶる様に上にあげる、左手に眼を注ぐ。

#### 四四 クロツクダンス（其の二）（樂譜10）

隊形 體操の排列又は圓形、腕組して脛を肩の高さに保つ。(始から終まで)  
 歩法

一 前向き、後向き(180)度廻轉(16)呼 (1)左足で跳び、同時に右踵を前に出して床を打つ、(2)右足を左足の直ぐ前の左に交叉に持つて来ると同時に左膝を屈げて、左足を後にあげる、同時に左に廻りて後を向く、百八十度廻轉、(3)後を向いたまゝ、右足で跳び、同時に左踵を前に出して床を打つ、(4)左足を右足の直ぐ右に交叉に持つて来ると同時に、右膝を屈げて右足を後にあげる、同時に右に百八十度廻轉して始の様に前向にかへる、(5)―(7)右左交互に前を繰り返し、(8)で跳んで兩足を揃へて前向になる。  
 次の(1)右足で跳び、同時に左踵を前に出して床を打つ、(2)左足を右足の直ぐ右に交叉に持つて来ると同時に右膝を屈げて右足を後にあげる、同時に右に廻つて後を向く、(3)後を向いたまゝ、左足で跳び、同時に右踵を前に出して床を打つ、(4)右足を左足の直ぐ左に交叉に持つて来ると同時に